



進取の気風にあふれる総合大学

国立大学法人

鹿児島大学概要

KAGOSHIMA UNIVERSITY
2017



鹿児島大学公式
マスコットキャラクター

ざっつん

CONTENTS

はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学の基本的な目標
- 04… 大学憲章
- 05… 学生憲章
- 06… 教育目標／生涯学習憲章
- 07… 男女共同参画基本理念
- 08… ポリシー
- 11… 沿革

組織

- 13… 組織図
- 16… 役職員等
- 19… 役職員数

学部・大学院等

- 20… 学部
- 23… 大学院
- 26… 教育学部附属学校
- 27… 鹿児島大学病院
- 29… 附属動物病院
- 30… 教育関係共同利用拠点
- 31… 附属図書館
- 33… 総合教育機構
- 35… 研究推進機構
- 37… 社会貢献機構
- 39… 学内共同教育研究施設

学生等

- 43… 入学定員・現員数
- 46… 入学状況
- 48… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 49… 奨学生状況／経済支援制度

教育・研究・社会貢献活動

- 55… 教育プログラム等
- 56… リポジトリ／学術刊行物
- 57… 産学官連携活動
- 58… 公開講座等

国際交流

- 59… 学術国際交流協定締結状況
- 61… 海外研修支援
- 64… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 65… 外国人留学生

財務

- 67… 収入・支出決算額／予算
- 68… 外部資金受入状況

キャンパス

- 70… 土地・建物・船舶
- 71… 支援センター等
- 72… 地域交流施設ほか
- 77… 地区別建物等配置図
- 81… 位置図・交通アクセス
- 82… 所在地一覧

学 年 暦

学	期
前	期 ……4月1日～9月30日
後	期 ……10月1日～3月31日
入	学 式 ……4月7日
休	業 日
春	季 休 業 ……4月1日～4月10日
夏	季 休 業 ……8月1日～9月30日
冬	季 休 業 ……12月25日～1月8日
	鹿児島大学記念日 ……11月15日
	卒業式・修了式 ……3月23日

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
〃	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
〃	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
〃	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
前 田 芳 實	平成25年4月 1日～平成28年3月31日	
〃	平成28年4月 1日～	

※学長事務取扱

“南北600kmが私たちのキャンパスです”



前田 芳實 学長

鹿児島大学は長い歴史と豊かな伝統を持ち、その起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼります。明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、昭和24年に新制国立鹿児島大学として発足しました。

現在、鹿児島市内の3つのキャンパスに9学部と9大学院研究科を擁し、約9,000名の学部学生と約1,600名の大学院生（うち留学生約300名）が在籍する南九州最大の総合大学です。

これまでに10万人を超える卒業生を輩出し、国内はもとより世界の各地で、それぞれの専門的知識と技術を生かし、人類の平和と繁栄ならびに福祉の向上のために大きな足跡を残してきています。平成29年3月27日には、本学の卒業生である稲盛和夫名誉博士のご功績とご貢献を称え、「進取の気風広場」に「名誉博士 稲盛和夫像」を建立いたしました。

「進取の気風広場」は、学生の自主自律の学びの場として、本学の学生が切磋琢磨し、ここでの種々の活動を通して果敢に挑戦し、自己実現をはかるための場で、これからの世界を担う“進取の精神”を有する人材が育っていくものと確信しています。

本学は、学生への支援として、学生自らが困難な課題に果敢に挑戦する取組を支援する「進取の精神チャレンジプログラム」の実施やグローバル人材の養成などがあります。これまで、海外137の大学と学術交流協定を締結し、協定校との間で単位互換制度を設けるなど、学生が留学しやすい環境を整えています。

また、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、学生の海外研修を支援しています。その他に留学生を含む学生の向上心を育むため、学習環境の整備、社会貢献・研究活動の支援、奨学制度等の充実等を進めています。

本学は、第3期中期目標・中期計画期間において、南九州および南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての大学を目指しています。

具体的には、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化、大学の強みと特色を活かした学術研究の推進、地域のニーズに応じた社会人教育や地域連携の推進、機能強化に向けた教育研究組織体制の整備などです。鹿児島県は離島を含め、南北600kmの広い海域・地域を有します。この『南北600kmを鹿児島大学のキャンパス』として、教育、研究ならびに地域貢献を展開し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、地域とともに「進取の気風あふれる総合大学」を目指します。

国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標 第3期中期目標(平成28～33年度)

鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、アジア・太平洋の中の鹿児島という地理的特性を踏まえ、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第3期中期目標・中期計画期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローバルな視点を有する地域人材育成の強化

地域特性を活かした教育及び国際化に対応した教育を推進するとともに、高大接続の見直し、アクティブ・ラーニングの強化、教育の内部質保証システムの整備、学生支援の拡充等の教育改革に取り組みます。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

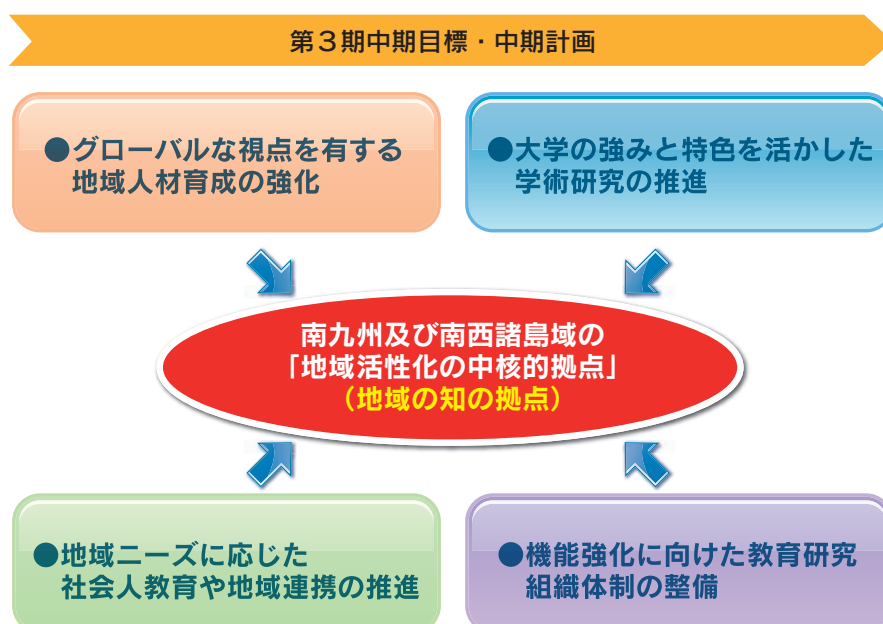
地域特有の課題研究「島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー」及び防災研究を推進するとともに、先進的な感染制御や実験動物モデル等の卓越した研究を促進します。

3. 地域ニーズに応じた社会人教育や地域連携の推進

知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域・産業界との連携を強化し、リカレント教育の拡充や地域イノベーションの創出等、「社会連携機構(仮称)」を中心に社会貢献の取組を推進します。

4. 機能強化に向けた教育研究組織体制の整備

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、学術研究院制度を効果的に活用し、地域の総合大学としての特色を活かした学部等の再編や奄美群島拠点の拡充等、組織の見直しや学内資源の再配分に全学的な観点から取り組みます。



鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



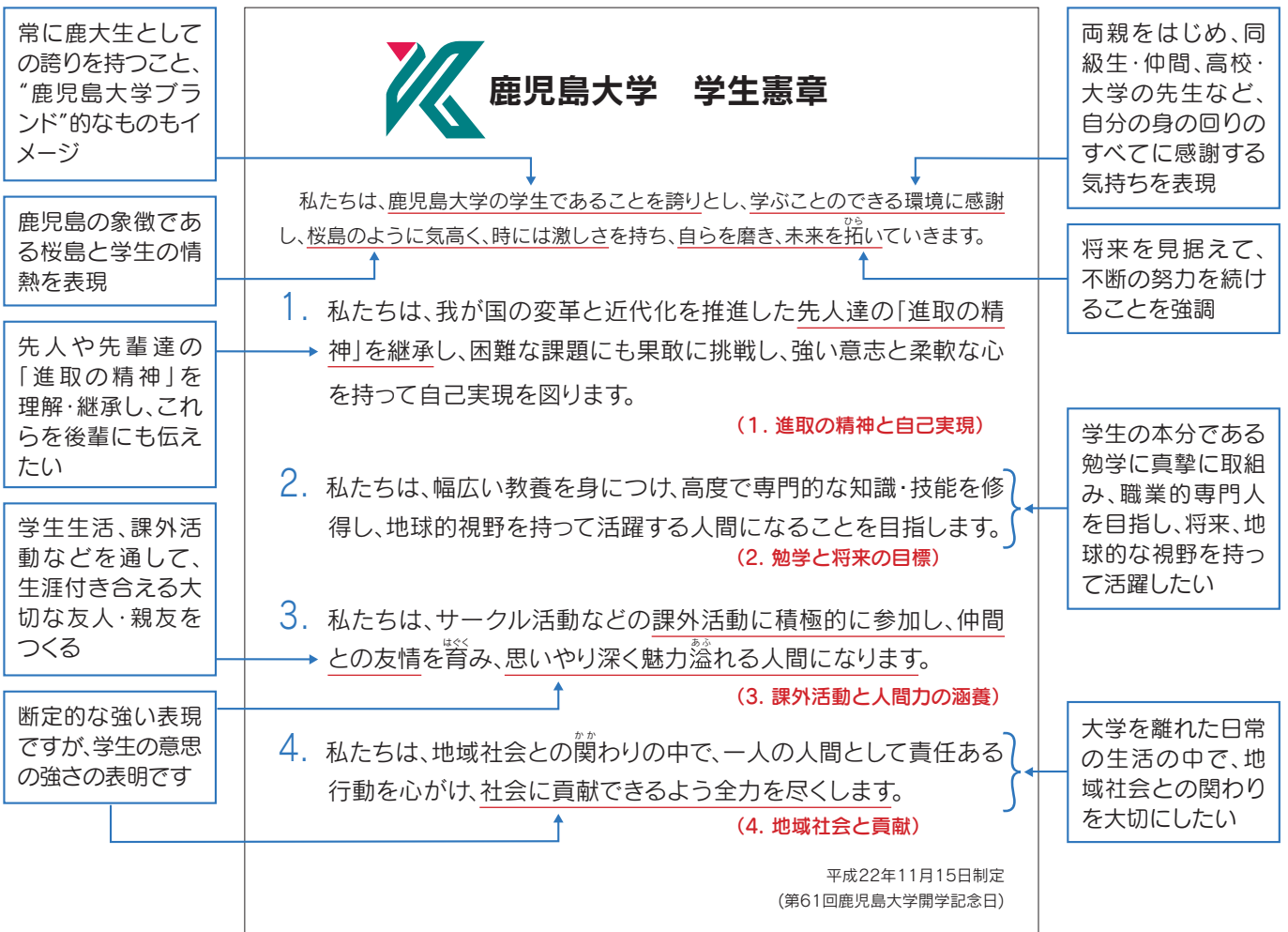
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説〉



鹿兒島大学教育目標

鹿兒島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的にに関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

鹿兒島大学生涯学習憲章

鹿兒島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿兒島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿兒島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿兒島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿兒島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

鹿児島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿児島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

<基本理念>

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

<行動指針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

平成22年1月21日制定
教育研究評議会決定

鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大学

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

■修士(博士前期)課程

修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
- 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■博士(博士後期)課程

博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
- 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■専門職学位課程

専門職学位課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門職学位を授与します。

- 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
- 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力

鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、学位授与の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、初年次から卒業まで系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

- 1.幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
- 2.自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
- 3.大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
- 4.アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
- 5.人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。

大学院

鹿児島大学大学院は、学位授与の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

■修士(博士前期)課程

- 1.研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 2.専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。

■博士(博士後期)課程

- 1.研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 2.鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

■専門職学位課程

- 1.高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
- 2.学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
- 3.専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

鹿児島大学入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

- 1.鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
- 2.人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人
- 3.知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
- 4.ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

このような学生を適正に選抜するために、学部の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

■修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程

- 1.学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
- 2.主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心をもつ人
- 3.自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

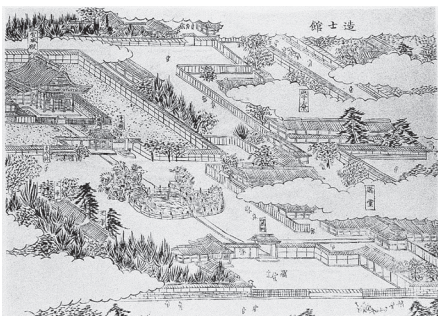
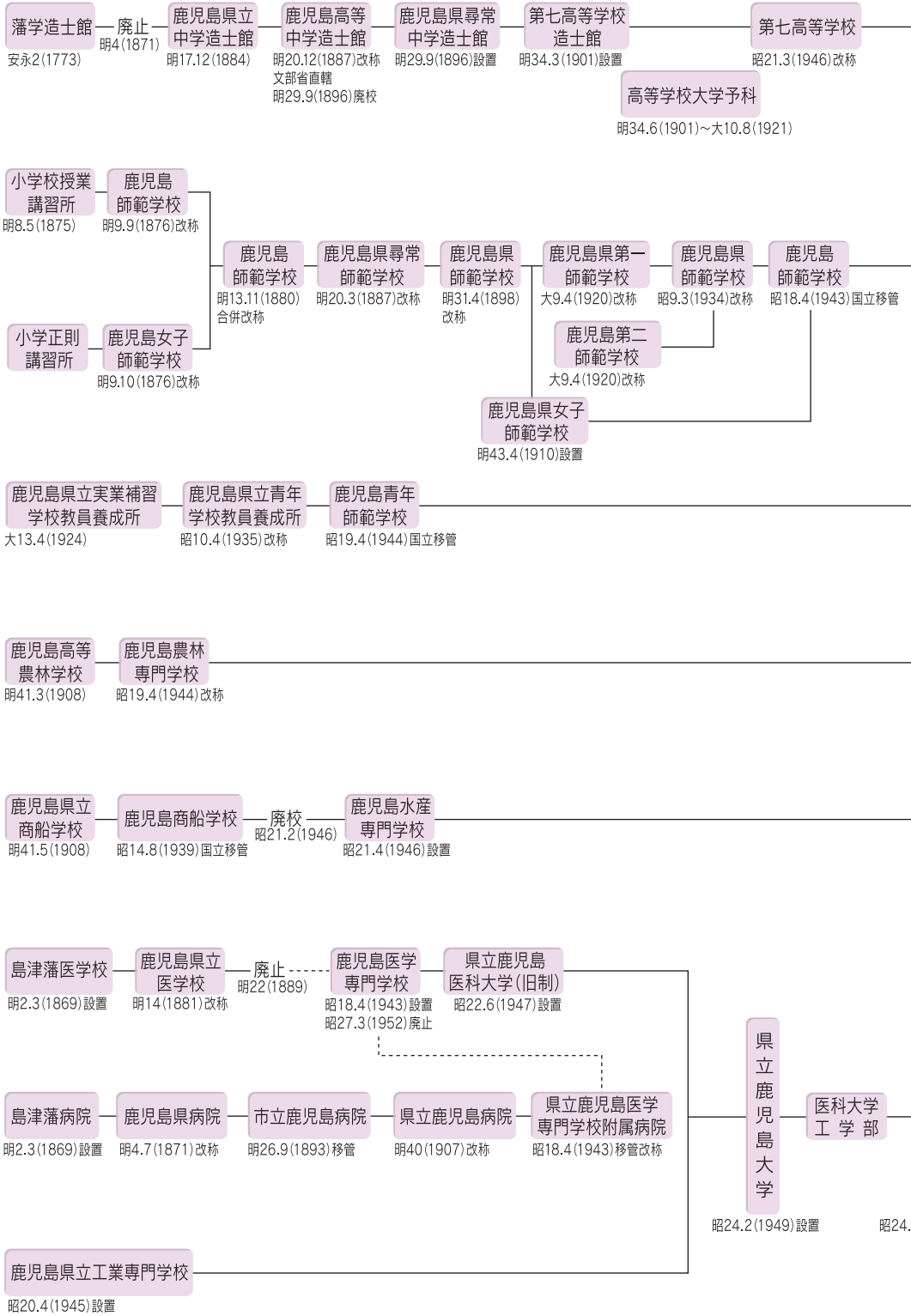
■専門職学位課程

- 1.高度専門職業人をめざす明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力をもつ人
- 2.専門職技能並びに実践力を身につけたい人
- 3.学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

鹿児島大学

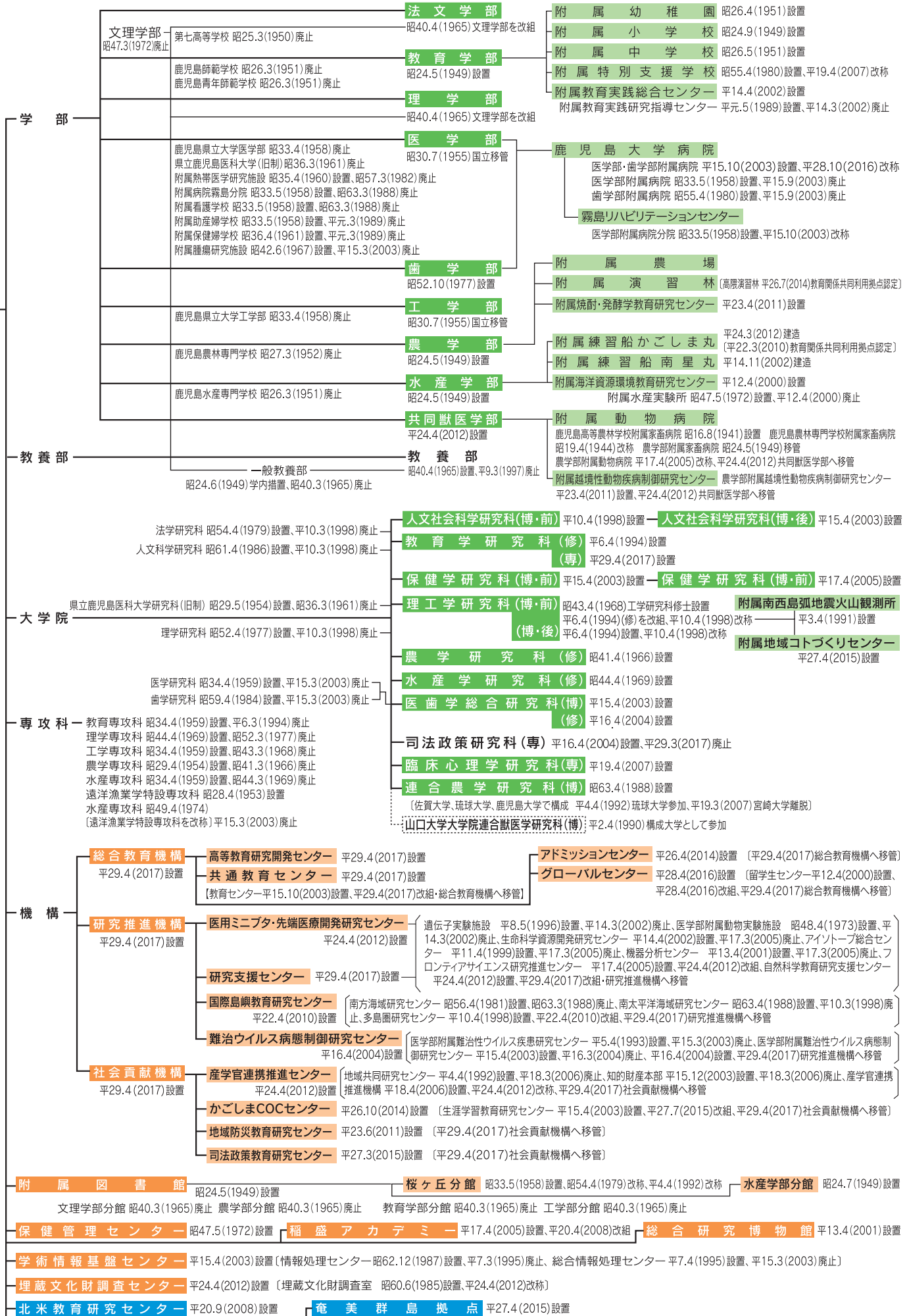
昭24.5(1949)設置



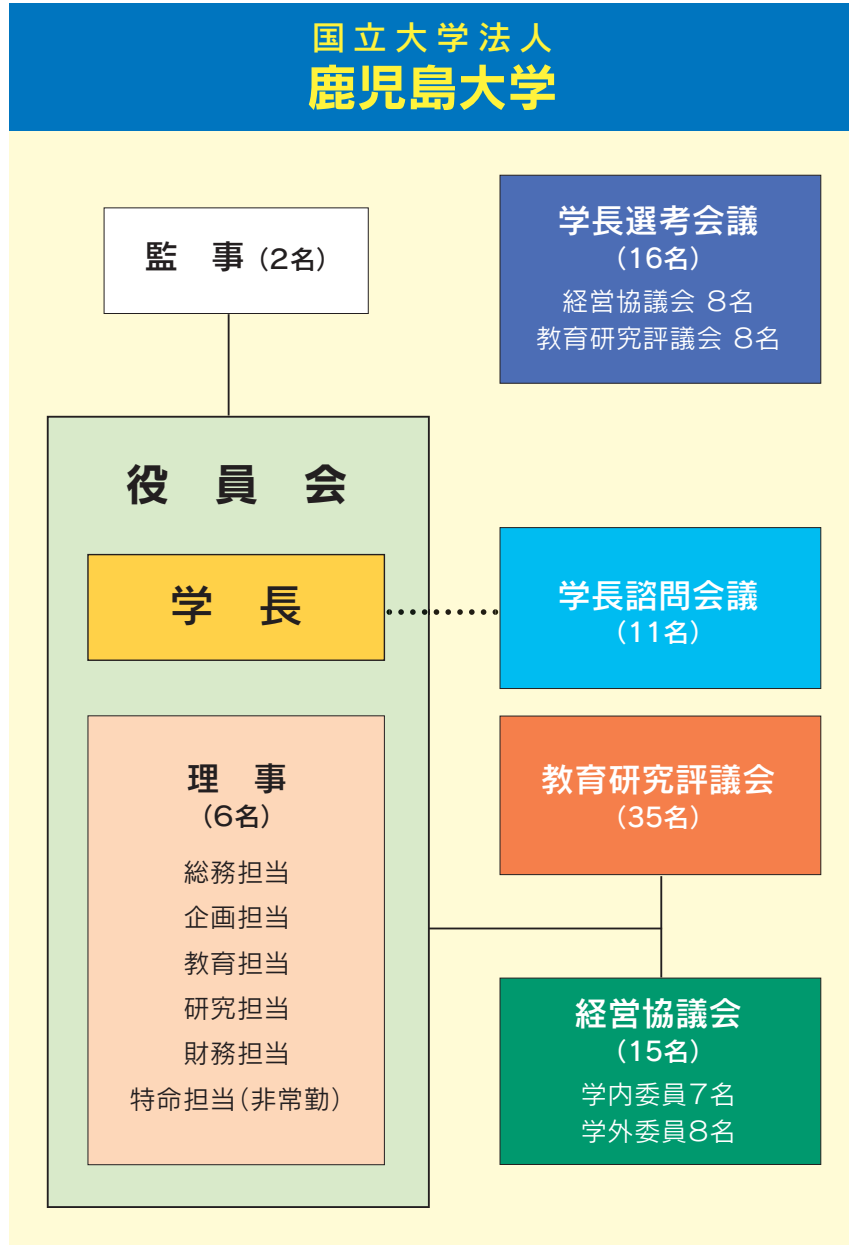
藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館『玉里文庫』所蔵)



第七高等学校造士館前景

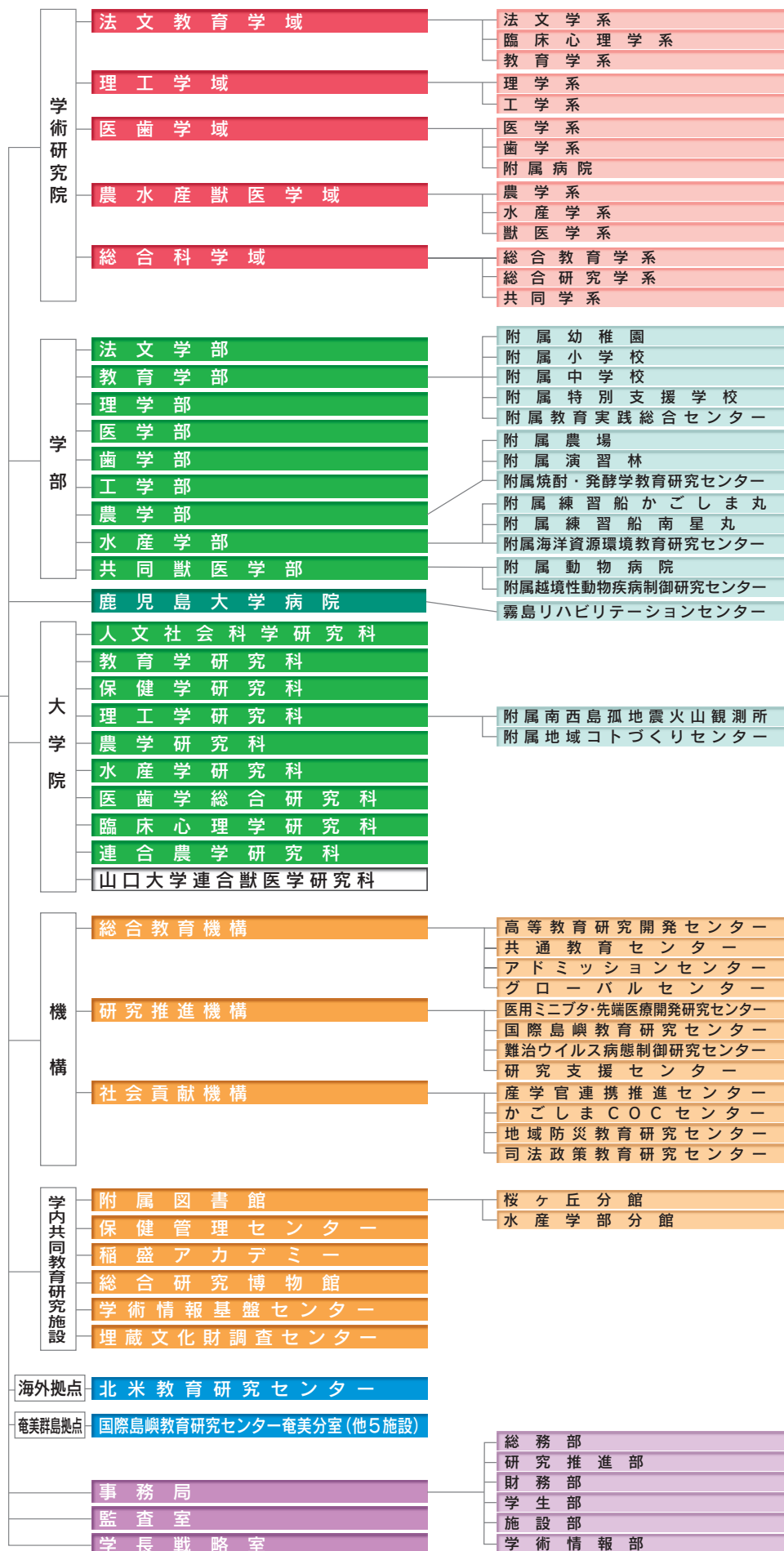


医療技術短期大学部 昭60.10(1985)設置、平11.4(1999)医学部保健学科に改組、平14.3(2002)廃止



(平成 29 年 5 月 18 日現在)

鹿児島大学



組
織

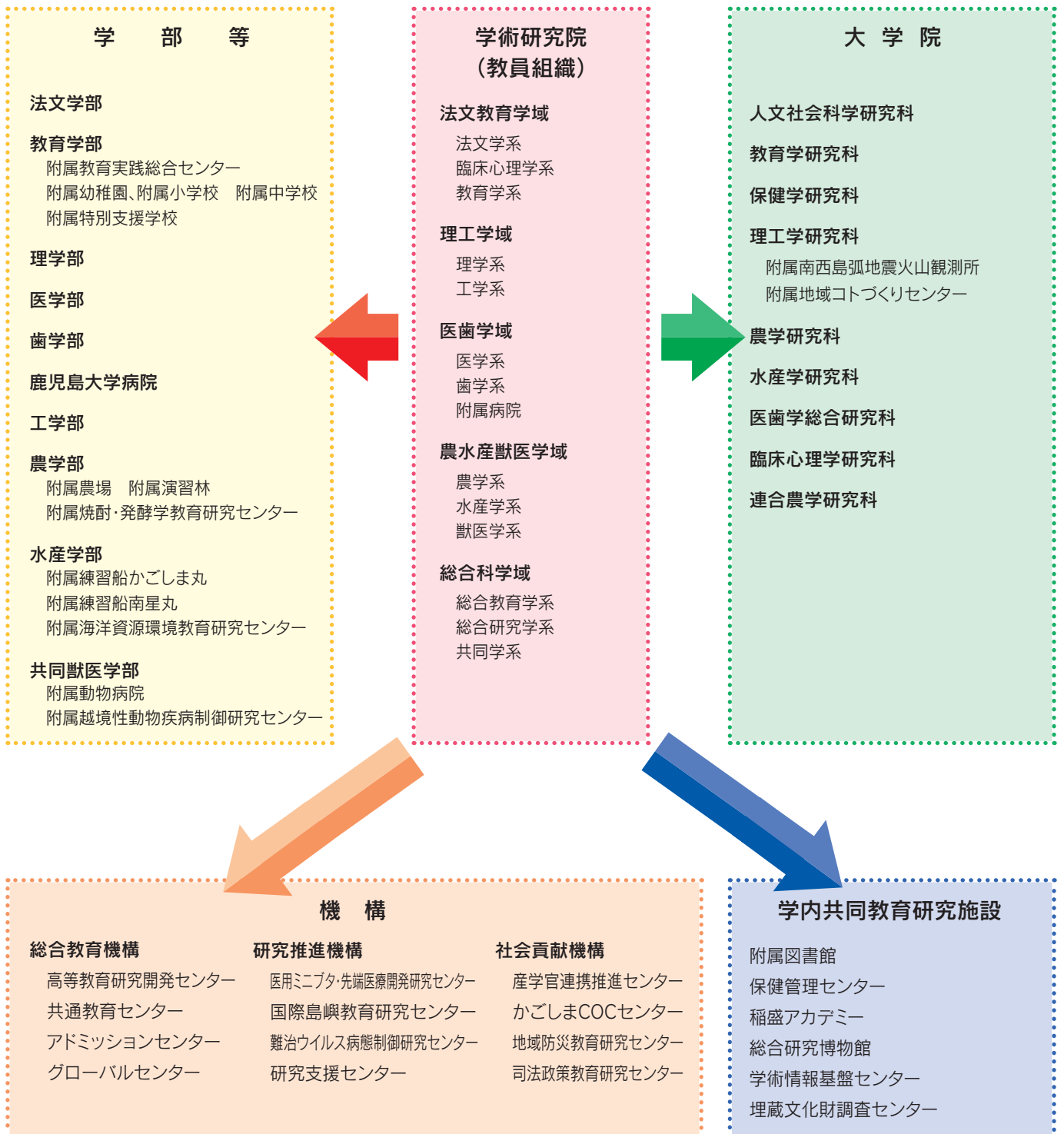
【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院(教員組織)を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と14の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

教育研究組織 (平成29年5月18日)



(平成29年6月1日現在)

役員

学 長	前 田 芳 實
理事・副学長 総務担当	島 秀 典
理事・副学長 企画担当	平 井 一 臣
理事・副学長 教育担当	清 原 貞 夫
理事・副学長 研究担当	高 松 英 夫
理事・副学長 財務担当	宮 田 裕 州
理 事 特命担当	石 窪 奈穂美
監 事 業務監査	伊牟田 均
監 事 会計監査	押 越 武 彦

副学長

附属病院担当	夏 越 祥 次
共通教育担当	飯 干 明 志
図書館企画担当	鈴木 廣 志
学生生活担当	前 田 雅 人
社会貢献推進担当	近 藤 英 二
国際企画推進担当	馬 場 昌 範
稲盛アカデミー企画担当	武 隈 晃
男女共同参画推進担当	橋 口 知 彦
情報企画担当	森 邦 彦

経営協議会委員

学 長	前 田 芳 實
鹿児島県副知事	岩 切 剛 志
笹川法律事務所弁護士	笹 川 理 子
鹿児島県高等学校長協会会長	月 野 功
鹿児島県立鶴丸高等学校校長	
NPO 法人地域サポートよしのねぎぼうず理事長	永 山 恵 子
日本有機株式会社代表取締役社長	野 口 愛 子
鹿児島県医師会副会長	野 村 秀 洋
今村病院名誉院長	
鹿児島県立短期大学学長	野 呂 忠 秀
株式会社エールム代表取締役	宮 原 隆 和
理 事	島 秀 典
理 事	平 井 一 臣
理 事	清 原 貞 夫
理 事	高 松 英 夫
理 事	宮 田 裕 州
鹿児島大学病院長	夏 越 祥 次

教育研究評議会評議員

学 長	前 田 芳 實
理 事	島 秀 典
理 事	平 井 一 臣
理 事	清 原 貞 夫
理 事	高 松 英 夫
理 事	宮 田 裕 州
副学長	飯 干 明 志
副学長	前 田 雅 人
副学長	近 藤 英 二
副学長	馬 場 昌 範
法文学部	高 津 孝 哲
	金 丸 哲
教育学部	土 田 理
	上 谷 順三郎

理学部	藏 脇 淳 一
	岡 村 浩 昭
医学部	河 野 嘉 文
	米 和 徳
歯学部	宮 脇 正 一
	山 崎 要 一
工学部	渡 邊 睦 美
	甲 斐 敬
農学部	岩 井 久 雄
	橋 本 文
水産学部	越 塩 俊 介
	佐 久 間 美 明
共同獣医学部	宮 本 篤 浩
	三 角 一 次
鹿児島大学病院長	夏 越 祥 次
理工学研究科長	本 間 俊 雄
医歯学総合研究科長	佐 野 輝
臨床心理学研究科長	中 原 睦 美
連合農学研究科長	初 井 和 朗
附属図書館長	鈴 木 廣 志
学内共同教育研究施設代表者	森 邦 彦
総合教育機構長	清 原 貞 夫
研究推進機構長	高 松 英 夫
社会貢献機構長	近 藤 英 二

学長諮問会議委員

学 長	前 田 芳 實
公益社団法人鹿児島県医師会会長	池 田 琢 哉
京セブ株式会社名誉会長	稲 盛 和 夫
日本航空株式会社名誉顧問	
鹿児島商工会議所会頭	岩 崎 芳太郎
鹿児島大学同窓会連合会会長	江 口 正 純
株式会社南日本新聞社代表取締役社長	逆瀬川 尚 文
株式会社南日本放送代表取締役社長	中 村 耕 治
日本芸術院会員/鹿児島大学名誉教授	中 村 晋 也
株式会社鹿児島銀行相談役	永 田 文 治
鹿児島県知事	三反園 訓
鹿児島市長	森 博 幸

学長補佐

総務担当	前 田 稔
人事担当	松 田 忠 大
企画・評価担当	尾 崎 孝 宏
法人評価担当	境 雅 夫
広報担当	中 島 宏
教務担当	有 倉 巳 幸
教育改善担当	大 前 慶 和
就職・学生支援担当	枚 田 邦 宏
入試統計担当	新 森 修 一
稲盛アカデミー担当	山 口 明 伸
研究推進担当	宮 田 篤 郎
キャンパス計画担当	木 方 十 根
入試広報担当	太 田 一 郎
国際教育担当	畝田谷 桂 子
財務担当	前 田 広 人
研究支援担当	梶 尾 達 哉
COC担当	木 村 郁 夫

事務局

総務部長	野澤知弘
総務課長	中村智子
企画評価課長	今辻幸二
人事課長(兼)労務調査室長	通山裕樹
情報企画課長	荒武祐宏
研究推進部長	永田恒久
研究協力課長	小澤結花
社会連携課長	松浦洋人
財務部長	能住勝徳
財務課長	有園文博
経理課長	原田隆
学生部長	内山修一
教務課長	西郷豊
共通教育課長	安田和義
学生生活課長	島森俊光
入試課長	池田淳之助
国際事業課長	安永政喜
施設部長	光武俊明
企画課長	壽福初美
建築課長	大石真二
設備課長	中之園昭一
学術情報部長	渡邊俊彦
情報管理課長	二石章
情報サービス課長	河野泰久

監査室

監査室長	古川加代子
------	-------

学長戦略室

学長戦略室長	平野謙一郎
--------	-------

学術研究院

学域長

理工学域長	本間俊雄
医歯学域長	佐野輝

学系長

法文学系長	高津孝
臨床心理学系長	中原睦美
教育学系長	土田理
理学系長	藏脇淳一
工学系長	渡邊睦
医学系長	河野嘉文
歯学系長	宮脇正一
農学系長	岩井久
水産学系長	越塩俊介
獣医学系長	宮本篤
総合教育学系長	清原貞夫
総合研究学系長	高松英夫
共同学系長	鈴木廣志

学部等

法文学部

学部長	高津孝
副学部長	金丸哲
副学部長	藤内哲也
事務長	西信博

教育学部

学部長	土田理
副学部長	上谷順三郎
副学部長	大坪治彦
副学部長	樋口晶彦
事務長	内山保一
附属教育実践総合センター長	武隈晃
附属幼稚園長	假屋園昭彦
附属小学校長	假屋園昭彦
附属中学校長	山口武志
附属特別支援学校長	今林俊一

理学部

学部長	藏脇淳一
副学部長	岡村浩昭
副学部長	藤井伸平
副学部長	小山佳一

医学部

学部長	河野嘉文
副学部長	米和徳
副学部長	嶽崎俊郎
副学部長	金蔵拓郎
副学部長	堤由美子

歯学部

学部長	宮脇正一
副学部長	山崎要一
副学部長	杉浦剛
副学部長	西村正宏

鹿児島大学病院

病院長	夏越祥次
副病院長(医科担当)	坂本泰二
副病院長(歯科担当)	山崎要一
薬剤部長	武田泰生
看護部長	市村カツ子
臨床技術部長	弓場裕之
事務部長	林勝幸
総務課長	白坂義浩
経営企画課長	脇野龍也
管理課長	中園康弘
医務課長	馬場園誠

工学部

学部長	渡邊睦
副学部長	甲斐敬美
副学部長	木下英二
副学部長	川畑秋馬

農学部

学部長	岩井久
副学部長	橋本文雄
副学部長	岩崎浩一
副学部長	北原兼文
附属農場長	津田勝男
附属演習林長	西野吉彦
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	玉置尚徳

水産学部

学部長	越 塩 俊 介
副学部長	佐久間 美 明
副学部長	大 富 潤
副学部長	山 本 智 子
事務長	有 川 博 幸
附属練習船かごしま丸船長	内 山 正 樹
附属練習船南星丸船長	幅 野 明 正
附属海洋資源環境教育研究センター長	西 隆 一郎

共同獣医学部

学部長	宮 本 篤
副学部長	三 角 一 浩
副学部長	三 好 宣 彰
附属動物病院長	遠 藤 泰 之
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小 原 恭 子

農学部・共同獣医学部等事務部

事務部長	
総務課長	鮎 川 秋 徳
学務課長	今 村 哲 郎

大 学 院

人文社会科学研究科

研究科長	高 津 孝
副研究科長	萩 野 誠

教育学研究科

研究科長	土 田 理
------	-------

保健学研究科

研究科長	米 和 徳
------	-------

農学研究科

研究科長	岩 井 久
------	-------

理工学研究科

研究科長	本 間 俊 雄
副研究科長	藏 脇 淳 一
副研究科長	渡 邊 睦
副研究科長	武 若 耕 司
副研究科長	半 田 利 弘
附属南西島弧地震火山観測所長	中 尾 茂
附属地域コトづくりセンター長	武 若 耕 司

理工学研究科等事務部

事務部長	
研究科・工学系総務課長	和 田 克 彦
研究科・工学系学務課長	坂 口 智 子
理学系事務課長	野 頭 俊 明

水産学研究科

研究科長	越 塩 俊 介
------	---------

医歯学総合研究科

研究科長	佐 野 輝
副研究科長	宮 田 篤 郎
副研究科長	菊 地 聖 史

医歯学総合研究科等事務部

事務部長	松野下 繁 文
総務課長	村 山 敬 三
学務課長	宮 崎 逸 男

臨床心理学研究科

研究科長	中 原 睦 美
副研究科長	稲 谷 心み枝

連合農学研究科

研究科長	初 井 和 朗
副研究科長	寺 田 竜 太

機 構

総合教育機構

機構長	清 原 貞 夫
高等教育研究開発センター長	小 山 佳 一
共通教育センター長	飯 干 明
アドミッションセンター長	清 原 貞 夫
グローバルセンター長	鈴 木 英 治

研究推進機構

機構長	高 松 英 夫
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター長	山 田 和 彦
国際島嶼教育研究センター長	河 合 湊
難治ウイルス病態制御研究センター長	池 田 正 徳
研究支援センター長	仲 谷 英 夫

社会貢献機構

機構長	近 藤 英 二
産学官連携推進センター長	近 藤 英 二
かごしまCOCセンター長	木 村 郁 夫
地域防災教育研究センター長	浅 野 敏 之
司法政策教育研究センター長	米 田 憲 市

学内共同教育研究施設

附属図書館	
附属図書館長	鈴 木 廣 志
桜ヶ丘分館長	仙 波 伊知郎
水産学部分館長	重 廣 律 男
保健管理センター所長	伊地知 信 二
稲盛アカデミー長	武 隈 晃
総合研究博物館長	本 村 浩 之
学術情報基盤センター長	森 邦 彦
埋蔵文化財調査センター長	中 村 直 子

海外拠点

北米教育研究センター長	中 谷 純 江
-------------	---------

奄美群島拠点

奄美群島拠点長	高 松 英 夫
---------	---------

■現員

(平成29年5月1日現在)

部 局 名	学 長		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		教 諭		小 計		事務・技術・その他						小 計		合 計		
	事務		技術		その他		小 計		事務		技術		その他		小 計		合 計		事務		技術		その他		小 計		合 計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
事務局	役員等	1		7	1													8	1							0	0	8	1
	監査室																	0	0	2	1					2	1		
	学長戦略室																	0	0	3						3	0		
	総務部																	0	0	45	15					45	15		
	研究推進部																	0	0	11	6					11	6		
	財務部																	0	0	24	5			1		25	5		
	学生部																	0	0	26	20		1			26	21		
施設部																	0	0	9		10				19	0			
学術情報部																	0	0	10	11					10	11			
学部等	法文学部					44	5	26	9	5					2			75	16	12	4					12	4	87	20
	教育学部					21	4	27	10	7								55	14	8	9	1	1						
	附属教育実践総合センター					2		1	1	1								4	1										
	附属幼稚園															1	4	1	4							12	16	145	57
	附属小学校															29	8	29	8	1	2			1	1				
	附属中学校															27	4	27	4	2									
	附属特別支援学校															17	10	17	10	1	1								
	医学部					14	7	3	3	2	3	4	14					23	27							0	0	23	27
	鹿児島大学病院					1		5	1	45	4	73	19					124	24	61	25	7	1	198	710	266	736	390	760
	農学部					29		30	2		1	5	1					64	4			2							
	附属農場					1		2										3	0			15	1						
	附属演習林					1		1										2	0			5							
	附属焼酎・発酵学教育センター					2		1	1									3	1	20	8					43	10	151	18
	共同獣医学部					13		12	1			3						28	1										
	附属動物病院							2				3						5	0			1			1				
附属超環境性動物疾患制御センター					1	1	1	1			1						3	2											
水産学部					12	1	17	1	2		8	3					39	5	7	6	4	2							
附属練習船かごしま丸																	0	0					20	1	46	9	88	15	
附属練習船南星丸																	0	0					10						
附属海洋資源環境教育センター					1		2				1						3	1			5								
大学院	教育学研究科					4		8										12	0							0	0	12	
	歯医学総合研究科(医学系)					39	2	16	4	16	2	42	18					113	26	34	14	6	5		2	40	21	225	64
	歯医学総合研究科(歯学系)					20		11	3	2		39	14					72	17										
	臨床心理学研究科					2	2	2	2									4	4							0	0	4	4
	連合農学研究科					1												1	0							0	0	1	0
	理工学研究科(理学系)					27	1	22	1	1	1	13	2					63	5	7	5					8	5	73	10
	附属南西島弧地震火山観測所					1						1						2	0			1							
理工学研究科(工学系)					42		44				29	3					115	3	13	7	20	5			33	12	148	15	
総合教育機構	高等教育研究開発センター							1	1									1	1							0	0	1	1
	共通教育センター					8	1	9	4	2	2	2	1					21	8							0	0	21	8
	アドミッションセンター							1										1	0							0	0	1	0
	グローバルセンター							3				1						0	4							0	0	0	4
研究推進機構	医用ミニタ・先端医療開発センター					2		2										4	0							0	0	4	0
	国際島嶼教育研究センター					2		2										4	0							0	0	4	0
	難治ウイルス病態制御研究センター					4		2	1									6	1							0	0	6	1
	研究支援センター					1		2				1						3	1		7					7	0	10	1
社会貢献機構	産学官連携推進センター					1		1										2	0							0	0	2	0
	保健管理センター					1		1				1						2	1		2			3		0	5	2	6
学内共同教育研究施設	稲盛アカデミー							1		1								1	1							0	0	1	1
	総合研究博物館					2								1				2	1							0	0	2	1
	学術情報基盤センター					2		2				1						5	0							0	0	5	0
	埋蔵文化財調査センター							1				1						1	1							0	0	1	1
合 計	1		8	1	329	28	303	46	98	15	303	78	3		100	26	1,145	197			1,485	16	230	718	608	877	1,556	1,074	

■学術研究院

学 域	学 系	教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		合 計			
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
法文教育学域	法 文 学 系	44	5	26	9	5					2	75	16		
	臨 床 心 理 学 系	2	2	2	2							4	4		
理工学域	教 育 学 系	27	4	36	11	8						71	15		
	理 工 学 系	28	1	22	1	1	1	14	2			65	5		
医歯学域	工 学 系	42		44				29	3			115	3		
	医 学 系	57	9	21	8	18	5	46	32			142	54		
	歯 学 系	20		11	3	2		39	14			72	17		
農水産獣医学域	附 属 病 院	1		3	1	42	3	73	19			119	23		
	農 学 系	33		34	3		1	5	1			72	5		
	水 産 学 系	14	1	19	1	2		8	4			43	6		
総合科学域	獣 医 学 系	14	1	15	2			7				36	3		
	総 合 教 育 学 系	8	4	11	5	2	3	2	1			23	13		
	共 同 学 系	11	1	11			1	2	2		1	24	5		
合 計			329	28	301	46	94	14	303	78	3	0	3	861	169

法文学部



法経社会学科／人文学科

藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く法文学部は、現在、法経社会学科(法学コース、地域社会コース、経済コース)、人文学科(多元地域文化コース、心理学コース)の2学科5コースを擁する南九州唯一の人文社会系総合学部となっている。

本学部では、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」という「3つの学び」を実現し、各コースの履修モデルにしたがった実践的できめ細かな専門教育と、学際的な知識と現場感覚を身につける「法文アドバンスト科目」などの教育プログラムを展開することで、総合的な観点から人間と社会を深く理解し、情報化、国際化および地域社会の変化にともなう諸問題に適切に対処できる現実的な課題解決能力を持った人材の育成を目指している。

教育学部



学校教育教員養成課程／特別支援教育教員養成課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。平成29年4月に、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程(初等教育コース、中等教育コース)と特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程の2課程に改組し、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

理学部



数理情報科学科／物理科学科／生命化学科
／地球環境科学科

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- * 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- * 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- * 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された島津藩医学校を前身とし、昭和18(1943)年に医学科の母体となる県立鹿児島医学専門学校が開校された。その後幾多の変遷をたどり、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部となった。また、平成10(1998)年には保健学科が設置され、現在では医学科と保健学科の2学科で構成されている。この間、多くの人材を輩出し、日本各地で医学・医療の進歩と国民の健康と福祉のため多大な貢献をしている。本学部では、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療を担う人を育成することを目指している。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、今年創立40周年を迎える。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と問題解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習などを通して地域医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を有し、ローカルにもグローバルにも活躍しうる人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

工学部



機械工学科／電気電子工学科／建築学科
／環境化学プロセス工学科／海洋土木工学科
／情報生体システム工学科／化学生命工学科

工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する7学科編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

農学部



農業生産科学科／食料生命科学科／農林環境科学科
／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、農業生産科学科(3教育コース)、食料生命科学科(3教育コース)、農林環境科学科(2教育コース)および獣医学科(平成23年度入学生まで所属)の4学科ならびに特別コース(農・水産分野からなる国際食料資源学特別コース)から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

水産学部



水産学科／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む海洋や陸水域をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の調査と保全、生活文化の創出の分野で、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保と海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、水産海洋科学分野において、高度で先端的な教育を受けた技術者を養成し、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を送り出している。平成15年には大学教育の分野では初めて、国際的な品質基準であるISO9001認証を取得した。平成27年には、カリキュラム改革に伴い、教育分野を再編成した。また、農学部と連携した国際食料資源学特別コースを設置し、グローバル人材の育成を強化している。

共同獣医学部



獣医学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学部では欧米水準を目指した獣医学教育を山口大学との共同教育課程により行う。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には、小動物診療センターに加え、大動物診療センター、軽種馬診療センター、大隅産業動物診療研修センターを置く。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年、既に開設されていた法学研究科〔昭和54(1979)年設置〕、人文科学研究科〔昭和61(1986)年設置〕を発展的に解消して設置された。現在は博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)からなっている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔奄美大島、徳之島分室〕を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成29年4月にこれまでの修士課程(教育実践総合専攻)に加え、新たに専門職学位課程(学校教育実践高度化専攻)が設置された。

教育実践総合専攻は、地域や現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導により、視野の広い教員等の人材を養成することを目指している。所定の科目を履修すると修了時に修士(教育学)の学位が与えられる。

学校教育実践高度化専攻は、これからの時代に求められる高度な教育実践と生涯学び続ける省察的实践家としての教師のあり方を具体的に体現する高度な専門職業人の養成を目的とする。所定の科目を履修すると修了時に教職修士(専門職)の学位が与えられる。

また、小学校・中学校・高等学校教員の一種免許状を所有していると、専修免許状を取得することもできる。

修士課程

- 教育実践総合専攻
- 専門職学位課程
- 学校教育実践高度化専攻

保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ高度専門職業人ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度専門職業人の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(4)離島・へき地を含めた地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

なお、平成24年度には放射線看護専門コース(定員2名)を、平成26年度には助産学コース(定員7名)を博士前期課程(看護学領域)に設置した。

博士前期課程

- 看護学領域
- 理学療法・作業療法学領域
- 博士課程・博士後期課程
- 保健学

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としている。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に1専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

博士前期課程

- 機械工学専攻 ■ 電気電子工学専攻
- 建築学専攻 ■ 化学生命・化学工学専攻
- 海洋土木工学専攻
- 情報生体システム工学専攻
- 数理情報科学専攻 ■ 物理・宇宙専攻
- 生命化学専攻 ■ 地球環境科学専攻

博士後期課程

- 総合理工学専攻

農学研究科

農学研究科は、昭和41(1966)年に開設され、現在、生物生産学専攻、生物資源化学専攻および生物環境学専攻の3専攻が設置されている。わが国有数の食料生産基地を抱え、かつ温帯から亜熱帯に分布する多様な生物資源と自然環境などを生かし、自然環境に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する研究に取り組んでいる。また、バイオテクノロジーや先端的技術を導入し、農林食産業分野における新技術の開発を中心にした教育研究を行っている。農林・食産業を取り巻く状況を把握し、広い視野と倫理観を持って科学技術を応用し、豊かな専門性と実践力・創造力、地域が抱える特色や課題に積極的に取り組む高度専門技術者の養成、さらに博士後期課程へ進学する発展的研究者を養成している。

修士課程

- 生物生産学専攻
- 生物資源化学専攻
- 生物環境学専攻

水産学研究科

水産学研究科では、水圏科学、水産資源科学、食品生命科学、水産経済学、水圏環境保全学の分野で高度技術者・研究者を養成するための研究と教育が行われており、修了者は水産企業や食品企業、研究機関などで専門的な仕事についている。この修士課程を修了した大学院生の中には、引き続き大学院連合農学研究科(博士課程)等に進学する者もいる。中国、東南アジアや中東、アフリカ、中南米からの留学生も多く、修了に必要な全ての学修を英語で行える留学生プログラムもある。

東南アジアの各大学との大学院生レベルでの交流事業も活発に行われており、平成27年度からは「熱帯水産学国際連携コース」がスタートした。アジア各国の研究科が開設した熱帯水産学国際連携プログラムでの学修により、グローバルな視野を有する国際的に通用性の高い人材の育成強化に努めている。

修士課程

- 水産学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座(63研究分野)、3プロジェクト講座、4連携講座のほか、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)を含む7研究センター、5寄附講座が設置されている。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野の専門職学位課程であり高度専門職業人の臨床心理士養成に特化した国立大学初の独立研究科として平成19年度に設置され、学位は臨床心理修士（専門職）である。教育理念に（1）個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材（2）教育、福祉、医療、司法矯正領域での即戦力となる人材の育成を掲げ、21世紀の国民のこころの健康に寄与することを目的としている。学内実習・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、講義・演習・実習を連動させた個別・少人数制の指導を展開している。

入学定員は15名で、修了後は全国各地で公務員心理職、教育委員会、児童養護施設、精神科や一般病院、家庭裁判所調査官補や少年鑑別所技官などの心理専門職に就き、9期生まで100%の就職率及び臨床心理士資格取得率96%の実績がある。



専門職学位課程

臨床心理学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業（タカラバイオ(株)）との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

（注）連合農学研究科は、3大学（佐賀、琉球、鹿児島）で構成



博士課程

生物生産科学専攻

応用生命科学専攻

農水圏資源環境科学専攻

山口大学連合獣医学研究科

山口大学連合獣医学研究科は、鹿児島大学、鳥取大学、山口大学が連合して設置している修業年限4年の博士課程で、基幹校は山口大学である。

本研究科は、1専攻（獣医学専攻）で、基礎獣医学、病態予防獣医学および臨床獣医学の3連合講座から成る。学生の入学定員は12人で創造性豊かで高度の専門知識と能力を有する人材を養成する。学生1人につき、主指導教員1人、副指導教員2人が指導に当たる一方、他大学の教員ならびに学生相互の討論を通して、相互の親睦と連携感の形成に役立っている。毎年、海外からの留学生も多く受入れている。

なお、平成30年度からは、本研究科を発展的に解消し、鹿児島大学および山口大学それぞれに新たに共同獣医学研究科を設置し（設置審査中）、獣医科学コースに加え、獣医専修コースをスタートさせる予定である。

（注）山口大学連合獣医学研究科は3大学（鹿児島、鳥取、山口）で構成



博士課程

獣医学専攻

教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20人、4歳児35人、5歳児36人、計3学級91人が在籍している。研究主題に「遊びの中で育まれる子どもの学び【1年次】～幼稚園教育要領改訂のポイントを踏まえた保育実践～」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指している。



附属小学校

附属小学校は創立140周年を迎え、児童数863名(学級数27)で国立大学法人の附属小学校の中でも大規模を誇る学校である。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習生の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命を持ち、複式教育や外国語教育における先進的な研究、実践でも高い評価を得ている。平成23年度から二学期制を導入しており、平成24年度の入学児童からは、1学級35名の定員としている。



附属中学校

附属中学校は、創立66年目を迎え、600名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒59人が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



鹿児島大学病院

鹿児島大学病院は、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、平成28年10月1日から病院名称を鹿児島大学病院とした。なお、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

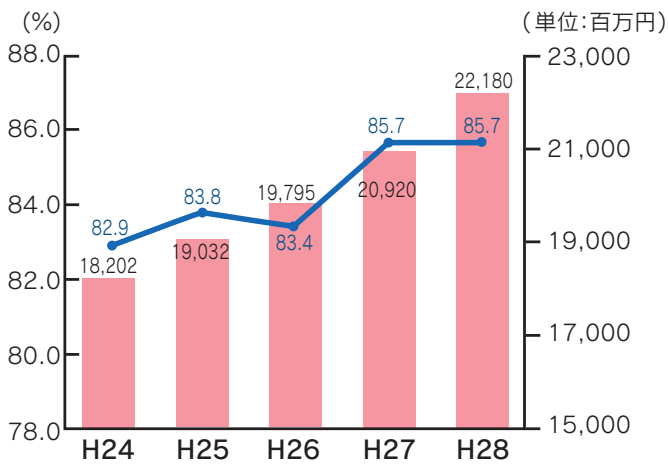
また、平成26年4月に、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。なお、平成28年4月には、災害拠点病院の指定を受けている。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」が設置され、センターが中心となり、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めている。

また、平成28年8月に九州の国立大学病院として初めて厚生労働省から、看護師の「特定行為研修指定研修機関」に指定されている。

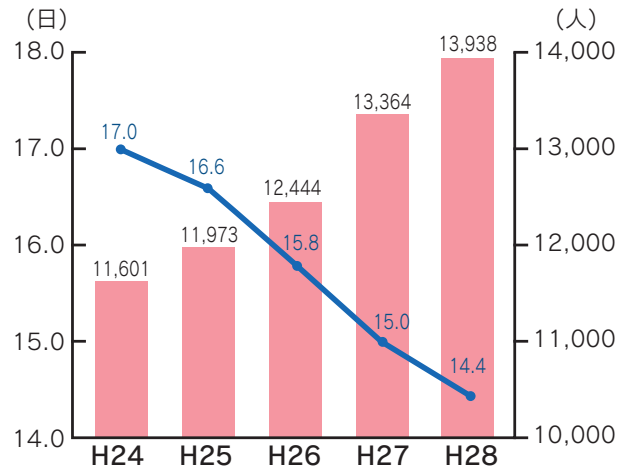
診療センター	部門科	中央診療施設等	プロジェクトセンター
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	<ul style="list-style-type: none"> ■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター(救急科) ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部(病理診断科) ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■ME機器センター ■探索的医療開発センター ■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療環境安全部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理室 ■臨床研究管理センター ■看護師特定行為研修センター 	■下垂体疾患センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科		薬 剤 部
脳・神経センター	神経内科 脳神経外科		看 護 部
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科		臨 床 技 術 部
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科		事 務 部
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科		
メンタルケアセンター	神経科精神科		
小児診療センター	小児科 小児外科		
女性診療センター	産科、婦人科		
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科		
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科		
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科		
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科		
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科		
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科		
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科		
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科		

診療報酬請求稼働額と病床稼働率の推移



	H24	H25	H26	H27	H28
稼働額 (百万円)	18,202	19,032	19,795	20,920	22,180
病床稼働率 (%)	82.9	83.8	83.4	85.7	85.7

平均在院日数 (一般病床) と新入院患者数の推移



	H24	H25	H26	H27	H28
新入院患者数 (人)	11,601	11,973	12,444	13,364	13,938
平均在院日数 (日)	17.0	16.6	15.8	15.0	14.4



▲医科診療棟



▲歯科診療棟

病床数

	床
一般病床	662
精神病床	40
感染症病床	1
霧島リハビリテーションセンター	50
結核病床 (休床)	13
鹿児島大学病院合計	766



▲霧島リハビリテーションセンター

附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院である。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能している。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもある。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応している。共同獣医学部では国際的な獣医学教育に関する認証取得を目指しており、その一環として動物病院を平成29年に、伴侶動物の診療を行う小動物診療センターと産業動物の診療を行う大動物診療センターへそれぞれ新営、改修設置した。



▲動物病院建物外観



▲軽種馬診療センター



▲手術の様子

診療時間	9:00 ~ 11:30 (予約制)
月~金曜日	14:00 ~ 16:30 (予約制)
	19:00 ~ 翌6:00 (予約制・夜間診療)
休診	土曜日 日曜日 祝祭日

平成28年度診療件数			
伴侶動物			
伴	侶	系	4,139件
検	査	系	775件
産業動物			
馬	診	療	科
			375件
牛・山	羊	診	療
		科	552件

教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設された。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行う。

水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年度に、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定され(平成26年度再認定)、水産・海洋系カリキュラムを持ちながら練習船を保有しない全国の大学に質の高い洋上実習の機会を提供している。平成24年3月には、かごしま丸新船が竣工し、30年にわたり活躍してきたかごしま丸旧船の代船として、平成24年度から共同利用に投入された。かごしま丸新船は、電気推進機を採用し、横・斜め移動やその場回頭など特殊操船能力を持ち、防振・防音対策を施したことに加え、実験室の拡充により実習環境が大幅に向上した。また、水産・海洋分野の幅広い分野の教育のために搭載した、様々な漁具や生物標本採集具、海洋観測機器など最新の設備を活用し、本学及び利用大学の学生・大学院生に高度な洋上教育を実施できる。

拠点認定以降、共同利用の規模は徐々に拡大し、国内の大学の水産・海洋系学部・研究科による利用に加えて、文系学部や放送大学の全国開放型授業、更には水産学部の主な対象域でもある東南アジア域内の大学に国際共同利用されるなど、充実した共同利用が展開されている。



農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がるようになってきた。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度より高隈演習林は「鹿児島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点」として文部科学省より教育関係共同利用拠点到認定された。平成26年度は15大学等から延べ368人、平成27年度は24大学等から延べ702人、平成28年度は26大学等から延べ705人の利用があり、平成29年度も林業教育、環境教育、防災教育、動植物教育など多様な分野でさらに多くの利用が計画されている。



附属図書館

附属図書館は、中央図書館(郡元地区)、桜ヶ丘分館(桜ヶ丘地区)および水産学部分館(下荒田地区)の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、地域住民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングcommonsとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を無償で国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋地上5階地下2階建 (平成8年12月竣工)	
延床面積	12,697m ²
閲覧スペース	4,459m ²
サービススペース	2,044m ²
収蔵スペース	2,359m ²
歴史資料展示室	140m ²
事務室等	775m ²
その他	2,920m ²
総座席数	910席
収容可能冊数	972,000冊



【桜ヶ丘分館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

(偶数月の第1土曜日は14:00～18:00)

休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋3階建 (昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築)	
延床面積	1,980m ²
閲覧スペース	1,229m ²
サービススペース	208m ²
収蔵スペース	189m ²
事務室等	211m ²
その他	143m ²
総座席数	170席
収容可能冊数	192,000冊



【水産学部分館】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

- 日曜日、国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建 (昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)	
延床面積	795m ²
閲覧スペース	176m ²
サービススペース	137m ²
収蔵スペース	280m ²
事務室等	34m ²
その他	168m ²
総座席数	123席
収容可能冊数	63,500冊



【平成28年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	317	227,148	84,207	311,355	52,471	363,826
桜ヶ丘分館	344	57,857	26,702	84,559	13,248	97,807
水産学部分館	276	27,964	4,826	32,790	1,581	34,371
合 計		312,969	115,735	428,704	67,300	496,004

【蔵 書】

図書(冊)

(平成29年4月1日現在)

区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計	
和漢書	中央図書館	66,317	42,374	79,579	203,880	105,888	68,302	52,097	30,679	28,275	70,708	748,099
	桜ヶ丘分館	845	1,861	709	4,962	91,942	984	329	678	1,619	1,511	105,440
	水産学部分館	1,681	416	1,287	6,837	13,229	6,751	13,436	917	1,201	771	46,526
	小 計	68,843	44,651	81,575	215,679	211,059	76,037	65,862	32,274	31,095	72,990	900,065
洋書	中央図書館	14,945	18,137	17,055	53,046	81,894	19,118	19,973	5,167	13,665	32,513	275,513
	桜ヶ丘分館	552	230	79	611	75,364	56	37	54	308	427	77,718
	水産学部分館	411	106	252	630	5,420	2,257	4,143	246	275	70	13,810
	小 計	15,908	18,473	17,386	54,287	162,678	21,431	24,153	5,467	14,248	33,010	367,041
合 計	84,751	63,124	98,961	269,966	373,737	97,468	90,015	37,741	45,343	106,000	1,267,106	

学部・大学院等

雑誌(総種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	22,434	9,687	32,121
桜ヶ丘分館	4,043	2,882	6,925
水産学部分館	2,742	1,177	3,919
合 計	29,219	13,746	42,965



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
市来文庫	伊佐市の郷土史家であった市来政香氏旧蔵書 政香氏収集の文書記録類 同様に市来政香氏旧蔵書で当館所蔵の中世・近世の市来家文書に連なる史料9冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馱謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	144点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

総合教育機構

総合教育機構は、本学における学士の質保証、共通教育の実質化と高度化、そして地域人材の育成を目的として設置された。具体的には、入学者選抜方法の改善、全学的な教育の改革・改善と体系的カリキュラムの実現、グローバルな教育の展開、そして学部横断型の地域人材育成であり、以下の4センターから構成されている。

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育（≒大学）について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行う。また、全学的な教育カリキュラムの構築と改善、教育改革についての提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発などを実施している。限られた学内資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が本センターに期待されている。

すなわち、本センターの活動には、「大学において大学を研究する」あるいは「大学における学問研究の対象として大学という社会的あるいは一般的なシステムを捉える」という側面と、「鹿児島大学において鹿児島大学について調査・検討する」という側面がある。そしてこの2つの取り組みの成果を、鹿児島大学における教育の改善につなげていくとともに、我が国の高等教育の発展にも資することが、本センターの大きな役割である。

近年、上記のように「大学が大学自身を調査・検討すること」をIR (Institutional Research)、「教職員の能力開発を行うこと」をFD (Faculty Development) やSD (Staff Development) と呼んでいる。これらの活動のうち、FDやSDについては大学の義務であるとされ、本学においても全学や各学部のFD委員会を中心に様々な取り組みが行われている。本センターは全学FD委員会において、企画立案の役割を担っている。

さらに、学部横断型の全学的な取り組みである「地域人材育成プラットフォーム」において、教育プログラムの構築及びコーディネートを担当するのも本センターである。この「地域人材育成プラットフォーム」は、成績評価のための各種ループブック、学習のプロセスと成果を管理するためのラーニング・マネジメント・システム(LMS)やe-ポートフォリオの導入などを通じて、地域人材育成の基盤というだけでなく、鹿児島大学における教育改革の重要な牽引役となる。その質的向上及び量的拡大は、本学の将来を左右する大きな試金石であるといえる。



▲平成28年度FD・SD合同フォーラム(鹿児島大学FD委員会・大学地域コンソーシアム鹿児島共催)



▲総合教育機構地域人材育成プラットフォームパンフレット

共通教育センター(共通教育)

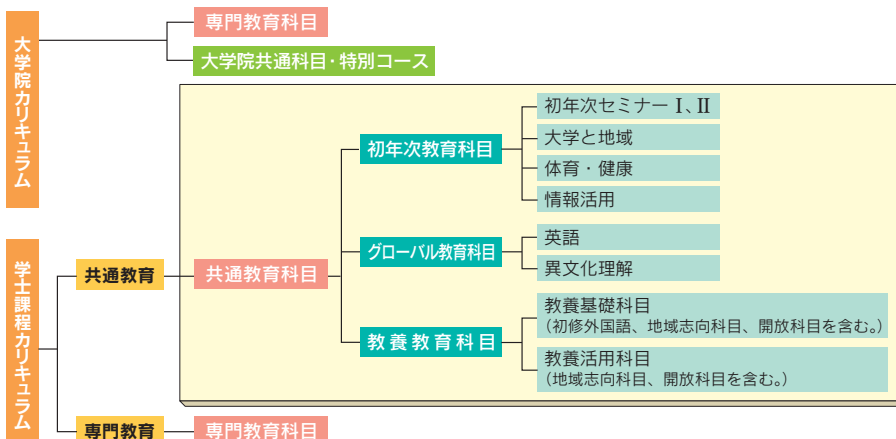
平成15年10月に設置された教育センターは、平成29年4月の総合教育機構の設置に伴い共通教育センターと高等教育研究開発センターへ再編された。

共通教育センターは、共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織であり、全学協力体制に基づき実施する共通教育及び学芸員資格科目に関する企画・立案・実施、並びに教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、鹿児島大学における教育の充実・発展を図ることを目的としている。

また、共通教育は、旧制第七高等学校時代以来連綿と引き継がれてきた学士課程教育の一つであり、大学での学び方や大学と地域との関わりを理解するとともに、自主自律的に学び続けるための基盤となる初年次教育、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となるグローバル教育、社会に貢献できる能力を養成するための教養教育をおとして、真理を愛し高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい国際社会で活躍しうる人材の育成を目指しており、鹿児島大学における教育の礎となっている。

鹿児島大学教育課程

(大きな枠内が共通教育センターの教育)



▲共通教育科目「屋久島の環境文化1-植生-」授業風景



▲共通教育棟1号館

アドミッションセンター

アドミッションセンターは、入学者選抜方法等の調査・研究、入学試験データの分析・評価等を行うとともに、各学部と共同し、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜機能の検証、入学後の学業成績の追跡調査、学生確保に係る広報活動及び全国的な志願者動向を踏まえた志願状況の分析等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として活動している。

【業務内容】

- 高等学校及び高校生と大学との相互理解を深める「高校訪問」の企画実施
- 高校生やその保護者等の団体に対して進学支援の機会を提供する「大学訪問」の実施
- 鹿児島県内各地への地域貢献及び連携強化を目的とした「鹿児島大学単独主催説明会」の企画実施
- 全国的な入試動向に関する説明会の企画実施



▲説明会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育と研究の国際化推進を目的に平成28年4月に設置された。次の3部門から成り、国際共同教育研究の促進を支援すると共に日本人学生の海外への留学、外国人留学生の受け入れを促進する。

キャンパス・グローバル化部門

- 国際プロジェクトの支援
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

学生海外派遣部門

- 国際教育プログラム(P-SEG)の実施
：海外研修、学術交流協定校、トビタテ!留学JAPAN等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の協働学習促進

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、異文化理解、日本文化教育
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進



▲シンガポール学生海外研修の様子



▲37カ国307名の外国人学生が留学中!

研究推進機構

本学は、第3期中期目標・中期計画期間において、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化するために大学の強みと特色を活かした学術研究をすることを基本目標の一つに掲げている。

研究推進機構は、第3期中期目標・中期計画に基づき、地域活性化に繋がる研究力を強化するため、学内共同教育研究施設等の機能を見直し平成29年4月に設置された。本学における研究推進に係る人的及び物的資源の有効活用を促進し、本学の強みと特色を活かした学術研究の質的向上とその推進に寄与することを目的としている。

機構の下部組織として医用ミニブタ・先端医療開発研究センター、国際島嶼教育研究センター、難治ウイルス病態制御研究センター、研究支援センターの4施設を設置している。

医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点的先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野(山田和彦教授)では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

遺伝子発現制御分野(佐藤正宏教授)では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタ及び疾患モデルブタの開発を目指している。他方、マウスを用い臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野(松原修一郎准教授)では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・薬剤耐性など癌の特性を担う癌幹細胞に対する治療戦略の開発研究、腫瘍内微小環境で癌細胞を取り巻く宿主の細胞群と癌細胞との相互作用における癌幹細胞の役割についての基礎研究およびミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を研究課題の中心としている。

また産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第3回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2015年3月24日)

国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象にした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究をおこなうとともに、英文学術誌『South Pacific Studies』を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、公開市民講座を通して研究成果を地域に還元している。平成28年度はマイクロネシアにおいて兼務教員とともに総合学術調査をおこない、国際ワークショップを1回、研究会を10回、シンポジウムを2回開催した。鹿児島の島嶼域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために「鹿児島の島々』『鹿児島大学島嶼研ブックレット』を発刊するとともに、英文書籍『The Amami Islands』や『The Osumi Islands』を出版して海外にも成果を発信している。また「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースの「島嶼学概論Ⅰ」では三島村硫黄島、「島嶼学概論Ⅱ」では十島村中之島、「太平洋島嶼学特論」ではマイクロネシア連邦・グアムにおいて一部講義をおこなっている。また、教員免許状更新講習を奄美大島において行っている。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っている。



▲大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースのオープン科目「太平洋島嶼学特論」の様子(マイクロネシア連邦チューク州)

難治ウイルス病態制御研究センター

難治ウイルス病態制御研究センターは平成5年度に医学部附属施設として設置され、平成15年度の大学院医歯学総合研究科附属施設への改組を経て、平成29年度から全学施設になった。現在、「抗ウイルス化学療法研究分野」、「分子ウイルス感染研究分野」、「分子病理病態研究分野」、「血液・免疫疾患研究分野」の4つの研究分野が設置されている。

センターでは、鹿児島県に多い成人T細胞白血病ウイルス（HTLV-1）を中心に、HIV-1、肝炎ウイルス（HCV、HBV）など慢性化する難治性ウイルスの診断・予防・治療に関わる研究を行っている。HTLV-1のキャリアは我が国では100万人以上と推定されており、南九州や沖縄に集中している。なかでも、鹿児島県には約20万人の感染者が存在し、鹿児島大学が総力をあげて取り組むべき重要な課題となっている。HTLV-1の感染が原因で起こる成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）は一旦発症すると致死的な造血器腫瘍だが有効な治療法は開発されていない。また、鹿児島大学で発見・命名されたHTLV-1関連脊髄症（HAM/TSP）は進行性の中樞神経疾患で、患者のQOLを著しく低下させる。センターには、ATLやHAM/TSPの患者から得られた貴重な臨床検体が多数保管されているので、これらのリソースを活用して国内外の研究施設との共同研究を推進し、新規診断治療法の開発を目指す。

全学施設への移行にあたり、桜ヶ丘キャンパスの大学院医歯学総合研究科、鹿児島大学病院のみならず、理工学研究科、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター等との連携による全学的研究体制を強化して、難治性のウイルス疾患を撲滅するミッションに取り組んでいる。



▲センター建物



▲センター実験室

研究支援センター

研究支援センターは、5施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。

機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。環境保全施設は、学内の廃液・排水等の適正な管理を行っている。



▲走査型X線光電子分析装置(島津AXIS-ULTRA DLD)

社会貢献機構

社会貢献機構は教育、研究と並び、大学の重要な役割である社会・地域貢献の遂行を担っている。鹿児島大学における社会貢献に係る人的及び物的資源の有効活用を促進し、教育研究成果を活かした社会貢献活動の更なる推進を図るため、これまで独自の組織としてそれぞれ社会・地域貢献活動を行ってきた産学官連携推進センター、かごしまCOCセンター、地域防災教育研究センター及び司法政策教育研究センターの4センターをまとめ、平成29年4月に設置された。社会貢献機構では、鹿児島大学の第3期中期目標期間における基本的な目標である「南九州及び南西諸島域における地域活性化の中核的拠点」を目指し、自治体・企業との連携協力による共同研究・受託研究等を通じて地域の防災、医療、観光、エネルギー、製造業、農林畜産業、水産業等に関する課題の解決、地域イノベーションの創出、その活動成果の教育への反映等の取組を行っている。

産学官連携推進センター

産学官連携推進センターは、地域産業の課題解決と地域イノベーションの創出のため、産業界等と本学の教職員・学生との連携を推進する活動を計画・実践する組織である。地域共同研究センター、知的財産本部、ベンチャービジネスラボラトリに起源を有する産学官連携部門、知的財産部門、事業化支援部門と文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」事業を推進するCOC+推進部門の4部門からなる。

■産学官連携部門

- 企業・地域社会等からの技術相談対応
- 共同・受託研究、技術移転、プロジェクト組成、技術開発支援などのコーディネート
- 研究シーズ情報の発信及び産学連携基盤構築

■知的財産部門

- 知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進
- 知的財産に係る教育・啓発活動
- 知的財産関係契約業務及び支援

■事業化支援部門

- 事業化が期待できる学内シーズに係る研究活動及び事業化の支援
- 教員・学生による大学発ベンチャーの事業化支援によるインキュベーション活動
- 大学院全学横断的教育プログラムの技術経営(MOT)コース/「技術経営と社会連携」及び「知的財産戦略構築実務論」の開講

■COC+推進部門

- 地域人材育成プラットフォーム「かごしまキャリア教育プログラム」の提供
- 県内7校・その他事業協働機関との協働によるインターンシップや就職支援の整備充実
- 食と観光に関する産業を中心とした新規事業創出及び既存雇用拡大による雇用創出

※COC+事業の詳細はP54参照



▲大学等発法人支援のための施策検討ミーティング(事業化支援部門)



◀研究シーズ集 2017-2018

かごしまCOCセンター

かごしまCOCセンターは、平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された「火山と島嶼を有する鹿児島地域の地域再生プログラム」(COC事業)を推進する地域活性化の中核拠点として同年10月に設置され、平成27年7月には生涯学習教育研究センターを再編統合した。本学が地域とともに社会の発展に貢献する総合大学となるために、特徴的な地域課題(防災、災害時医療、農林畜産業、水産業、水、エネルギー、離島医療、流通輸送、地域教育、環境、観光等)を自治体と協働して解決し、その成果を地域志向力のある人材養成や地域社会の再生・活性化に繋げる活動を行っている。

■教育部門

- 大学と地域の関わり合いを通じて、大学で学ぶための基礎学力を育成
- 鹿児島の現状と課題に関する理解と地域マインドの醸成
- 多様な地域志向科目(共通教育)及び地域関連科目(専門教育)による地域課題解決力や地域貢献力の養成

■研究部門

- 地方自治体との連携による地域課題解決の推進
- 地域課題に取り組む地域志向教育研究の推進とその成果の活用
- 島嶼、環境、食と健康などの重点領域研究の推進

■社会貢献・生涯学習部門

- 地域志向型研究成果の生涯学習への展開
- 地域ニーズに即した社会人向け専門教育、生涯学習の場の提供
- 地域志向型視点を持った教員と学生による研究成果の現場活用の推進



▲かごしまCOCセンター



▲九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウム IN 鹿児島2016(平成28年10月 鹿児島市)

地域防災教育研究センター

南九州から南西諸島にかけては、豪雨、台風、火山噴火、地震・津波などに起因する様々な自然災害が発生している。地域防災教育研究センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。

なお本センターでは上記した自然災害だけでなく、原子力発電所の立地県であることも考慮して、以下のような部門・分野を置き、地域防災に関する様々な活動を行っている。

■調査研究部門

総合防災分野: 災害時の応急対応、災害心理・災害時医療、復旧復興策、防災対策、警戒避難等に関する調査研究

水害・土砂災害分野: 台風、大雨による洪水害、山崩れ、土石流などによる土砂災害に関する調査研究

火山災害分野: 桜島や霧島等の噴火に伴う災害に関する調査研究

地震・津波災害分野: 地震・津波によって引き起こされる災害に関する調査研究

放射線災害分野: 放射線によって引き起こされる災害に関する調査研究

■教育部門

●本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営

●地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

■地域連携部門

●地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決

●自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応



▲防災WiFi付き情報表示用デジタルサイネージ

司法政策教育研究センター

司法政策教育研究センターは、法科大学院での法曹養成の経験とノウハウを継承し、法学分野の教育研究の高度化や法律系人材の養成・充実を実現する基盤の確保や、法科大学院修了後の司法試験受験のサポートを含む法曹志願者の支援、地域で活躍している法律系人材や各種専門職のニーズに応えるリカレントや職能高度化の場の提供、臨床法学教育の推進とともに地域貢献活動の一層の充実を図ることなどを目的として設置された組織である。

【主な活動】

■学部・大学院教育支援

●高度な専門性を踏まえた実践力を身に付ける教育方法を提供

●ネットワークを活用した教育ノウハウを実施

■リカレント・キャリア開発支援

●地域の法曹、諸士業や地域専門家の法的高度化

●公務員や企業就業者のリカレントやキャリア開発

■法曹志願者支援

●法科大学院進学希望者への支援

●法務学修生(本学法科大学院修了者)その他の司法試験準備

■地域貢献活動の展開

●無料法律相談の実施(大学にて)

●地域に貢献する法学教育活動(離島クリニックなど)



▲マルチメディア教室



▲リーガルクリニック

保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

センターでは、専任の医師4名、保健師4名のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、神経科精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および臨床心理士が心理相談にあたり、ソーシャルワーカーによる学生支援もある。

また、禁煙サポートの結果解析、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。平成25年8月より、桜ヶ丘分室への保健師1名の配置を開始した。

【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- 心理相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行 ● 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 環境衛生および感染症予防に関する指導 ● 禁煙サポート ● 心肺蘇生法講習会
- 産業医活動



稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に、学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学（フィロソフィ）の探求および継承・発展を基盤に据えている。



学内向けプログラム

共通教育科目の提供：「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供
京都賞受賞者鹿児島講演会における「鹿児島コロキウム」の開催

学外向けプログラム

「履修証明制度」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
「公開シンポジウム」の実施



「稲盛アカデミーに学んだ若者達が、ベンチャー精神に燃え、素晴らしい社会のリーダーになっていくこと、そして鹿児島大学の名声をさらに高めていく」という稲盛名誉会長の期待に応えるべく、人材育成を目指した教育研究および社会貢献（人間教育、経営教育、地域・国際連携）を展開するとともに、名誉会長創設の国際賞、「京都賞」の受賞者講演会や関係行事などを通じた鹿児島県との連携・協働を図っている。

総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニューズレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲特別展



▲公開講座

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、電子計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、事業継続計画対策、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT 相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

特に、情報セキュリティマネジメントシステムJIS Q 27001 (ISO/IEC27001)の認証を取得し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供している。さらに平成28年度からは、サイバーセキュリティ戦略室が設置され、さらなるセキュリティ対策の強化および、事業継続計画対策、セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティ事案への迅速な対応を行う体制を整えている。



また、研究開発を行う情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門が置かれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内部局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進すると共に、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。

埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパス、唐湊学生寮と入来牧場等には埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、施設整備事業等にもとまって影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的としている。事業としては、校舎建設等工事に伴い発掘調査などの調査を実施し、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成等を行っている。また調査時には、一般市民向けの体験発掘や、遺跡見学会を開催している。



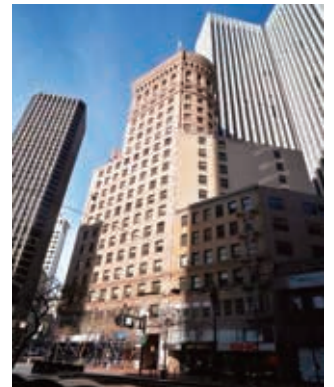
▲発掘調査の様子

北米教育研究センター

米国カリフォルニア州サンフランシスコに、海外拠点として北米教育研究センターを置いている。平成16年に産学連携ベンチャービジネス部門のシリコンバレー・オフィスとしてスタートし、平成20年に全学組織へと発展した。平成23年には、本学のブランチャ・オフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実ともに海外拠点としての体制を整えた。センターは、1) 学生海外研修やインターンシップの実施、2) 北米における大学や企業等との連携、3) ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間ネットワークであるJUNBAへの参加、情報交換などを行っている。



▲カリフォルニア学生海外研修の様子



▲北米教育研究センターのあるビル

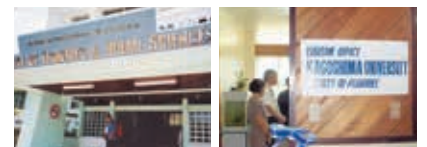
フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校(UPV)の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミヤガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。研究室と実験室を併設したオフィスには、フィリピンから採用された准教授が常駐していた時期もあり、水産資源管理や水圏環境の管理・保全に関する共同研究の拠点となっている。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行った。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された国際連携プログラム「熱帯水産学国際連携コース」などによる大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ビサヤス校



▲ビサヤス校ミヤガオ・キャンパス

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するなど、ベトナム教育研究交流活動を行っている。



▲この建物の11階に事務所が入っている

鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)奄美島嶼実験室、(3)奄美サテライト教室、(4)徳之島サテライト教室、(5)与論活性化センター、(6)与論水産実験室の6つの施設から構成されている。

国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の6つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された奄美分室内には、教職員スペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生生活を紹介するスペースや奄美群島の社会・文化・自然などに関連する書籍を準備し、教育・研究及び地域貢献を推進することを目的としている。また、この施設の近くには、奄美島嶼実験室(名瀬公民館金久分館内)や教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



▲分室内の大学紹介スペース

学部・大学院等

奄美サテライト教室(奄美市)・徳之島サテライト教室(徳之島町)

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市(旧名瀬市)に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町にもサテライト教室が開設された。

科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景



■学 部

(平成29年5月1日現在)

学 部	学科・課程	入学定員	3年次編入学員	収容定員	現 員							
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
法文学部	法経社会学科	245		980	258 (116)					-	-	258 (116)
	人文学科	165		660	169 (121)					-	-	169 (121)
	法政策学科※					101 (38)	102 (37)	124 (45)		-	-	327 (120)
	経済情報学科※					150 (73)	150 (71)	186 (87)		-	-	486 (231)
	人文学科※					159 (108)	164 (127)	212 (135)		-	-	535 (370)
	小 計	410	10	20	1,660	427 (237)	410 (219)	416 (235)	522 (267)	-	-	1,775 (958)
教育学部	学校教育教員養成課程	200		800	204 (91)	239 (120)	229 (111)	289 (149)		-	-	961 (471)
	特別支援教育教員養成課程	15		60	15 (10)	17 (10)	16 (15)	18 (13)		-	-	66 (48)
	生涯教育総合課程※					38 (23)	38 (24)	46 (36)		-	-	122 (83)
	小 計	215		860	219 (101)	294 (153)	283 (150)	353 (198)	-	-	1,149 (602)	
理学部	数理情報科学科	40		160	41 (10)	42 (5)	60 (4)	41 (7)		-	-	184 (26)
	物理科学科	45		180	50 (7)	44 (12)	63 (9)	49 (11)		-	-	206 (39)
	生命化学科	50		200	50 (19)	54 (24)	62 (22)	50 (19)		-	-	216 (84)
	地球環境科学科	50		200	53 (17)	52 (11)	65 (21)	54 (23)		-	-	224 (72)
	小 計	185		740	194 (53)	192 (52)	250 (56)	194 (60)	-	-	830 (221)	
医学部	医 学 科	107	10	692	110 (37)	108 (22)	120 (39)	122 (43)	124 (42)	115 (36)	699 (219)	
	保 健 学 科	120	20	520	120 (96)	123 (93)	127 (102)	128 (97)	-	-	498 (388)	
	小 計	227	30	1,212	230 (133)	231 (115)	247 (141)	250 (140)	124 (42)	115 (36)	1,197 (607)	
歯学部	歯 学 科	53		318	54 (23)	52 (28)	56 (32)	45 (25)	46 (27)	55 (27)	308 (162)	
工学部	機 械 工 学 科	94		376	105 (4)	111 (8)	113 (5)	94 (4)	-	-	423 (21)	
	電 気 電 子 工 学 科	78		312	96 (2)	100 (3)	97 (1)	88 (4)	-	-	381 (10)	
	建 築 学 科	55		220	63 (15)	77 (18)	63 (13)	48 (15)	-	-	251 (61)	
	環境化学プロセス工学科	35		140	38 (5)	41 (12)	40 (9)	38 (11)	-	-	157 (37)	
	海洋土木工学科	48		192	59 (3)	53 (3)	55 (7)	52 (8)	-	-	219 (21)	
	情報生体システム工学科	80		320	95 (19)	95 (15)	94 (15)	91 (11)	-	-	375 (60)	
	化学生命工学科	50		200	60 (19)	52 (22)	57 (15)	48 (10)	-	-	217 (66)	
	小 計	440	20	1,800	516 (67)	529 (81)	519 (65)	459 (63)	-	-	2,023 (276)	
農学部	農業生産科学科	75		300	74 (34)	75 (39)			-	-	149 (73)	
	食料生命科学科	70		280	69 (43)	65 (41)			-	-	134 (84)	
	農林環境科学科	60		240	61 (16)	53 (19)			-	-	114 (35)	
	生物生産学科※						78 (30)	96 (38)	-	-	174 (68)	
	生物資源化学科※						65 (33)	79 (35)	-	-	144 (68)	
	生物環境学科※						61 (16)	77 (29)	-	-	138 (45)	
	獣医学科※									3 (1)	3 (1)	
	国際食料資源学特別コース				17 (9)	16 (8)	11 (6)		-	-	44 (23)	
小 計	205		820	221 (102)	209 (107)	215 (85)	252 (102)	0 (0)	3 (1)	900 (397)		
水産学部	水 産 学 科	140		560	147 (46)	144 (45)	157 (40)	137 (39)	-	-	585 (170)	
	水産教員養成課程※						2 (0)	13 (5)	-	-	15 (5)	
	小 計	140		560	147 (46)	144 (45)	159 (40)	150 (44)	-	-	600 (175)	
共同獣医学部	獣 医 学 科	30		180	31 (9)	32 (14)	33 (16)	34 (15)	31 (11)	27(10)	188 (75)	
合 計	1,905	60	8,150	2,039 (771)	2,093 (814)	2,178 (820)	2,259 (914)	201 (80)	200 (74)	8,970 (3,473)		

- (注) 1. ()は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。
 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。
 3. ※は旧学科、旧課程を表す。
 4. 農学部国際食料資源学特別コースは、4年次にいずれかの学科に所属する。
 5. 水産学部国際食料資源学特別コースの現員は学科に含まれる。

<東京海洋大学水産専攻科>

入学定員	現 員
10	7(3)

- (注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学水産専攻科に進学することができる。
 2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。
 3. ()は女子で内数。

■大学院

(平成29年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	現 員								合 計
			修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					
			1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人文社会科学研究科	28	56	23 (13)	30 (21)	53 (34)	-	-	-	-	-	53 (34)
	6	18	-	-	-	8 (3)	4 (4)	10 (4)	-	22 (11)	22 (11)
教育学研究科	22	44	15 (7)	39 (22)	54 (29)	-	-	-	-	-	54 (29)
	16	32	-	-	-	12 (5)	-	-	-	12 (5)	12 (5)
保健学研究科	22	44	24 (14)	33 (15)	57 (29)	-	-	-	-	-	57 (29)
	6	18	-	-	-	6 (1)	4 (3)	10 (8)	-	20 (12)	20 (12)
理工学研究科	286	572	287 (32)	299 (37)	586 (69)	-	-	-	-	-	586 (69)
	24	72	-	-	-	21 (5)	16 (1)	24 (7)	-	61 (13)	61 (13)
農学研究科	69	138	82 (32)	57 (24)	139 (56)	-	-	-	-	-	139 (56)
水産学研究科	32	64	34 (5)	30 (9)	64 (14)	-	-	-	-	-	64 (14)
医歯学総合研究科	10	20	9 (4)	12 (3)	21 (7)	-	-	-	-	-	21 (7)
	50	200	-	-	-	82 (28)	50 (16)	39 (13)	157 (36)	328 (93)	328 (93)
臨床心理学研究科	15	30	-	-	-	15 (12)	18 (16)	-	-	33 (28)	33 (28)
連合農学研究科	23	69	-	-	-	40 (13)	42 (16)	37 (11)	-	119 (40)	119 (40)
合 計	609	1,377	474 (107)	500 (131)	974 (238)	184 (67)	134 (56)	120 (43)	157 (36)	595 (202)	1,569 (440)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12		-	-	-	6 (0)	6 (2)	4 (0)	8 (5)	24 (7)	24 (7)

- (注) 1. ()は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。
 2. 教育学研究科学校教育実践高度化専攻、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。
 3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。
 4. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学(指導教員)に属する学生数である。

学生等

■大学院の社会人選抜入学者数

(平成29年5月1日現在)

研究科	平成29年度	
人文社会科学研究科	博士前期	9
	博士後期	2
教育学研究科		2
保健学研究科	博士前期	12
	博士後期	3
理工学研究科	博士前期	0
	博士後期	7
農学研究科		2
水産学研究科		2
医歯学総合研究科	修士課程	6
	博士課程	26
臨床心理学研究科		0
連合農学研究科		0
合 計		71

(注) 現職教員を含む。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(平成29年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20	20	35	36	91	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級
	2年保育 15					

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(平成29年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	単式学級	1~6年 140	138	140	138	138	131	132	817	各学年4学級 計24学級
	複式学級	1年 8	8						46	1・2年で1学級
		2年 8		7						3・4年で1学級 計3学級
		3年 8			8					5・6年で1学級
		4年 8				8				
		5年 8					8			
	6年 8						7			
	合 計	1~6年 148	146	147	146	146	139	139	863	計27学級

【教育学部附属中学校】

(平成29年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	200	202	199	199	600	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(平成29年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	小学部	3	3	3	3	2	3	3	17	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	7	6	6	-	-	-	19	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	7	8	8	-	-	-	23	各学年1学級 計3学級

学部

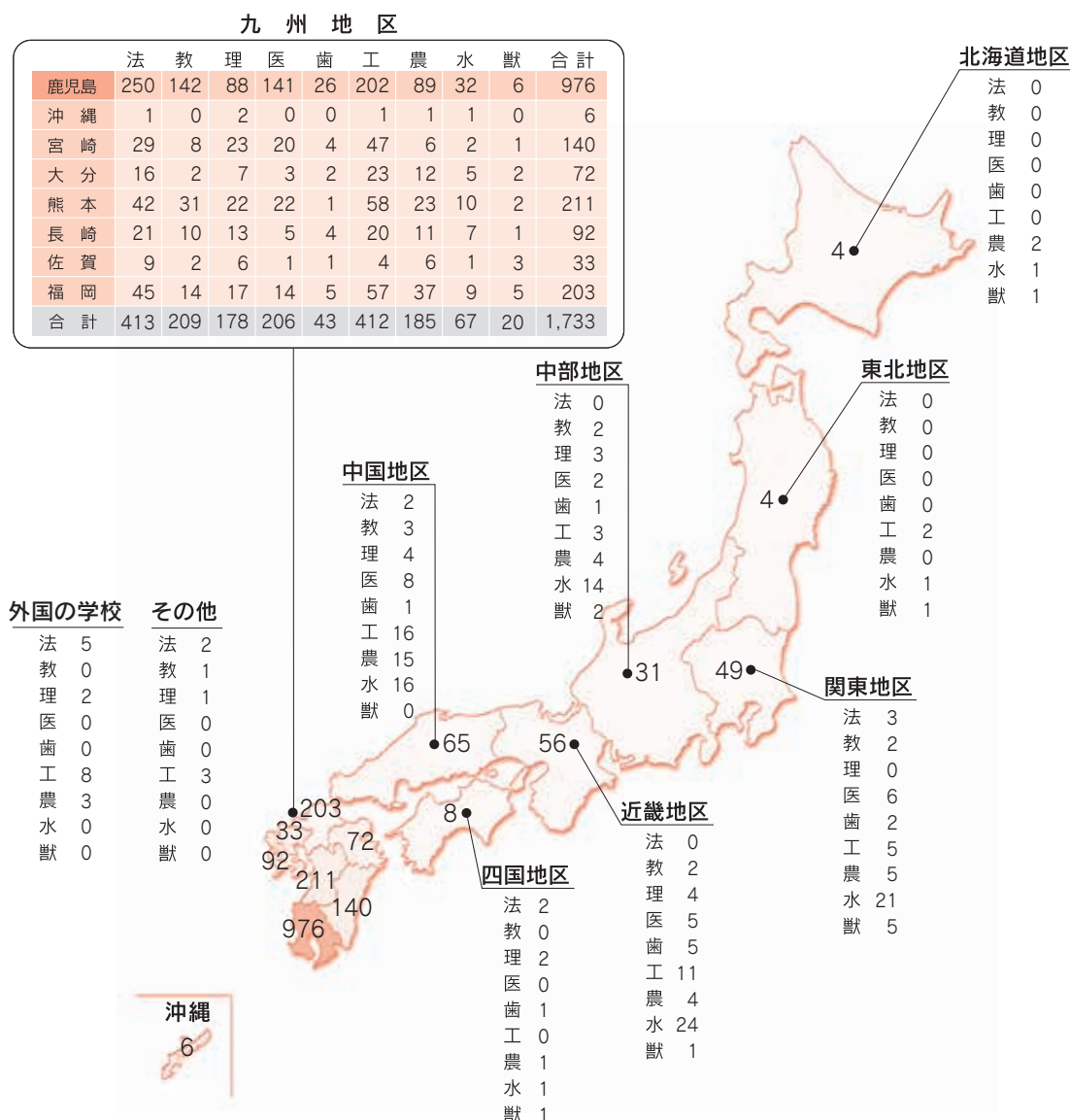
(平成29年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別割合(%)	
				県 内	県 外
法 文 学 部	410	1,382 (777)	427 (237)	58.5	41.5
教 育 学 部	215	716 (355)	219 (101)	64.8	35.2
理 学 部	185	449 (136)	194 (53)	45.4	54.6
医 学 部	227	882 (459)	227 (132)	62.1	37.9
歯 学 部	53	231 (107)	53 (23)	49.1	50.9
工 学 部	440	1,178 (170)	460 (61)	43.9	56.1
農 学 部	205	453 (204)	219 (100)	40.6	59.4
水 産 学 部	140	457 (143)	145 (45)	22.1	77.9
共同獣医学部	30	191 (86)	31 (9)	19.4	80.6
合 計	1,905	5,939 (2,437)	1,975 (761)	49.4	50.6

※()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。



学生等

■大学院(志願者・受験者・合格者状況)

【修士課程・博士前期課程】

(平成29年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学	5	0	2	0	-	2	0	2	0	-	2	0	2	0	-	2	2
	経済社会システム	10	4	2	1	-	7	3	2	1	-	6	3	2	1	-	6	6
	人間環境文化論	5	2	3	2	-	7	2	3	2	-	7	1	3	1	-	5	5
	国際総合文化論	8	1	2	5	-	8	1	2	5	-	8	1	1	4	-	6	6
	計	28	7	9	8	-	24	6	9	8	-	23	5	8	6	-	19	19
教育学研究科	教育実践総合	22	18	2	5	-	25	16	2	5	-	23	14	2	2	-	18	15
保健学研究科	看護学	12	12	5	0	-	17	11	5	0	-	16	10	5	0	-	15	14
	理学療法・作業療法	10	3	8	0	-	11	3	7	0	-	10	3	7	0	-	10	10
	計	22	15	13	0	-	28	14	12	0	-	26	13	12	0	-	25	24
理工学研究科	機械工学	50	72	0	0	-	72	72	0	0	-	72	64	0	0	-	64	59
	電気電子工学	45	42	0	0	-	42	41	0	0	-	41	38	0	0	-	38	38
	建築学	25	32	0	1	-	33	32	0	1	-	33	29	0	0	-	29	25
	化学生命・化学工学	42	67	0	0	-	67	66	0	0	-	66	50	0	0	-	50	48
	海洋土木工学	18	26	0	0	-	26	25	0	0	-	25	24	0	0	-	24	17
	情報体システム工学	42	65	0	0	-	65	57	0	0	-	57	52	0	0	-	52	45
	数理情報科学	14	15	0	0	-	15	15	0	0	-	15	13	0	0	-	13	10
	物理・宇宙	15	35	0	0	-	35	34	0	0	-	34	20	0	0	-	20	16
	生命化学	18	27	0	1	-	28	27	0	1	-	28	19	0	1	-	20	16
	地球環境科学	17	14	0	0	-	14	14	0	0	-	14	14	0	0	-	14	13
	計	286	395	0	2	-	397	383	0	2	-	385	323	0	1	-	324	287
農学研究科	生物生産学	26	33	0	0	0	33	32	0	0	0	32	30	0	0	0	30	29
	生物資源化学	21	32	0	0	10	42	31	0	0	10	41	31	0	0	10	41	37
	生物環境学	22	18	2	0	2	22	17	2	0	2	21	15	2	0	2	19	16
	計	69	83	2	0	12	97	80	2	0	12	94	76	2	0	12	90	82
水産学研究科	水産学	32	40	2	6	-	48	34	2	6	-	42	28	2	6	-	36	34
医歯学総合研究科	医科学	10	2	6	1	-	9	2	6	1	-	9	2	6	1	-	9	9
	合計	469	560	34	22	12	628	535	33	22	12	602	461	32	16	12	521	470

※教育学研究科の「社会人」は、「現職教員等」を表す。

【博士課程・博士後期課程】

(平成29年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学	6	1	4	2	8	1	3	2	7	1	3	2	7	7
			1		1										
保健学研究科	保健学	6	2	4	1	7	2	4	1	7	2	3	1	6	6
理工学研究科	総合理工学	24	11	7	2	20	11	7	2	20	11	7	2	20	16
	健康科学	19	12	3	0	15	12	3	0	15	12	3	0	15	15
医歯学総合研究科	先進治療科学	31	18	23	4	45	18	23	4	45	18	23	4	45	45
	計	50	30	26	4	60	30	26	4	60	30	26	4	60	60
連合農学研究科	生物生産科学	7	13	0	0	13	13	0	0	13	13	0	0	13	13
	応用生命科学	8	8	0	0	8	8	0	0	8	8	0	0	8	8
	農水圏資源環境科学	8	10	0	0	10	10	0	0	10	10	0	0	10	10
	計	23	31	0	0	31	31	0	0	31	31	0	0	31	31
	合計	109	75	41	9	126	75	40	9	125	75	39	9	124	120

※人文社会科学研究科の下段は、進学者選考の数を表す。

【専門職学位課程】

(平成29年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
教育学研究科	学校教育実践高度化専攻	16	13	0	0	13	13	0	0	13	13	0	0	13	12
臨床心理学研究科	臨床心理学	15	24	0	0	24	24	0	0	24	17	0	0	17	15
	合計	31	37	0	0	37	37	0	0	37	30	0	0	30	27

■卒業生数・就職状況

(平成29年5月1日現在)

学部	卒業生数 (累計)	平成28年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率(%)	業種別			地区別										
						農林業 漁業	建設業 電気ガス水道 情報通信運輸 卸売・小売	金融保険 医療福祉 教育学習 サービス	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県内	その他
法文学部	16,625	406	341	318	93.3		116	102	74	7	19	58	3	5	4		93	155	
教育学部	19,243	271	221	203	91.9		33	38	24	106	2	11	3	3	3	4	61	116	2
理学部	7,199	160	80	80	100.0		24	21	20	12	3	18		2	3		26	29	2
医学部	7,367	249	113	112	99.1			104	8			7	1	7	3		34	60	
歯学部	2,059	57																	
工学部	18,747	439	189	189	100.0		128	26	28	2	5	60	10	30	1		51	37	
農学部	13,008	228	140	135	96.4	4	49	33	44	1	4	19	4	5	7	2	55	40	3
水産学部	7,834	133	87	83	95.4	2	53	16	6	1	5	29	4	8	3	1	20	18	
(文理学部)	2,651																		
合計	94,733	1,943	1,171	1,120	95.6	6	403	340	204	129	38	202	25	60	24	7	340	455	7

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
 2. 卒業生数は9月卒業生を含む。
 3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

■大学院修了生数

(平成29年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	平成28年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成28年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成28年度 修了生数
人文社会科学研究科	574	22	20	2	-	-
教育学研究科	807	37	-	-	-	-
保健学研究科	251	17	4	0	-	-
医学研究科*	-	-	581	-	-	-
理工学研究科	6,564	281	396	8	-	-
農学研究科	2,132	39	-	-	-	-
水産学研究科	1,223	30	-	-	-	-
医歯学総合研究科	170	7	380	42	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	144	4
臨床心理学研究科	-	-	-	-	131	12
連合農学研究科	-	-	723	28	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
合計	12,503	433	2,216	80	275	16

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。
 2. *印は旧研究科である。

■学位授与状況

(平成29年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	平成28年度 授与	課程		論文		累計	平成28年度 授与
			累計	平成28年度授与	累計	平成28年度授与		
人文社会科学研究科	574	22	34	3	1	0	-	-
教育学研究科	807	37	-	-	-	-	-	-
保健学研究科	251	17	9	0	2	1	-	-
医学研究科	-	-	701	-	1,484	-	-	-
歯学研究科	-	-	136	-	71	-	-	-
理工学研究科	6,564	281	449	11	75	2	-	-
農学研究科	2,132	39	-	-	-	-	-	-
水産学研究科	1,223	30	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	170	7	418	49	30	4	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	-	-	144	4
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	131	12
連合農学研究科	-	-	895	33	137	3	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
合計	12,503	433	2,642	96	1,800	10	275	16

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

学生等

■奨学生状況

(平成29年5月1日現在)

学部・研究科等	在学生数	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率	
		第一種奨学生	第二種奨学生				
学部	法文学部	1,775	524	371	15	910	51.3
	教育学部	1,149	320	206	15	541	47.1
	理学部	830	228	162	4	394	47.5
	医学部	1,197	237	220	6	463	38.7
	歯学部	308	45	57	2	104	33.8
	工学部	2,023	446	391	28	865	42.8
	農学部	900	217	146	6	369	41.0
	水産学部	600	116	93	2	211	35.2
	共同獣医学部	188	41	20	2	63	33.5
計	8,970	2,174	1,666	80	3,920	43.7	
大学院 (修士課程・ 博士前期課程)	人文社会科学研究科	53	5	0	1	6	11.3
	教育学研究科	54	9	1	0	10	18.5
	保健学研究科	57	4	1	0	5	8.8
	理工学研究科	586	165	23	3	191	32.6
	農学研究科	139	22	4	0	26	18.7
	水産学研究科	64	9	0	1	10	15.6
	医歯学総合研究科	21	2	0	0	2	9.5
	計	974	216	29	5	250	25.7
大学院 (博士課程・ 博士後期課程)	人文社会科学研究科	22	0	0	3	3	13.6
	保健学研究科	20	1	0	0	1	5.0
	理工学研究科	61	11	2	0	13	21.3
	医歯学総合研究科	328	15	1	1	17	5.2
	連合農学研究科	119	14	0	5	19	16.0
計	550	41	3	9	53	9.6	
大学院 (専門職学位課程)	教育学研究科	12	0	0	0	0	0.0
	臨床心理学研究科	33	2	0	0	2	6.1
	計	45	2	0	0	2	4.4
合計	10,539	2,433	1,698	94	4,225	40.1	

<備考:日本学生支援機構奨学金月額(平成29年度入学者)>

- 第一種奨学生
 - 学部生: 自宅通学30,000・45,000円/自宅外通学30,000・45,000・50,000円
 - 大学院生: 修士・博士前期課程50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円
- 第二種奨学生
 - 学部生: 30,000・50,000・80,000・100,000・120,000円
 - 大学院生: 50,000・80,000・100,000・130,000・150,000円

■大学独自の経済支援制度

種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿児島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄付金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

◆重点領域研究

鹿児島大学では、南九州及び南西諸島域の地域活性化の中核的拠点を目指し、次の二種類の研究を推進している。

- (1) 地域社会の課題解決につながる、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー等の研究、火山や地震等の防災研究、各分野の基盤研究
- (2) 国際水準の卓越した研究として、先進的感染制御（難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等）、生物多様性、先進的実験動物モデル（ミニブタ等）、天の川銀河、難治性がん等の研究

以下、上記の(1)の研究のうち、①島嶼、②環境、③食と健康、④水、⑤エネルギーについて紹介する。火山や地震等の防災研究については、**地域防災教育研究センター**の記載を参照のこと。

一方、(2)の研究のうち、⑥先進的感染制御（難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等）、⑦天の川銀河、⑧難治性がんについても紹介する。生物多様性については②及び**総合研究博物館**を、また、先進的実験動物モデル（ミニブタ等）については、**医用ミニブタ・先端医療開発研究センター**を参照のこと。

(1) 地域社会の課題解決につながる研究

① 島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進：

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきた。

このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われている。

【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。平成28年度は奄美市や奄美群島広域事務組合と連携し、奄美市においてシンポジウム「奄美・沖縄諸島先史学の最前線」を開催した。

【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。平成28年度は大隅諸島において総合調査を行い、大隅諸島の文化・社会産業・自然を英文で紹介した書籍『The Osumi Islands』を出版した。

【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

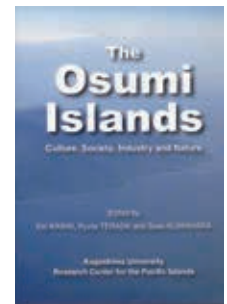
県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。平成28年度は人材養成を目指し2冊の鹿児島大学島嶼研ブックレット『自然災害と共に生きる』と『鹿児島の地形を読む』を出版した。

【多島域データベース】

鹿児島県南部の島嶼に関する文献データベースである「薩南諸島データベース」、国際島嶼教育研究センターの出版物データベースである「島嶼研出版物データベース」、奄美群島の自然科学系文献を対象にした「奄美生物多様性文献データベース」から成る『文献データベース』と鹿児島県島嶼統計資料から成る『資料データベース』を作成している。



▲シンポジウム
「奄美・沖縄諸島先史学の最前線」の様子



▲出版された書籍
『The Osumi Islands』

② 環境

世界自然遺産に登録された屋久島と世界自然遺産登録を目指している奄美地域を抱える鹿児島の豊かな自然環境と文化に関して、地域とともに問題解決を模索する研究である**鹿児島環境学プロジェクト**と、生物多様性に関する全学的な研究を推進する**生物多様性プロジェクト**を進めている。

鹿児島環境学プロジェクトは、環境問題を地域から問い直し、屋久島や奄美地域の諸課題を分析して現場において具体的な解決の道を探ろうとする学際的な研究である。平成28年度には、奄美地域で希少種保護の脅威となっているノネコ問題について、地域だけの課題とせずオール鹿児島で支える視点に立ったシンポジウムを鹿児島市内で開催したほか、ニュージーランドの外来種専門家とともに奄美地域で高校生、議会・行政関係者、地元の活動家・研究者らと議論し、問題解決に向けた方向性を探った。また、複雑な要素を抱え、地域の暮らしと密接にかかわるこの問題を考える際の重要な視点を提示した冊子「人もネコも野生動物もすみよい島」を作成し、住民や関係者の合意形成促進のために各方面に配布した。

生物多様性プロジェクトでは、文科省特別経費「薩南諸島の生物多様性と其の保全に関する教育研究拠点整備」等の研究者と協力して、陸上、水中の各種生物の多様性調査を行った。特に生物多様性に影響を与える外来種問題に重点を置き、マングースなど著名な外来種以外にも奄美の河川に外来淡水魚のグリーンソードテールが定着しつつあること、外来のアリが港湾を中心に薩南諸島に分布を広げていることなどを明らかにした。それらの成果を、平成29年2月に「薩南諸島の外来種」のシンポジウムで発表し、書籍「奄美群島の外来生物」として3月に出版した。その他、魚類、貝類、植物などの論文を学会で発表し、印刷したほか、鹿大に保存されている資料のデータベース化を進め、植物標本は44,000点をHPで公開した。



▲鹿児島環境学研究会作成のノネコ問題普及啓発冊子「人もネコも野生動物もすみよい島」



▲成果出版物「奄美群島の外来生物」

③ 食と健康

南九州、鹿児島を中心とした地域は、温帯から亜熱帯の気候と島嶼圏を擁する豊かな自然に恵まれ、日本における食料供給の重要拠点である。同時に、アジアにおける食料生産や食文化において、歴史的に重要な地理的特徴を有した地域といえる。日本では少子高齢化社会が急速に進行中で食料の需要量の減少が見込まれるが、世界ではアジア圏などで急激に人口が増加することが明らかであり、食料供給ならびに食による健康的な生活を実現することは今後の大きな課題である。

「食と健康」プロジェクトでは、南九州に特徴のある農水産食品の健康機能性について、科学的な研究により生活習慣病予防や老年症候群等との関連を明確にする。また、農畜水産業の技術課題の解決と、これら事業を取り巻く社会環境の変化に対応する資源循環型持続的農漁村の再構築および安全な食生活を可能とする食育教育を推進する。これら地域と連携して行う学術研究の成果を応用して、アジア圏や地域の食を通じた、健康的な生活基盤の構築や農畜水産業に関わる地域食産業の振興に貢献すると同時に、国際的な研究拠点となることを目標とする農学・水産学・理工学・教育・医歯学など各研究科を連携した全学的研究・教育プロジェクトである。

平成28年度では、第3回鹿児島県の黒膳 機能性食と健康シンポジウム開催の他、鹿児島の高機能成分含有食材に注目した「黒膳プロジェクト」において、産官学連携ディナーの実施、民間企業との共同開発による黒膳弁当(駅弁)の販売を開始した。また、鹿児島の特産品である芋焼酎、黒糖焼酎の機能性研究を実施した。



◀産官学連携黒膳プロジェクト「鹿児島県の黒膳 美味食のススメ」

④ 水

「水の未来を考える～地域における人と自然と水の関わり～」の視点から、地域の水利用や水源開発・保全、火山地域の水の流れ、豪雨地域の土砂・洪水災害、および南九州における水環境汚染など、鹿児島特有の水に関わる課題に対して、学内の学際的共同研究のもと研究を推進している。

課題「水資源と水利」では、鹿児島の特徴的な水資源である池田湖および島嶼域の地下水や農業水利に関して、質と量の地域課題を把握し、水文科学的検討を加えている。また、小規模溜池の灌漑利用に関して、奄美群島における過去の経験をフィリピンでの稲作利用に応用する可能性について社会経済的考察を加えている。

課題「水と災害」では、近年の気候変化に伴い、記録的な豪雨が各地で発生しており、大規模な土砂・洪水災害が目立っている。そこで、降水の流出機構を明らかにするとともに、大規模な土砂災害を引き起こす深層崩壊の発生箇所の予測、警戒対応等に関する理工学的研究を推進し、地域防災力の向上を図っている。

課題「水と生活」では、鹿児島県における赤潮・アオコの実態調査を行い、水域の富栄養化対策について検討を加えるとともに、新たな農地流域水・微量物質循環モデルの構築を検討している。



◀鹿児島県島嶼域の農業水利に関する実証的研究(写真:徳之島サトウキビ農場の蒸散量調査)

⑤ エネルギー

バイオマス、太陽光、海洋エネルギーなど再生可能エネルギーを生産する実用技術の開発と、分散型再生可能エネルギーの利用システムの確立により、地域再生、環境保持、農工連携などの課題に対するソリューションを創出することを目的として、以下の分野での研究を推進している。

バイオリアファイナリー技術開発: バガス等からバイオ燃料油を製造するプロセス技術の確立をめざし、産官学での共同プロジェクトを実施してきた。また、鹿児島県の離島振興、農業畜産振興など地域再生に結びつけたバイオマス活用ビジネスモデル検討を農工連携で進めている。

太陽光発電システムの高度利用・高効率化: 国および県の研究機関や企業と火山降灰・微粉塵等対策用太陽電池モジュールについて検討するとともに、モジュール上への積灰の抑制と発電量最大化の実現を目的として、降灰による発電量低下特性を明らかにするための実験を行っている。

バイオガス改質プロセスを利用した水素製造とCO₂の分解: 多孔質酸化物イオン導電体からなる電気化学反応器を用い、いちき串木野市で生産される焼酎滓バイオガスから水素を製造した。セラミックス多孔体による水素と二酸化炭素の分離を国の支援で進めた。

海流・潮流エネルギーポテンシャルの調査: 潮流発電実証フィールド候補の長島で潮流パワーポテンシャルを調査した。今後は、潮流発電の有望な甌島、奄美大島でのポテンシャル調査、口之島での水中浮遊式潮流発電システムの実証実験を企業、自治体、漁協等と連携して推進する。

再生可能エネルギーによる地域防災: 薩摩川内市と共同でスマートグリッド電力データの分析を行い、高齢者世帯や単身世帯の電力使用状況をパターン分類した。冬期の消費電力から断熱性能が低いと推測される住戸も見られ、住環境と消費エネルギーの関係性について検討している。

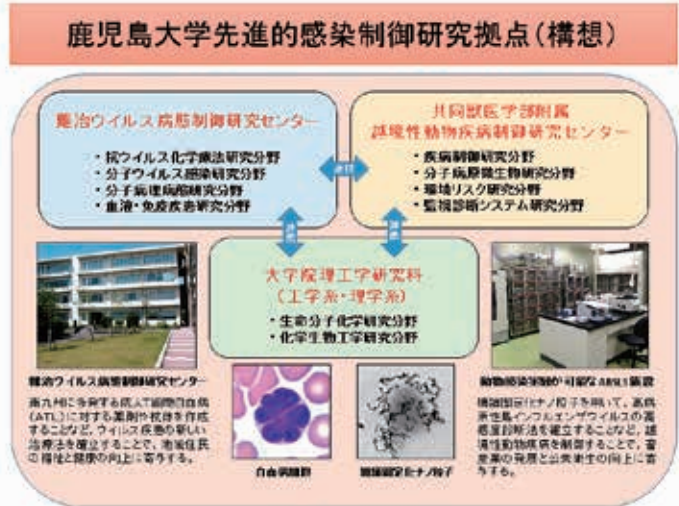


◀実際の桜島火山降灰の影響把握を目的に設置された暴露試験用太陽電池モジュール

(2) 国際水準の卓越した研究

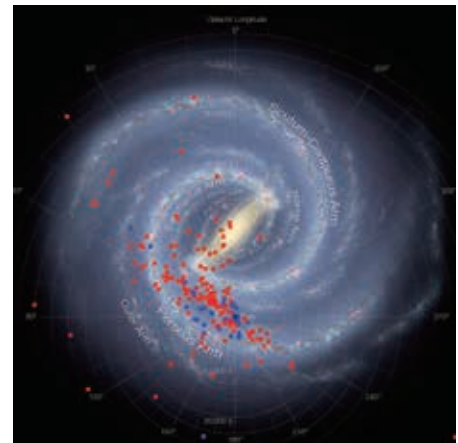
⑥ 先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等)

難治ウイルス病態制御研究センター、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター、そして大学院理工学研究科の研究分野の一部が連携することで、感染症制御に関する新しい学際的研究を実施している。特に、HTLV-1や鳥インフルエンザウイルスなど、鹿児島地域において脅威となる感染症に対し、診断・予防・治療に関わる先進的な研究を展開する事によって防御体制を構築し、地域住民の福祉と健康の増進を図るとともに、地元畜産業の発展と公衆衛生の向上にも寄与するような、感染症に関する国際レベルの研究を目指している。本学ではこれまでに、医学分野においてHTLV-1やそれによって起こる成人T細胞白血病や中枢神経疾患のHAMIに関する卓越した研究業績があり、また、獣医学分野では鳥インフルエンザのサーベイランスや各種ウイルスの病原性解析、感染実験動物モデルの構築に多くの実績がある。



⑦ 天の川銀河

七夕伝承でおなじみの天の川は、数千億もの星々が集まった直径10万光年にも及ぶ天体で、太陽系はその中にある。宇宙には、同種の天体である銀河が無数に存在するが、内部を3次元的に詳しく調べることができるのは天の川銀河だけである。鹿児島大学では、天の川銀河の構造・内部運動、そこで起こる恒星・惑星の形成や末期の恒星が起こす種々の現象などについて、世界トップレベルの研究を行っている。満月の見かけの直径の2億分の1の精度で天体の方向を測定できるVERA望遠鏡を用いて、国立天文台と共同で種々の天体までの距離や運動を観測し、天の川銀河の構造・運動の解明に大きな貢献をしている。できかけの恒星から噴出するガスが螺旋運動をしていることも世界で初めて明らかにした。薩摩川内市入来にある20mアンテナはVERA望遠鏡の構成要素で鹿児島大学が運用している。その隣には鹿児島大学1m赤外線望遠鏡があり、周期的に明るさが変わる星を観測して距離を求める研究を行っている。これに加えて、国内外の種々の望遠鏡を用いて様々な天体を詳細に観測し、天の川の完全理解に挑戦している。



▲VERAの観測で得られた電波天体の分布(青)と鹿児島大学1m望遠鏡によって得られた赤外線天体の分布(赤)

⑧ 難治性がん

腫瘍溶解性ウイルス(OV)による遺伝子・ウイルス治療は、欧米で新薬承認され、革新的がん治療薬として世界的に期待されている。従来のOVの性能を凌ぐ「多因子によるがん特異的増殖制御型アデノウイルス(m-CRA)」作製法を独自開発し、がん制圧へのm-CRA医薬開発の研究を進めてきた。第一弾のSurvivin反応生m-CRAは、競合技術の性能を大きく凌ぎ、従来技術が治療できないがん幹細胞まで効果的に治療可能という、革新的治療作用を示した。種々の大型競争的研究にて、非臨床研究(GMP製造、GLP非臨床試験、規制対応)を進め、医療研究開発機構(AMED)の「橋渡し」と「革新がん」の二つの大型研究にて、平成28年度にFirst-in-human(患者さんへ世界初の投与)の医師主導治験を本学で開始する(現在順調に進行中)という、政策の「がん10か年戦略」の目標達成に貢献する大きな成果を上げた。さらに転移がんも含めたがん制圧の新規m-CRA治療法の研究開発、またヒトES/iPS細胞の再生医療の最大障壁の腫瘍化を克服する新技術開発にも成功し、新たなAMED「橋渡し」研究に二つとも採択された。本研究は高い科学的意義のみならず、革新的がん治療薬の実用化という社会的意義を持つ、重要プロジェクトである。



▲難治性がんへの革新治療法となる遺伝子・ウイルス治療の独自開発と実用化

教育・研究・社会貢献活動

◆かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。

平成24年度からは、この成果を受け、本アカデミーの後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム（焼酎マイスター養成コース、林業生産専門技術者養成プログラム、稲盛経営哲学プログラム）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



▲講義（焼酎マイスター養成コース）

技術者養成プログラム、稲盛経営哲学プログラム）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



▲実習（林業生産専門技術者養成プログラム）



▲講義（稲盛経営哲学プログラム）

◆大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内12の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。現在、「教育連携」「高大連携」「ICT活用」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「産学官連携」「地域共同リポジトリ」の7事業部会を置き、活動を行っている。

〈構成大学等〉

鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志學館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校、放送大学鹿児島学習センター



▲かごしま教養プログラム



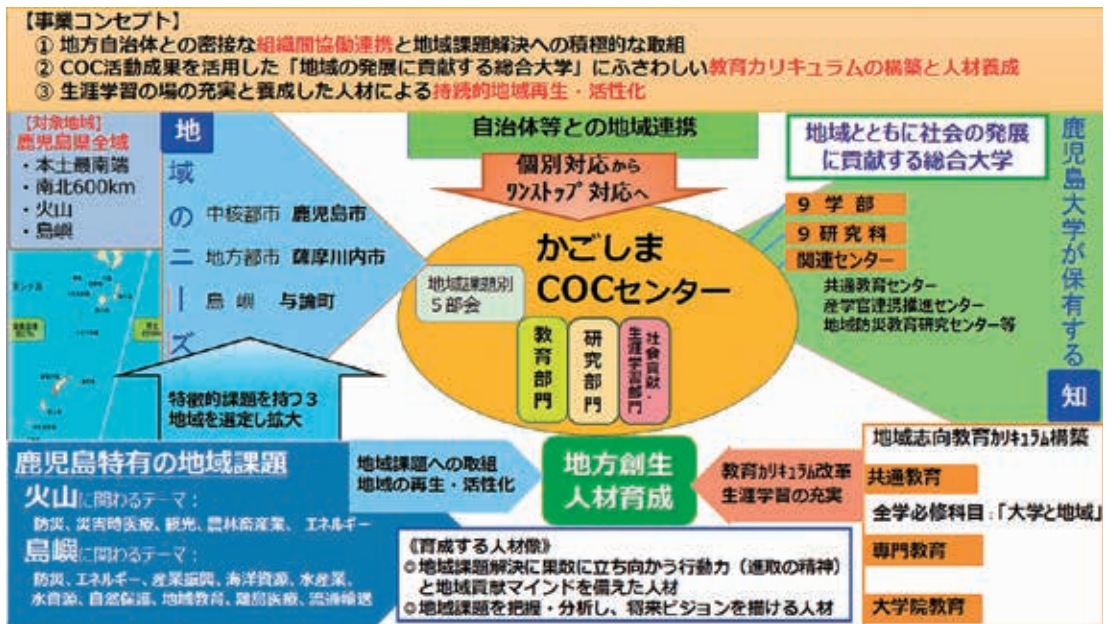
▲かごしまフィールドスクール

◆文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

COC事業:火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラム(平成26年度採択)

鹿児島大学は、教育的伝統を踏まえて自主自立と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学を目指しています。鹿児島県の地域課題は、防災・災害時医療、農林畜産産業、エネルギー、観光等に関するものであり、本学は地域活性化の中核的拠点としてこれらの課題解決に全学的に取り組んでいます。本事業では、本学と本県の自治体との組織間協働連携を行うため、「かごしまCOCセンター」を設置し、地域課題の解決にあたり、その成果を活用した教育カリキュラムを構築して地域課題解決に果敢に取り組む“進取の精神”を持った人材の育成を行い、さらに生涯学習の場を充実し、育成した人材による持続的な地域再生・活性化を目指しています。(※COC=Center of Community)

<COC 事業概要>



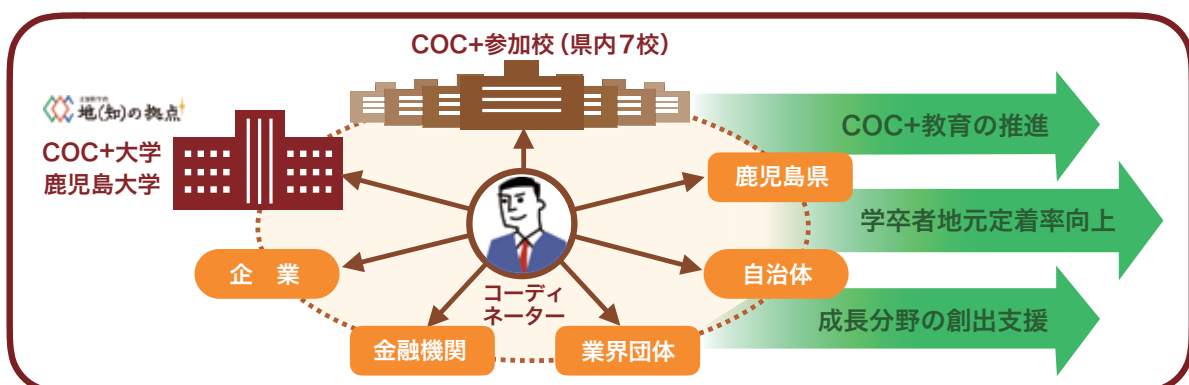
COC+事業:食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム(平成27年度採択)

COC+事業とは、大学が地方公共団体や地元企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を行い、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指しています。COC+大学である鹿児島大学は、産学官連携推進センターCOC+推進部門を中心に、COC+参加校(県内7校)と鹿児島県、金融機関、地域産業界等の事業協働機関と連携して、事業期間終了後(平成31年度末)の鹿児島県内の学卒者の地元就職率を、平成26年度比で7.5%(本学10.5%)増の61.5%(本学50.0%)まで引き上げるために、かごしまCOCセンターと連携しながら、教育及び就職支援でさまざまな取り組みを推進していきます。

<事業コンセプト>

- ① 地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
- ② 参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ③ 学卒者の地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化

<オール鹿児島の事業協働体制>



■機能強化経費(運営費交付金)

区 分	事業名	部局(実施主体)	平成29年度 運営費交付金予算額 (単位:千円)	事業期間	
機能強化促進分	南九州及び南西諸島域(島嶼・へき地)の活性化に貢献する人材の育成	「鹿児島大学が輩出する学士の質保証とその可視化」を実現するための教育改革とそれを踏まえた地域人材育成 ※ 機能強化促進補助金として、別途 53,992 (千円) が交付されている。	総合教育機構	30,910	平成29～33年度
		多面的・総合的に評価する入学選抜改革事業	総合教育機構 (アドミッションセンター)	11,761	平成28～32年度
		南九州・南西諸島を舞台とした地域中核人材育成を目指す新人文社会系教育プログラムの構築	法文学部・人文社会科学研究科	5,114	平成28～31年度
		薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備	国際島嶼教育研究センター	23,662	平成28～31年度
		大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取り組み	地域防災教育研究センター	31,943	平成28～33年度
		奄美大島を拠点とした離島へき地医療人育成の推進－災害医療を含む救急医療強化プログラムの構築－	医学部、歯学部、 医歯学総合研究科、 附属病院	10,744	平成29～33年度
	畜産地・食料基地としての南九州の地域振興に貢献する人材の育成	世界水準の獣医学教育研究拠点を基軸とした畜産地・食料基地としての南九州の地域活性化に資する人材育成	共同獣医学部	21,706	平成28～33年度
		増養殖環境保全のための赤潮モニタリングおよび対策法の高度化－南九州における赤潮研究拠点の構築－	水産学部	14,993	平成28～29年度
		大学院熱帯水産学国際連携プログラム推進のための機能強化	水産学研究科	10,040	平成28～30年度
	南九州固有の地域的課題研究及び強み特色のある国際水準の卓越した研究の推進	難治性の慢性ウイルス疾患を対象とした医・理工連携による先端的発症予防・治療法確立を目指した基盤構築－鹿児島県に多発するATL、HAM、および、AIDS、ウイルス肝炎に対する新規発症予防・治療法の開発に向けて－	難治ウイルス病態制御研究センター	6,896	平成28～33年度
		高度動物発生工学・生物学を駆使した先進ミニブタを用いた部局間横断的連携研究による前臨床研究開発・研究者養成拠点形成－鹿児島大学発信トランスレーショナル先端研究推進プロジェクト－	医用ミニブタ・先端医療開発研究センター	12,178	平成28～31年度
		VERAを初めとする九州最大の天体観測施設を活かした国際的に卓越した天の川銀河研究の推進	理工学研究科	5,401	平成29～33年度
新たな共同利用・共同研究体制の充実	先進的感染制御研究拠点	難治ウイルス病態制御研究センター	17,472	平成28～29年度	
教育関係共同実施分	かごしま丸の熱帯・亜熱帯水域洋上教育共同利用拠点機能の高度化	水産学部附属練習船 かごしま丸	4,153	平成28～31年度	
	鹿児島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点機能の充実	農学部附属演習林	8,237	平成28～30年度	

■リポジトリ

(平成29年3月31日現在)

学部等	論文数
法文学部	1,010
教育学部	2,070
理学部	602
医学部	93
歯学部	268
工学部	997
農学部	2,521
水産学部	1,054
共同獣医学部	34
人文社会学研究科	103
保健学研究科	10
理工学研究科	860
医歯学総合研究科	1,030
法科大学院(2004.4~2017.3)	2
臨床心理学研究科(専門職大学院)	10
連合農学研究科	464
連合獣医学研究科(基幹校:山口大学)	5
鹿児島大学病院	55
学内共同教育研究施設等	1,661
教養部(1965.4-1997.3)	23
関連学会等	447
合計	13,319



■学術刊行物

学部	刊行物	発行回数
法文学部	鹿児島大学法学論集	年 2 回
	経済学論集(法文学部紀要)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	年 1 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌(国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	地域政策科学研究	年 1 回
	Discussion Papers In Economics and Sociology	不定期
教育学部	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要	隔年1回
理学部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医学部	鹿児島大学医学雑誌	ネット上で随時更新
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
歯学部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工学部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農学部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	不定期
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水産学部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
	南太平洋研究	年 2 回
国際島嶼教育研究センター	南太平洋海域調査研究報告	不定期
	島嶼研だより	年 2 回
	South Pacific Newsletter	年 1 回
	島嶼研分室だより	年 2 回
	鹿児島大学島嶼研ブックレット	年 2 回
保健管理センター グローバルセンター	年報	年 1 回
	紀要	年 1 回
総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不定期
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不定期
	鹿児島大学総合博物館ニューズレター	年 2 回
学術情報基盤センター	年報	年 1 回
生涯学習教育研究センター	年報	年 1 回
産学官連携推進センター	鹿児島大学産学官連携推進センター活動実績報告書	年 1 回
	研究シーズ集	隔年1回
教育センター	年報	年 1 回
稲盛アカデミー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
研究支援センター	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回
	環境保全施設だより(旧 廃液処理センターだより)	ネット上で随時更新

教育・研究・
社会貢献活動

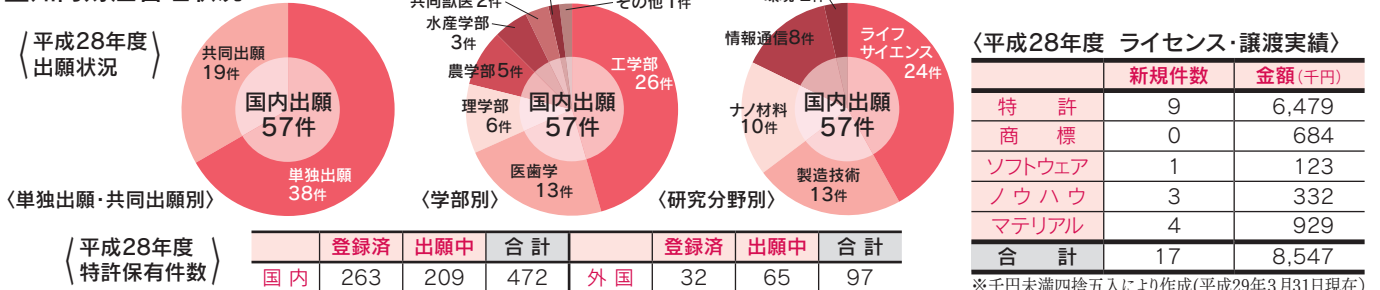
協定

協定名	協定締結年月日
与論町地域再生計画に伴う旧与論町立診療所の施設設備等の活用に係る施設の賃貸借料に関する協定	平成17年 2月14日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県漁業組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との次世代エネルギーに関する協定	平成23年 5月 7日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定	平成26年 6月23日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携授業に関する連携協定	平成26年 9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日
与論町漁業協同組合と国立大学法人鹿児島大学との水産学分野における実践的教育研究等に関する協定	平成27年 7月14日
鹿児島県との「雇用創出と若者定着に関する協定」(文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」関係)	平成27年12月14日
鹿児島商工会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年 4月 7日
国立大学法人鹿児島大学と株式会社三井住友銀行との産学連携協力に関する協定	平成28年 8月29日
国立大学法人鹿児島大学と環境省自然環境局との自然環境保全に係る連携・協力に関する協定	平成28年10月31日
日置市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年11月 1日
株式会社鹿児島銀行と鹿児島県内大学等(8校)との地方創生に関する取組みに関する協定	平成29年 4月 7日
志布志市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成29年 5月 8日

寄附講座

部局名	講座名	設置期間	寄附者名	主な研究内容等
水産学部	次世代型養魚飼料開発ラボトリ	平成28年4月1日～平成30年3月31日	スクレッティング(株)	●魚粉代替タンパク質を含有した養魚飼料の開発を目指し、魚粉やその代替タンパク質素材の適正添加量を決定し、魚類の成長を含めた生理機能を損なわない飼料の開発を目的とする。
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月1日～平成30年5月31日	京セラ(株)	●人工股関節の開発 ●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発、間接潤滑、骨吸収、骨形成、軟骨再生 ●軟骨分化 ●変形性股関節症の成因
	システム血栓制御学講座	平成27年4月1日～平成32年3月31日	(株)バイオメテックインターフェース 薬種開発(株) (株)シノテスト (株)ドクターズチョイス 藤森工業(株) (株)メディカ	●血栓症の発症機構とその制御法の基礎的、臨床的研究 ●血栓傾向、血栓症準備状態の診断技術・方法の開発と確立 ●伝統医学のサイエンス化 ●糖代謝と炎症・免疫系のクロストロークの研究 ●創薬に至る前の機能性食品の開発
	近未来運動器医療創生学講座	平成23年6月1日～平成30年3月31日	医療法人くすのき会	●腫瘍幹細胞の解明と治療への応用 ●脊髄再生医療
	がん病態外科学講座	平成29年7月1日(始)～平成32年6月30日	中外製薬(株) 社会医療法人聖医会 (株)新日本科学	●消化器癌におけるLiquid biopsyの新規検出法、個別化補助療法の開発 ●少数のがん細胞の3次元培養を行いオルガノイドを作成することによる網羅的解析等の手法を用いた増殖能・転移能など悪性度の解析研究
	HGF組織修復・再生医療学講座	平成25年4月1日～平成30年3月31日	エーザイ(株) (株)ミノファージェン製薬	●HGFによる難治性疾患動物モデルに対する組織修復および再生促進作用に関する研究およびHGFによる難治性疾患の新規治療法の開発
医用ミニプラ・先端医療開発研究センター	高生体適合性医療機器・臓器開発講座	平成29年6月1日(始)～平成34年3月31日	社会医療法人白光会白石病院 日本ゴア(株) ニプロ(株) (株)カネカメテックス (株)ジェイ・エム・エス 有限会社中央医科器械	●血液透析臨床医療における問題点把握と既存医療機器の課題把握 ●新規医療機器の開発と前臨床研究による評価 ●脱細胞化生体組織を用いた生体適合性組織・臓器の開発

知的財産管理状況



教育・研究・社会貢献活動

■平成28年度鹿児島大学公開講座

講座名	学部等	開催期間	代表者	受講対象者	開催場所
いままら聞けない!住宅ローンの基礎知識	法文学部	平成28年6月11日	王 鑑 凱	社会人	法文学部1号館101号室
いままら聞けない! NISAの基礎知識	法文学部	平成28年6月11日	王 鑑 凱	社会人	法文学部1号館101号室
いままら聞けない!株式投資の基礎知識	法文学部	平成28年6月11日	王 鑑 凱	社会人	法文学部1号館101号室
楽しい合唱表現 リラックスして表現してみよう	教育学部	平成28年5月25日~6月15日	齋 藤 祐	一般社会人・青少年	かごしま県民交流センター内スタジオ
教育臨床セミナー・ベーシック編	教育学部	平成28年8月3日	関 山 徹	現職教員を中心とした教育関係者	郡元キャンパス
教育臨床セミナー・アドバンス編	教育学部	平成28年8月5日	関 山 徹	現職教員を中心とした教育関係者	郡元キャンパス
タブレットPC・テレビ会議で授業力パワーアップ	教育学部	平成28年8月18日	山 本 朋 弘	小・中・高・特別支援学校の教職員	教育学部多目的室、演習室
星のでき方、作り方	理学部	平成28年6月18日	半 田 利 弘	一般市民・高校生以上(希望者は中学生以下でも可)	かごしま県民交流センター
最新脳卒中リハビリテーションの講義と実技セミナー [今日から使える脳卒中リハビリの知識と看護・介助技術]	医歯学総合研究科(医)	平成28年6月26日	下 堂 園 恵	看護師、保健師、介護士、社会福祉士、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー、医療関連学生、一般等	医学部鶴陵会館
最新脳卒中リハビリテーションの講義と実技セミナー [明日の訓練に生かせる脳卒中リハビリの知識と訓練技術]	医歯学総合研究科(医)	平成28年7月31日	下 堂 園 恵	理学療法士、作業療法士、医師、医学部学生、リハ専門看護師等	霧島リハビリテーションセンター
高齢者・有病者に安全な歯科医療の提供を目指して	医歯学総合研究科(医)	平成28年9月11日	南 弘 之	歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、看護師、介護に携わる方	宮崎県歯科医師会館
中堅助産師のためのステップアップ研修	医学部	平成28年6月4日、12日、7月9日、9月24日	吉 留 厚 子	中堅助産師	医学部
理学療法士・作業療法士のためのやさしい生体力学	医学部	平成28年6月11日、6月25日	大 渡 昭 彦	理学療法士、作業療法士など	医学部
看護研究の基礎及びデータ解析入門	医学部	平成28年7月23日	吉 留 厚 子	看護職	医学部
価値観・生活・つながり」を大切にす ヘルスカウンセリングABC	医学部	平成28年8月23日	丸 谷 美 紀	看護師・保健師・助産師・栄養士・養護教諭・歯科衛生士・医師	医学部
在宅ALS(筋萎縮性側索硬化症)療養者の在宅支援	医学部	平成28年9月3日	中 俣 直 美	看護師、保健師、介護支援専門員等	医学部
リハビリテーションを目指すケアー「最期までそのらしく」を支えるー 高齢者の介護	医学部	平成28年9月17日	丹 羽 さ よ 子	看護職	医学部
看護師に対する呼吸器ケア教育のための研修会	病 院	平成28年5月14日	大 重 匡	医療従事者・福祉関係者等・一般市民	医学部
冬季でも困らないインフルエンザ・感染症胃腸炎対応について	病 院	平成28年10月29日	向 窪 世 知 子	部署での感染対策担当者(感染リンクナース 感染係など)	病院 C-8 階
慢性疾患患者のセルフケア支援	病 院	平成28年12月3日	向 窪 世 知 子	看護職	病院 C-8 階
英語やりなおし講座(初級)	水産学部	平成28年4月9日~7月3日土曜日	板 倉 隆 夫	英語を人の言葉として理解したい人	水産学部研究室
英語やりなおし講座(中級)	水産学部	平成28年4月9日~7月3日土曜日	板 倉 隆 夫	英語やりなおし講座(初級)修了者	水産学部研究室
情報通信社会を支える光ファイバーのしくみ	工学部	平成28年7月9日	渡 邊 俊 夫	中学生~一般	工学部・電気電子工学科・23号室
ジュニア陸上教室 1期(小学生)	工学部	平成28年4月9日~7月16日土曜日	塗 木 淳 夫	小学1~6年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ジュニア陸上教室 1期(中学生)	工学部	平成28年4月9日~7月16日土曜日	塗 木 淳 夫	中学1~3年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
初心者向けランニング講座	工学部	4/23(11時~)、4/30(11時~)、5/14(14時半~)、5/28(11時~)、6/11(14時半~)	塗 木 淳 夫	公開講座「ジュニア陸上教室」を受講されている子どもとその保護者を主とする	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
親子で冒険!かごしまの海2016	水産学部	平成28年7月30日	大 富 潤	子どもとその保護者(小学生以上)	水産学部キャンパス、鏡江湾(積善館南屋)
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目A:間伐林分の調査と評価)	農学部附属演習林	平成28年6月22日~23日	寺 岡 行 雄	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目B:素材生産の規制・課題)	農学部附属演習林	平成28年6月23日~24日	枚 田 邦 宏	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目C:低コストで確実な再造林技術)	農学部附属演習林	平成28年6月29日~30日	藤 澤 義 武	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目D:ICTを活用した林業経営)	農学部附属演習林	平成28年7月14日~15日	寺 岡 行 雄	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目E:新しい架線集材技術)	農学部附属演習林	平成28年10月6日~7日	岡 勝	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目F:施業集約化と森林経営計画の策定)	農学部附属演習林	平成28年10月13日~14日	奥 山 洋 一 郎	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
[林業生産専門技術者]養成プログラム (科目G:林業事業体会計)	農学部附属演習林	平成28年10月20日~21日	枚 田 邦 宏	素材生産事業を実施している事業体の管理者や、講座に強い関心をお持ちの方	農学部附属高隈演習林
果樹を身近に感じてみませんか「ブルーベリーの収穫体験」	農学部附属農場	平成28年7月12日	朴 炳 宰	一般市民(社会人)	農学部附属農場唐湊果樹園
発見!体感!本物の海藻を見てさわって食べて、 「海の森」図鑑をつくろう	大学院連合農学研究科	平成28年7月24日、31日(両日を通して1回、片のみ不可)	寺 田 竜 太	小学校5、6年生	水産学部5号館学生実験室1-1、1-2
夏休み体験学習「放射線ってどんなもの?」	自然科学教育研究支援センター	平成28年8月3日	福 徳 康 雄	小・中学生・保護者・教員	農学部・共同獣医学部共通棟101講義室
熱帯果樹を鉢栽培で楽しもう	農学部附属農場	平成28年8月24日	朴 炳 宰	一般市民(社会人)	農学部附属農場農場講義室
路面電車整備見学会(機械の日開連行事)	大学院理工学研究科 機械工学専攻、大学院理工学研究科技術部	平成28年8月22日	上 谷 俊 平	小学生・中学生	鹿児島市交通局電車施設
地域資源を用いた観光まちづくりを考える~群馬県と鹿児島県の事例から~ 鹿児島から考える多文化共生 ~グローバル化に向けた高大連携の取り組みを探る~	かごしまCOCセンター	平成28年7月29日	酒 井 祐 輔	誰でも参加可能	郡元キャンパス共通教育棟1号館3階133号室
ランニング講座(初心者向け)	工学部	平成28年10月1日~平成28年12月10日	塗 木 淳 夫	ジュニア陸上教室を受講されている方の保護者	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ジュニア陸上教室 2期(小学生)	工学部	平成28年9月3日~平成28年12月17日	塗 木 淳 夫	小学1~6年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ジュニア陸上教室 2期(中学生)	工学部	平成28年9月3日~平成28年12月31日	塗 木 淳 夫	中学1~3年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
附属農場市民講座-「野菜作り教室」	農学部附属農場	平成28年9月20日、10月4日、10月18日、11月8日	朴 炳 宰	一般市民(社会人)	農学部附属農場農場講義室
がん患者のせん妄ケア	病 院	平成28年11月5日	向 窪 世 知 子	一般病院、訪問看護ステーションに勤務する3年以上の看護師	鹿児島大学病院 C棟8階 臨床研修センターセミナー室
英語講座	水産学部	平成28年10月13日~平成29年2月25日	板 倉 隆 夫	英語やりなおし講座(初級)修了者	水産学部・板倉研究室(水産学部3号館)
ジュニア陸上教室 3期(小学生)	工学部	平成29年1月7日~平成29年3月19日	塗 木 淳 夫	小学1~6年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ジュニア陸上教室 3期(中学生)	工学部	平成29年1月7日~平成29年3月19日	塗 木 淳 夫	中学1~3年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ランニング講座(初心者向け)	工学部	平成29年1月21日~平成29年3月21日	塗 木 淳 夫	ジュニア陸上教室を受講されている方の保護者を原則とする	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ベトナムの発展から考える鹿児島のグローバル化	かごしまCOCセンター	平成28年12月25日	酒 井 祐 輔	誰でも参加可能	郡元キャンパス学習交流プラザ2階
第12回 海岸へ行こう	水産学部	平成28年10月30日	山 本 智 子	小学4,5,6年生	始良市、重富干潟および重富海岸 自然ふれあい館なぎさミュージアム

教育・研究・社会貢献活動

■大学間学術交流協定校(23カ国・地域、78機関)

(平成28年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日			
インドネシア	アングララス大学	2003年12月1日	8(8)	1	2
	インドネシア大学	2009年12月9日	1(1)	1	1
	ボゴール農科大学	2010年6月4日	2(2)	5(3)	1
	デイボネゴロ大学	2010年6月30日	9(9)	1(1)	1
	バンドン工科大学	2010年11月22日	2(2)		1
	サムラトランギ大学	2011年2月8日	1(1)		
	パテイムラ大学	2014年3月25日	8	1	1
タイ	スリウイジャヤ大学	2015年11月2日	3(2)	1(1)	
	メジヨー大学	2001年4月30日	3	16(14)	1
	国立モンクット王トンプリ工科大学	2002年1月16日		13(9)	
韓国	カセサート大学	2008年7月1日	4(1)		1
	スラナリ工科大学	2009年4月17日	3(1)	1(1)	1
	釜慶大学	1995年7月6日	8(2)	1	
	全北大学	1997年4月22日	23(18)	31(23)	
	群山大学	1997年12月1日	3(3)		
	済州大学	1998年1月30日	1(1)	1	
	江陵原州大学	2001年2月8日	16(15)	9(8)	
	江原大学	2002年4月5日	1		2
	公州大学	2004年10月18日			
	木浦大学	2010年5月28日	3(2)		1
中国	祥明大学	2013年5月13日	3(3)	5(1)	
	忠北大学	2016年8月18日	10	3	
	湘潭大学	1986年12月11日	7(7)		
	雲南農業大学	1989年5月11日	13(10)	12(8)	3
	湖南農業大学	1989年6月2日	10(4)	2	3
	中南大学	1993年6月15日	7(6)	2	3
	中国医科大学	1993年9月13日	5(4)		3
	湖南大学	1995年8月23日	3(3)		
	南京工業大学	1999年9月14日	5(5)		
	東北師範大学	2001年11月13日	1(1)		
	中国人民大学	2002年7月1日			
	東北大学	2004年12月3日	5(5)		
	重慶大学	2006年5月22日	2(2)		
	山東師範大学	2009年12月24日	8(3)	1	
	上海海洋大学	2011年10月24日	3(3)	1(1)	
	首都経済貿易大学	2013年3月1日			
	華東政法大学	2013年10月10日	2(2)		
大連海事大学	2015年7月27日	4(4)		1	
バングラデシュ	ダツカ大学	2013年12月24日			
フィリピン	バングラデシュ農業大学	2014年12月27日	3(3)		1
ベトナム	フィリピン大学	2007年12月12日	3(3)	4(2)	3
	ベトナム国家農業大学	2002年3月6日	1	3(1)	
	ハノイ貿易大学	2002年12月25日	3(3)		
マレーシア	ベトナム社会科学院	2007年5月23日			
	アンジャン大学	2013年8月7日			
	ニャチャン大学	2015年7月31日	3(3)	5(3)	
	マレーシアアトレンガヌ大学	2005年4月22日			2
台湾	マレーシアサバ大学	2009年3月4日	9(3)		1
	マレーシアアプロラ大学	2010年3月16日			
	マレーシア国際イスラム大学	2013年10月29日		3	
	淡江大学	2005年11月5日		1(1)	
	国立高雄海洋科技大学	2008年2月29日			
オーストラリア	国立高雄大学	2009年4月1日	4(4)	3(2)	
	国立高雄大学	2016年4月7日		1	
	国立成功大学	2005年12月13日		5	1
	ニューイングランド大学	1995年7月20日	2(2)	1(1)	
パプアニューギニア	シドニー工科大学	2000年3月1日		2(2)	
南太平洋12カ国・地域	パプアニューギニア大学	1987年5月29日			
アメリカ合衆国	南太平洋大学	1982年7月21日			1
	ジョージア大学	1979年11月29日	2(2)	8(5)	
	マイアミ大学	1992年11月30日			1
	グアム大学	2006年4月5日		6(5)	1
	アルフレッド大学	2006年11月8日			
	西ジョージア大学	2007年5月23日			
	サンノゼ州立大学	2012年4月23日		18(13)	
ブラジル	ノースダコタ州立大学	2014年1月15日	3(0)	14(12)	1
	サンカルロス連邦大学	2011年8月19日		13(11)	
スウェーデン	アマソナス連邦大学	2016年4月28日	1(1)	15(11)	
スベイン	リンシェーピング大学	2010年6月11日		5(5)	
スロバキア	パレンシア工芸大学	2000年2月7日		1(1)	
ドイツ	スロバキア農業大学	2015年5月1日		2(2)	
フランス	カール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルク	2015年7月27日		8(4)	
	レンヌ第2オート・ブルターニュ大学	2010年7月1日	4(4)	4(4)	
トルコ	ボルドー・モンテーニュ大学	2017年1月26日			
パラグアイ	アンカラ大学	2012年12月10日	5(5)		
エジプト	国立アスンシオン大学	2016年3月9日			
	カフルアツシャイフ大学	2011年9月5日			

(注)受入数・派遣数欄は、教職員・学生の学術交流数。()は、学生交流数で内数。

■部局間学術交流協定校(24カ国・地域、58機関)

(平成28年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
中国	長江師範大学外国語学院	2012年3月26日	2 (2)		
	内蒙古大学民族学与社会学学院	2016年11月1日			
	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日			
法文学部・人文社会科学研究所				2 (2)	
韓国	釜山大学校社会科学大学	2007年3月8日	4 (1)	20 (15)	
韓国	韓国外国語大学校日本語大学	2013年1月22日		1 (1)	
台湾	国立台北教育大学	2012年4月1日	2 (2)	7 (1)	
ドイツ	ボン大学哲学学部	2006年9月26日	3 (3)	3 (3)	
フランス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日		2	
教育学部附属中学校					
台湾	台北市立大直高級中学校	2013年12月16日			
インドネシア	インドネシア科学院生物学研究センター	2006年2月20日			3
ナイジェリア	インドゥフ・アリケ・イクウォ連邦大学理工学部	2014年3月28日			
	ナイジェリア大学物理科学部	2014年4月1日	1		
医学部					
韓国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日	14 (12)	8 (6)	
鹿児島大学病院					
韓国	韓国中央大学病院	2015年1月28日	2	4	
医学部					
インドネシア	国立アイルランガ大学歯学部	2012年11月19日	1 (1)	5 (2)	
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	2014年10月30日			
	マンダレー歯科大学	2014年10月30日			
モンゴル	国立モンゴル医科大学歯学部	2014年1月13日			
カナダ	国立モンゴル医科大学生命医科学部	2014年1月13日			1
	ブリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日		5 (4)	
工学部					
タイ	チュラロンコン大学石油及び石油化学研究科	2000年7月28日			
農学部					
中国	四川大学錦江学院白酒学部	2011年12月16日	7 (4)		
台湾	中国文化大学農學院	2012年10月3日			
ドイツ	ロツテンブルク林業大学	2013年11月5日		16 (11)	
タンザニア	ソコイネ農科大学	1999年8月30日			
タイ	メーファンラン大学農産学部	2016年11月14日			
マラウイ	リロングウエ農業天然資源大学	2016年8月23日			
ミャンマー	パテイン大	2016年12月4日	1	8 (6)	
水産学部					
インドネシア	ハサヌティン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日			
タイ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日		3	
韓国	韓国海海洋研究所	2001年9月28日		1	
中国	大連海洋大学院	2003年10月21日			
	浙江海洋学院	2011年4月5日			
	中国国家海洋局第2研究所	2014年10月9日			
台湾	国立台湾海洋大学院	2010年7月15日			
フィリピン	国立嘉義大学生命科学院	2016年11月28日	3		
ベトナム	サンカルロス大学文理学部	2012年5月30日			
スベイン	カントー大学水産・養殖学部	2009年5月25日		1	
エリトリア	アンリカント大学	2012年3月28日			
エリトリア	海洋科学技術大学	2011年4月30日			
大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定	サムラトランギ大学(インドネシア)		3 (3)		
	フィリピン大学ヴィサヤス校(フィリピン)		4 (4)	49 (42)	
	カセサート大学(タイ)	2014年8月19日	5 (4)	17 (3)	
	トレンガヌ大学(マレーシア)		4 (4)		
共同獣医学部					
ハンガリー	チッタゴン獣医動物科学大学	2013年6月23日			
フランス	ヴェットアグロ・スーブ(フランス獣医学農学高等教育学校)	2015年8月25日			
トルコ	アフイヨン・コジャテペ大学	2014年4月1日			
理工学研究所					
韓国	韓国沿岸生態学研究所(海洋環形動物資源バンク)	2016年11月28日	1		1
インド	南グジャラーター大学大学院	2011年9月13日			
タイ	モンクット王工科大学ラカバン校工学部	2016年4月1日			
マレーシア	マレーシア工科大学機械工学部	2011年12月26日	1		2
ベトナム	ベトナム工科大学	2012年7月6日		2	
アメリカ合衆国	州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所	2015年11月30日	1	4 (2)	
フランス	リヨン化学物理電子学院(理工系高等専門教育機関)	2014年10月3日		1 (1)	
イタリア	フィレンツェ大学建築学科	2016年10月13日	6 (4)		1
フランス-日本-ベトナム 特異点ネットワーク(国際研究ネットワーク(GDRI))	フランス国立科学研究センター(フランス)				
	エックス・マルセーユ大学(フランス)				
	ソフィア・アンティポリス・ニース大学(フランス)				
	パリ・ディデロ・パリ第7大学(フランス)				
	ピエール・エ・マリイ・キュリー・パリ第6大学(フランス)				
	ストラスブール大学(フランス)	2015年1月1日			
	ベトナム科学技術アカデミー(ベトナム)				
	北海道大学(日本)				
東北大学(日本)					
九州大学(日本)					
医歯学総合研究科					
インドネシア	ジェンパー大学医学部	2008年3月25日	1 (1)		
タイ	パジャジャラン大学医学部	2012年11月13日			
ハンガリー	プリンスオブソクラー大学医学部	2011年3月11日			
	ハンガリー医学研究所	2014年3月24日			
ベトナム	ダツカ医科大学・附属病院	2014年6月17日			
ネパール	ハノーイ医科大学	2008年5月9日	1 (1)		
ネパール	ネパールガンジ医科大学	2016年7月31日			

(注) 受入数・派遣数欄は、教職員・学生の学術交流数。()は、学生交流数で内数。

■外国へ留学した学生数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
大学間学術交流協定校	11	13	18
部局間学術交流協定校	4	6	5
鹿児島大学学生海外研修支援事業	241	252	282
トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム	6(5)	4	13(10)
鹿児島県清華大学留学支援奨学金交付事業	0	5	5
鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業(長期派遣留学)			9
その他(個人渡航等)	56	67	52
合計	317	347	381

※()内は、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムの留学生数のうち学術交流協定校への留学生数を除いた数を示す。

■鹿児島大学学生海外研修支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。(平成22年度より実施)

(平成28年度実績)

開講部局	開講期	授業科目名	授業担当者部局	支援人数	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	派遣国
教育センター	前期	太平洋島嶼学特論	国際島嶼教育研究センター	5	H28.9.4	H28.9.11	8	ミクロネシア連邦・米国(グアム)
	前期	東アジア社会の共通課題は何か? (日韓研修)	グローバルセンター	10	H28.8.12	H28.8.26	15	韓国
	前期	国際協力体験講座-ミャンマーコース-	農学 学 部	6	H28.9.6	H28.9.16	11	ミャンマー
	前期	国際協力体験講座-タイコース-	農学 学 部	14	H28.9.7	H28.9.16	10	タイ・ラオス
	前期	北米におけるグローバル人材育成	北米教育研究センター	8	H28.8.25	H28.9.15	22	米国
	前期	南米における進取の気風研修計画 ※	かごしまCOCセンター	11	H28.9.15	H28.9.30	16	ブラジル
	前期	イスラームの多様性を学ぶ	グローバルセンター	10	H28.9.18	H28.10.1	14	イラン
	前期	グローバル人材育成(雲南)	農学 学 部	8	H28.9.19	H28.9.29	11	中国
	後期	海外研修基礎コース in カリフォルニア ※	グローバルセンター	9	H29.2.19	H29.3.5	15	米国
	後期	海外研修基礎コース in ハワイ	教育センター	30	H29.3.2	H29.3.13	12	米国
	後期	海外研修基礎コース in 東南アジア	グローバルセンター	11	H29.2.12	H29.2.24	13	シンガポール
	後期	国際感覚を持つバイテック人材育成 ※	農学 学 部	9	H29.2.15	H29.2.26	12	タイ
法文学部	前期	法律学特殊講義(外国の法を学ぶ)	法文学部	7	H28.9.26	H28.10.4	9	カナダ
	前期	フィールド学実習(文化人類学)	法文学部	17	H28.8.26	H28.8.31	6	韓国
	後期	海外短期留学I	法文学部	2	H29.2.19	H29.3.12	22	米国
教育学部	前期	国際理解教育調査研究I	教育学部	5	H28.8.21	H28.8.26	6	韓国
	後期	理科教育特講 ※	教育学部	3	H29.2.18	H29.2.28	11	ドイツ
教育学研究科	後期	中等理科教育学特論演習	教育学研究科	1	H29.2.18	H29.3.7	18	ドイツ
理工学研究科	前期	理工系国際コミュニケーション海外研修	理工学研究科	11	H28.6.18	H28.9.12	87	米国
	前期	選択実習(脳神経外科)	医学部	2	H28.4.19	H28.6.19	62	米国
	前期	選択実習(脳神経外科)	医学部	1	H28.4.11	H28.5.11	31	インドネシア
	前期	選択実習(脳神経外科)	医学部	1	H28.5.4	H28.6.30	58	カナダ
	前期	緩和ケア論	医学部	6	H28.9.4	H28.9.9	6	韓国
	前期	家族看護論 ※	医学部	6	H28.9.3	H28.9.10	8	米国
保健学研究科	前期	基礎看護・地域看護学特別研究 ※	保健学研究科	1	H28.9.3	H28.9.10	8	米国
	後期	周産期医療論 ※	保健学研究科	7	H29.2.18	H29.2.24	7	ニュージーランド
歯学部	前期	歯学研究I	歯学部	4	H29.9.18	H28.10.1	14	カナダ
	後期	歯学研究I	歯学部	2	H29.3.10	H29.3.21	12	インドネシア
農学部	前期	海外森林・林業事情特論、国際森林論	農学部・農学研究科	10	H28.9.10	H28.9.19	10	ドイツ
	前期	食料環境システム学Ⅲ ※	農学部	17	H28.8.16	H28.8.23	8	タイ
	前期	食料環境システム学特論Ⅱ ※	農学研究科	5	H28.8.16	H28.8.23	8	タイ
農学研究科	後期	国際バイテック・リーダー育成 ※	農学研究科	3	H29.2.15	H29.2.26	12	タイ
水産学部	前期	実用英語(海外研修) および海外研修	水産学部	28	H28.8.10 H28.9.14	H28.8.24 H28.9.28	15	フィリピン
	前期	Tropical Fisheries	水産学部	9	H28.6.20	H28.7.1	12	フィリピン
共同獣医学部	前期	獣医学特別研修	共同獣医学部	2	H28.8.15	H28.8.21	7	台湾
	前期	獣医学特別研修	共同獣医学部	1	H28.8.13	H28.8.28	16	米国
合計				282				

※は、鹿大「進取の精神」支援基金による支援(地域貢献型)

鹿兒島大学学生海外留学支援事業

大学憲章及び学生憲章に謳われている「進取の気風にあふれ、困難な課題に果敢に挑戦し、国際的に通用する人材」を育成するため、海外の学術協定交流校へ6月以上1年未満の期間に留学する日本人学生を経済的に支援することを目的とする。(平成23年度より実施)

派遣年度	支援人数合計	支援実績(派遣国・地域、支援人数)
平成23年度	6名	韓国4名、台湾1名、ドイツ1名
平成24年度	12名	タイ1名、中国3名、ドイツ3名、フランス1名、台湾3名、韓国1名
平成25年度	8名	韓国2名、台湾2名、スペイン1名、フランス2名、ドイツ1名
平成26年度	15名	米国1名、オーストラリア1名、スウェーデン1名、タイ1名、韓国4名、中国1名、ドイツ1名、フィリピン1名、フランス2名、台湾2名
平成27年度	20名	米国3名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、タイ1名、韓国4名、ドイツ2名、フランス2名、台湾1名、インドネシア1名、スペイン1名
平成28年度	19名	米国2名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、韓国4名、ドイツ3名、フランス2名、インドネシア1名、スペイン2名

鹿大「進取の精神」支援基金事業

鹿兒島地域の活性化に資するグローバル人材を育成することを目的として、学生海外派遣事業、外国人留学生受入推進事業を行う。(平成28年度より実施)

事業名	事業年度	概要	支援実績
学生海外派遣事業 (長期派遣留学、海外研修(地域貢献型))	平成28年度	【長期派遣留学】 グローバルな視点で革新的に地域を見る目を備え、新たな視点で仕事を創出して地域活性化に資する、将来鹿兒島の地域で活躍するグローバル人材を育成することを目的とする。留学期間は、原則として10週間以上1年未満。	米国7名 オーストラリア1名 フィンランド1名
		【海外研修(地域貢献型)】 地域貢献型海外研修は、シラバスに記載された授業として行う研修のうち、地域活性化に資するグローバル人材育成を目的とした28日以下の海外研修を支援対象とする。	総数71名：詳細は、「鹿兒島大学学生海外研修支援事業(地域貢献型)」に掲載
留学生受入推進事業 (長期)	平成28年度	地域と連携し、地域に貢献するテーマで学位を取得する大学院生を主な支援対象とする。在学中に教育活動を含む地域貢献や地域活性化に寄与する活動、鹿兒島を世界に発信する活動などを行い、活動の対価として支援を行う。帰国後も鹿兒島との繋がりを維持してもらう。	バハマ1名
留学生受入推進事業 (中・短期留学生受入日本語研修)	平成28年度 (H29.2.15~H29.2.25)	鹿兒島大学に短期間留学する外国人留学生に対し、地域での多様な活動を提供し、参加・情報発信する事で地域貢献を行う。参加留学生にレベルに応じた日本語研修プログラムを提供すると共に、鹿兒島情報発信といった地域と連携した活動を実施する。鹿兒島地域を理解し発信できる人材を育成し、帰国後もつながりを維持する事によって、国外での継続的な鹿兒島情報の発信や参加者の本学への再留学に繋げる。	中国：湘潭大学6名 韓国：祥明大学6名
若手研究者支援事業 (地域貢献型)	平成28年度	次世代を担う若手教員の教育研究能力等の向上を図るため、海外の教育研究機関での研修支援や、若手研究者や女性研究者の研究活動費の助成を行う事業の中でも特に、鹿兒島地域への貢献、活性化につながるテーマを持つ研修および研究活動を支援対象とする。研修期間は2ヶ月以上1年以内。	米国1名、フランス1名： 詳細は、「鹿兒島大学若手教員海外研修支援事業(地域貢献型)」に掲載

海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)

海外留学支援制度(協定派遣) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、在籍大学等に在籍したまま8日以上1年以内の期間、在籍大学等が実施する派遣プログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。

海外留学支援制度(協定受入) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、諸外国の大学等に在籍したまま8日以上1年以内の期間、受入れ大学等が実施する受入れプログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。

プログラム区分	プログラム名	国または地域	人数	プログラム開始日	プログラム終了日
派遣	ひつ飛び!進取の気風派遣留学プログラム	米国、インドネシア、オーストラリア、スウェーデン、スペイン、韓国、ドイツ、フランス	19	H28.4.1	H30.2.28
派遣	大学院理工系イノベーション海外研修プログラム(カリフォルニア研修) Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation (GOES CA)	米国	14	H28.6.20	H29.3.15
派遣	大学院理工系地域イノベーション海外研修プログラム(ノースダコタ研修) Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Regional Innovation (GOES ND)	米国	2	H28.8.26	H28.10.28
派遣	国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム	米国	2	H28.8.13	H28.8.28
派遣	ボーダレス獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム	台湾	4	H28.8.12	H28.8.28
派遣	熱帯水産学国際連携プログラムの推進(派遣)	フィリピン、ベトナム、タイ	28	H28.6.21	H28.11.30
派遣	イスラームの多様性を理解するためのトルコ・イラン研修	イラン	10	H28.9.18	H28.10.1
派遣	学的カリキュラムとして実施する国際プロフェッショナル人材育成プログラム	韓国、米国、シンガポール	71	H28.8.12	H29.3.13
派遣	第6回 南米における進取の気風研修計画	ブラジル	11	H28.9.15	H28.9.30
派遣※	進取の気風育成短期派遣留学プログラム	オーストラリア、スウェーデン、フランス、スペイン、インドネシア、米国、韓国	9	H27.7.27	H28.12.16
受入	鹿兒島大学スタディ・ジャパン・プログラム	中国、韓国、インドネシア、トルコ、米国、フランス、台湾、ドイツ、スペイン	50	H28.4.1	H29.8.31
受入	熱帯水産学国際連携プログラムの推進(受入)	フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム	18	H28.8.20	H28.9.28
受入	アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材育成	インドネシア、中国	4	H28.10.1	H29.9.30
受入	中国・雲南農業大学「日本国・鹿兒島大学への短期留学」	中国	8	H28.12.7	H28.12.16
受入※	鹿兒島大学スタディ・ジャパン・プログラム	中国、韓国、フィリピン、ベトナム、米国、フランス、ドイツ	24	H27.4.1	H28.8.31
受入※	アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材養成	中国	4	H27.10.1	H28.9.24

※は、平成27年度に採択され平成28年度継続したプログラムです。

鹿兒島大学学生海外学会発表支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、海外で研究発表を行う学生を支援することを目的とする。

(平成26年度より実施)

申請者所属部局	26年度	27年度	28年度
理工学研究科(理学系)	3名	11名	14名
理工学研究科(工学系)	17名	18名	16名
医学部		1名	5名
歯学部		1名	2名
工学部	2名		
農学部		3名	
水産学研究科		2名	2名
医歯学総合研究科	2名	1名	14名
農学研究科		1名	
連合農学研究科		3名	2名
人文社会科学研究科			1名
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター			1名
合計支援者数	24名	41名	57名

鹿兒島大学若手教員海外研修支援事業

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。(平成21年度より実施)

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成26年度 (研修人数5名)	教育学部	イギリス	含鉄長石の結晶構造に関する研究
	理工学研究科(理学系)	フランス	イオン液体の基礎物性・応用に関する共同研究
	理工学研究科(工学系)	イギリス	斜陽産業都市における持続可能な居住地のプランニングとデザインに関する研究
	医歯学総合研究科(医学系)	ドイツ・イタリア	神経内視鏡を用いた頭蓋底外科手術・脊椎髄外科手術、脳幹の神経モニタリングに関する知識・技術の習得
	医学部・歯学部附属病院	カナダ	新生仔ブタモデルを用いた小児腸管不全の病態解明および治療法の研究
平成27年度 (研修人数4名)	教育学部	オーストリア	フーゴ・ヴォルフのピアノ作品自筆譜に関する研究
	医歯学総合研究科(医学系)	ドイツ	腫瘍核医学に関する知識・技術の習得
	医歯学総合研究科(歯学系)	アメリカ	歯をモデルにした幹細胞への進化発生学的アプローチ
	理工学研究科(工学系)	カナダ	神経科学的知見に裏付けられた視覚的注意の処理モデル構築
平成28年度 (研修人数6名)	法文学部	米国	社会心理・行動研究に関する進化論的視点の洗練と研究ネットワークの構築
	教育学部	フランス	メイエルソン文書の研究～フランス歴史心理学の形成～※
	理工学研究科(理学系)	米国	アルマ望遠鏡、VLA望遠鏡を用いた晩期型星周領域の研究
	理工学研究科(工学系)	オーストラリア	地盤災害に関する数値解析プログラムの開発と土木工学の研究教育方法や研究教育体制に関する研修
	農学部	米国	窒素安定同位体を用いた樹木の窒素吸収経路および窒素吸収量の推定手法の修得※
	共同獣医学部	カナダ	新規腸管漏出モデルマウスを利用した機能性食品によるアレルギー発症抑制メカニズム

※は、鹿大「進取の精神」支援基金による支援(地域貢献型)

■外国人研究者等受入状況

【受入身分別】

(平成28年度)

区 分	法学部	教育学部	理学部	医学部	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	鹿児島大学病院	人文社会科学研究科	理工学研究科(理)	理工学研究科(工)	歯学総合研究科	連合農学研究科	学共施設等	事務局	合計
外国人教員等	4	2	2	5	4	3	2	2		1	2	3	8	0	5		43
外国人研究員															2		2
国際協力機構(JICA)						2	23										25
日本学術振興会(JSPS)				2		3	1				2	1	1				10
科学研究費補助金			1				4				2	1	7		9		24
外国政府・機関等支弁による研究員						5							1	1			7
その他の研究員			1			9	9	2	4		7	4	2		10		48
視察・来訪等	5	11		1	2	57			13			1	6		14	35	145
合 計	9	13	4	8	6	79	39	4	17	1	13	10	25	1	40	35	304

■教職員の海外渡航件数

【地域別】

(平成28年度)

地 域	法学部		教育学部		医学部		農学部		水産学部		共同獣医学部		鹿児島大学病院		人文社会科学研究科		理工学研究科(理)		理工学研究科(工)		歯学総合研究科		司法政策研究科		臨床心理学研究科		連合農学研究科		学共施設等		事務局		合計	
	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修		
アジア	31	7	11	3	1		47	7	40		11		45	1			33		33	2	56	8		1			2		20	6	5	335	35	
大洋州	1		1				1					1				9	2	1	7									7	1		29	2		
北 米	7	2	3	1			5	1	4	5	2	45	3	1	17		14				56	8			3			16	4	2	178	21		
中南米	2						1		5			2									1							1	1		12	1		
欧 州	4	2	10	7			11		2	12		21				18	2	19	1	30	12			1			3	2		131	26			
中 東							1		1			1			1		3										2	1		10	1			
アフリカ							2	2			1				2													1			5	2		
その他																															0	0		
小 計	45	11	25	11	1	0	68	10	52	0	29	2	115	4	1	0	80	2	71	4	150	28	0	1	4	0	2	0	48	16	8	0	700	88
合 計	56		36		1		78		52		31		119		1		82		75		178		1		4		2		64		8		788	

【経費別】

(平成28年度)

経費の種類	法学部	教育学部	医学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	鹿児島大学病院	人文社会科学研究科	理工学研究科(理)	理工学研究科(工)	歯学総合研究科	司法政策研究科	臨床心理学研究科	連合農学研究科	学共施設等	事務局	合計
自機関の運営資金	23	10		33	26	1	6		1	10	18		3	1	29	8	179
外部資金	政府																
	文部科学省				2		12										14
	その他官庁																0
	科学研究費補助金	12	11		14	5	1	34		31	16	42				12	178
	日本学術振興会(JSPS)													1			1
	科学技術振興機構(JST)								1	1							2
	その他政府関係機関等																0
	外国政府・研究機関及び国際機関															1	1
	奨学寄附金	4			13	4		65		7	18	59				1	171
	その他外部資金	7	6		11	14		4	1	15	6	17		1		3	85
受託研究費・受託事業費					2	8	5		13	7	16				3	54	
共同研究費					1	3			1	13						18	
その他	10	9	1	5		6	5		3	4	26	1			15	85	
合 計	56	36	1	78	52	31	119	1	82	75	178	1	4	2	64	8	788

■部局別国際共同研究実施件数

(平成28年度)

法学部	教育学部	鹿児島大学病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理学系)	理工学研究科(工学系)	歯学総合研究科	学共施設等	合計
1	1	4	19	3	5	28	21	34	25	141

■出身国(地域)別(37か国・地域307名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(平成29年5月1日現在)

地域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	合計	連合獣医学研究科
アジア地域	ミャンマー						1①			1		2①	
	タイ					1	1①			1		3①	
	マレーシア	1		1		6						8	
	インドネシア		2	1①	8④	2	2	1		4③		20⑧	
	フィリピン		1							1①		2①	2②
	韓国	6	9①	3	3	7	4		1			34①	
	ベトナム	1			2①	3	10⑥	3②		6①	1①	26⑩	1
	中国	54①	12	6	4	23	17	12①		7		135②	
	台湾		2									2	1
	パキスタン				1							1	
ネパール				3							3		
バングラデシュ			1	1	1①					16⑩		19⑩	2②
スリランカ									5③			5③	
中近東地域	イラン				1①							1①	
	トルコ	1	1									2	
アフリカ地域	エジプト			1						2①		3①	
	タンザニア				1①					1①	1①	3③	
	ナイジェリア			1								1	
	ガボン											0	1①
	マラウイ										1①	1①	
	ベナン									2①		2①	
エリトリア							1		1		2		
ヨーロッパ地域	ドイツ	1	1				1					3	
	フランス	1	1									2	
	スペイン	1				1						2	
	ルーマニア	1										1	
北米地域	アメリカ合衆国	1										1	
中南米地域	パナマ									1①		1①	
	バハマ									1	1①	2①	
	ブラジル	2①			1							3①	
	アルゼンチン				1①							1①	
	ペルー	1										1	
ガイアナ										1①	1①		
大洋州地域	オーストラリア	1	1									2	
	バブアニューギニア									1①		1①	
	フィジー							1①		1①		2②	
	ソロモン諸島									1①	1①	2②	
合計		72②	30①	14①	26⑧	44①	36⑧	18④	1	53②	6⑥	300⑤	7⑤

(注)○印内は内数で国費留学生を示す。

■在籍別

(平成29年5月1日現在)

在籍身分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	合計	連合獣医学研究科
大学院 博士[博士後期]	4			7④							7④	2①
〃 〃	3		2	2①	4①				13⑦		24⑨	2②
〃 〃	2	4	1	5②					22⑨		32⑩	2②
〃 〃	1	5①		7	2				18⑨		32⑩	1
〃 修士[博士前期]	2	12	3		7	6	4				32	
〃 〃	1	10	2	1①	1	9②	6①				29④	
学部	6										0	
〃	5										0	
〃	4	1	4		2		1				8	
〃	3	2	1①		6	2		1			12①	
〃	2	1	1	1	9	6④					18④	
〃	1	5	2		9	5②	2②				23④	
研究	4	1		1		2	2①				10①	
特別研究学生			2		1	2					5	
特別聴講学生	25①	24①	1	2	3	4	3				62②	
日本語研修コース生										6⑥	6⑥	
合計	72②	30①	14①	26⑧	44①	36⑧	18④	1	53②	6⑥	300⑤	7⑤

※○印内は内数で国費留学生を示す。

※大学院連合農学研究科 53名の内訳：鹿大 26⑩ 佐大 13⑥ 琉大 14⑨ (○内は国費留学生を示す。)

■経費種別

(平成29年5月1日現在)

種 別	国 費		私 費		合 計		
	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	
国 費 留 学 生	38 (14)	9 (6)	1		2	6 (2)	56 (22)
ブラジル政府派遣留学生							
外国政府派遣留学生	10 (5)	2					12 (5)
鹿児島県費留学生			3 (2)				3 (2)
私 費 留 学 生	108 (56)	50 (21)	6 (3)	5 (3)	60 (39)		229 (122)
計	156 (75)	61 (27)	10 (5)	5 (3)	62 (39)	6 (2)	300 (151)
連合獣医学研究科							
国 費 留 学 生	5 (1)						5 (1)
私 費 留 学 生	2						2
計	7 (1)						7 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

■学部別

(平成29年5月1日現在)

学 部	国 費		外国政府派遣		鹿児島県費留学生		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部		1		2 (1)	9 (6)	21 (16)			33 (23)
教 育 学 部		1				23 (15)			24 (15)
理 学 部	1 (1)				7 (5)	1 (1)			9 (7)
医 学 部									
歯 学 部					1				1 (0)
工 学 部			2		24 (7)	3 (1)			29 (8)
農 学 部	6 (4)				7 (1)	7 (3)			20 (8)
水 産 学 部	2 (1)				1 (1)	3 (1)			6 (3)
共同獣医学部					1 (1)				1 (1)
合 計	9 (6)	2 (0)	2 (0)	2 (1)	50 (21)	58 (37)			123 (65)

(注) ()は女子を内数で示す。

■大学院別

(平成29年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣			鹿児島県費留学生			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科		1								22 (17)	11 (8)	5 (3)	39 (28)
教育学研究科										5 (4)		1	6 (4)
医歯学総合研究科	1	7 (4)									14 (5)	2 (1)	24 (10)
保健学研究科							1 (1)						1 (1)
理工学研究科		1		1 (1)	2 (1)					7 (1)	6 (3)	3 (2)	20 (8)
農学研究科	2 (1)									13 (7)		1 (1)	16 (9)
水産学研究科	1		1	1						8 (1)		1 (1)	12 (2)
連合農学研究科		25 (9)			6 (3)						22 (10)		53 (22)
合 計	4 (1)	34 (13)	1 (0)	2 (1)	8 (4)	1 (1)				55 (30)	53 (26)	13 (8)	171 (84)
連合獣医学研究科		5 (1)									2		7 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

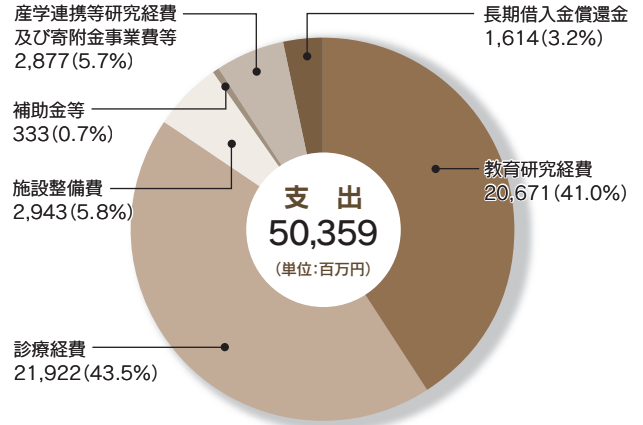
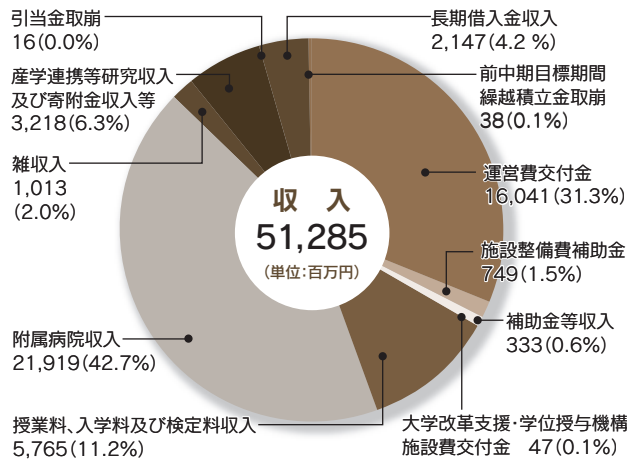
■機構・学内共同教育研究施設別

(平成29年5月1日現在)

総 合 教 育 機 構	国 費		合 計
	学部学生	研究生等	
グローバルセンター	6 (2)		6 (2)
合 計	6 (2)		6 (2)

(注) ()は女子を内数で示す。

■平成28年度収入・支出決算額



(単位:百万円)

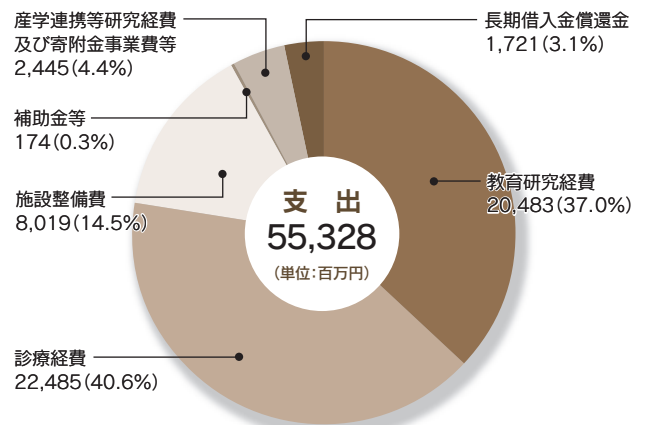
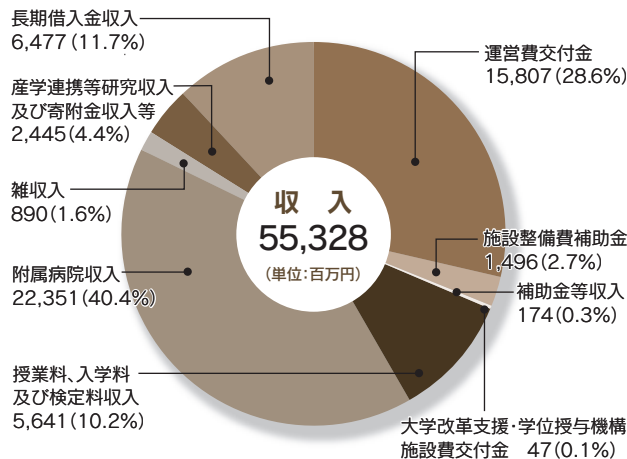
収入	金額
運営費交付金	16,041
施設整備費補助金	749
補助金等収入	333
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
授業料、入学科及び検定料収入	5,765
附属病院収入	21,919
雑収入	1,013
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,218
引当金取崩	16
長期借入金収入	2,147
前中期目標期間繰越積立金取崩	38
合計	51,285

(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	20,671
診療経費	21,922
施設整備費	2,943
補助金等	333
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,877
長期借入金償還金	1,614
合計	50,359

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■平成29年度予算



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	15,807
施設整備費補助金	1,496
補助金等収入	174
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
授業料、入学科及び検定料収入	5,641
附属病院収入	22,351
雑収入	890
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,445
長期借入金収入	6,477
合計	55,328

(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	20,483
診療経費	22,485
施設整備費	8,019
補助金等	174
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,445
長期借入金償還金	1,721
合計	55,328

■科学研究費助成事業

【種目別採択状況(平成29年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
基盤研究(S)	0	0	若手研究(A)	4	20,600
基盤研究(A)	3	16,800	若手研究(B)	98	102,300
基盤研究(B)	65	241,800	研究活動スタート支援	7	7,400
基盤研究(C)	328	365,500	奨励研究	9	4,940
特定領域研究	0	0	特別研究員奨励費	8	7,000
新学術領域研究	2	28,600	研究成果公開促進費 (学術図書)	3	4,500
挑戦的萌芽研究	29	25,000	合計	556	824,440

(注)金額は直接経費

【学部等別採択状況(平成29年度)】

(単位:千円)

学部等	平成29年度		学部等	平成29年度	
	件数	金額		件数	金額
学内共同教育研究施設等	25	43,550	農学部	28	35,700
法文学部	33	34,300	共同獣医学部	19	38,900
教育学部	35	30,860	水産学部	17	22,200
大学院理工学研究科(理学系)(~21.3理学部)	38	61,800	大学院医歯学総合研究科	177	292,670
医学部	16	18,400	司法政策研究センター	1	400
医学部・歯学部附属病院	96	107,010	大学院臨床心理学研究科 (~19.3 大学院人文社会科学研究科)	2	1,700
大学院理工学研究科(工学系)(~21.3工学部)	66	134,350	大学院連合農学研究科	3	2,600
			合計	556	824,440

■厚生労働科学研究費

(単位:千円)

研究事業名	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患克服研究事業)	1	32,800 (7,013)				
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	1	2,496 (576)	1	1,539 (461)		
合計	2	35,296 (7,589)	1	1,539 (461)	0	0 (0)

★26年度については、委託事業として実施

(注)平成27年度から厚労科研の一部は日本医療研究開発機構委託事業(AMED)へ移管されました。(受託研究として計上)

下段()書きは、間接経費で外数

研究事業名の()書きは、平成25年度までの研究事業名

■奨学寄附金

(単位:千円)

学 部 等	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	44	22,889	771	55,298	140	81,003
学内共同教育研究施設	3,100	52,790	3,708	45,528	2,498	32,740
法文学部・司法政策研究科・臨床心理学研究科	29	7,593	20	13,438	26	14,749
教育学部(附属学校含む)	16	9,274	27	11,808	50	28,302
理 学 部	-	-	1	500	-	-
医学部・保健学研究科	10	4,866	37	10,110	31	9,726
歯 学 部	-	-	1	1,000	6	1,759
工 学 部	-	-	-	-	-	-
理工学研究科	226	110,993	193	103,114	235	134,422
農 学 部	47	24,182	66	64,488	66	53,338
連 合 農 学 研 究 科	-	-	2	2,196	3	4,124
水 産 学 部	47	31,986	37	17,571	41	43,619
共 同 獣 医 学 部	45	28,058	50	30,268	37	23,577
連 合 獣 医 学 研 究 科	-	-	1	171	-	-
大学院医歯学総合研究科	1,168	1,008,147	1,160	1,032,843	1,239	1,080,347
鹿児島大学病院	114	47,490	168	75,989	189	76,672
合 計	4,846	1,348,271	6,242	1,464,331	4,561	1,584,383

(注) 1. 件数、金額には、平成26年度・・・3,371件、171,378千円 平成27年度・・・4,029件、229,189千円 平成28年度・・・2,810件、218,854千円の現物寄附を含む。
(現物寄附の件数に図書の入冊数を含む。)

2. 千円未満切捨てにより作成。
3. 理工学研究科における件数、金額には工学部を含む。

■受託研究

(単位:千円)

学 部 等	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	-	-	-	-	-	-
学内共同教育研究施設等	6	18,395	10	82,787	10	25,486
法 文 学 部	-	-	1	2,000	3	6,637
教 育 学 部	-	-	1	1,500	-	-
医学部・保健学研究科	1	588	-	-	3	4,849
理 工 学 研 究 科	193	447,505	72	439,184	415	528,947
(うち、受託試験)	151	3,970	29	625	362	714
農 学 部	18	38,785	25	39,519	40	356,421
連 合 農 学 研 究 科	-	-	-	-	2	489
水 産 学 部	16	134,926	16	33,875	15	98,830
共 同 獣 医 学 部	297	231,888	297	86,626	279	57,538
(うち、動物病理組織検査)	278	3,705	286	3,876	264	3,163
医 歯 学 総 合 研 究 科	200	150,214	241	464,827	247	517,021
(うち、病理組織検査)	134	47,846	146	53,810	141	54,936
鹿児島大学病院	113	96,962	88	108,797	135	211,324
(うち、医薬品等の臨床研究)	83	78,559	54	93,834	79	148,041
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-
合 計	844	1,119,263	751	1,259,115	1,149	1,807,542
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	646	134,080	515	152,145	846	206,854

(注) 1. 千円未満四捨五入により作成。

■共同研究

(単位:千円)

学 部 等	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	-	-	-	-	-	-
学内共同教育研究施設等	8	5,032	11	4,477	10	9,044
法 文 学 部	-	-	-	-	-	-
教 育 学 部	1	400	1	400	-	-
医学部・保健学研究科	-	-	-	-	-	-
理 工 学 研 究 科	66	61,160	92	86,266	96	117,655
農 学 部	25	23,913	30	12,967	36	22,084
連 合 農 学 研 究 科	-	-	1	1,500	-	-
水 産 学 部	26	23,336	24	17,298	32	27,467
共 同 獣 医 学 部	12	20,845	13	40,712	12	41,974
医 歯 学 総 合 研 究 科	27	37,219	27	39,838	36	33,373
鹿児島大学病院	5	10,619	7	13,863	13	20,573
臨床心理学研究科	1	540	1	990	2	2,610
合 計	171	183,064	207	218,311	237	274,780

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

2. 共同研究契約については、金額の受入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)
3. 千円未満四捨五入により作成。

■土地・建物・船舶

(平成29年5月1日現在)

区分	土地(m ²)	建物(延面積m ²)			備考(単位:m ²)	
		木造	非木造	計		
郡元地区	事務局	233,630 (22)		11,241	11,241	
	保健管理センター			902	902	
	附属図書館			12,703	12,703	
	法文学部			6,930	6,930	
	理学部			13,841	13,841	
	工学部			38,540	38,540	
	農学部		169	24,958	25,127	
	共同獣医学部			14,058	14,058	
	共通教育部			17,440	17,440	
	その他			14,310	14,310	
	教育学部	118,265	690	42,378	43,068	
小計	351,895 (22)	859	197,301	198,160		
桜ヶ丘地区	医学部	218,183 (2)		21,992	21,992	看護師宿舎 (土地 4,431 建物 4,127)
	歯学部			3,115	3,115	
	医歯学総合研究科			35,230	35,230	
	附属病院			87,689	87,689	
	附属図書館			1,978	1,978	
	研究支援センター			4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グラウンド			52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎			3,122	3,122	
小計	218,183 (2)		157,559	157,559		
下荒田地区	水産学部地区	49,154	93	12,106	12,199	宿舎 (土地 3,383 建物 2,028)
	国際交流会館(1号館)			1,430	1,430	
	国際交流会館(2号館)			1,259	1,259	
	国際交流会館(3号館)			1,507	1,507	
	外国人研究者宿泊施設			686	686	
小計	49,154	93	16,988	17,081		
その他	唐湊寄宿舎	24,391		5,694	5,694	宿舎 (土地 2,714 建物 820)
	唐湊果樹園	72,682		1,207	1,207	
	唐湊林園	9,958	19		19	
	寺山自然教育研究施設	300,855		885	885	
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,078	3,538	
	桜島火山観測点	298		31	31	
	霧島リハビリテーションセンター	15,426 (123)	6	4,415	4,421	
	高隈演習林	30,617,478		1,530	1,530	
	佐多演習林	2,974,908				
	入来牧場	1,478,451 (25)	178	3,856	4,034	
	桜島熔岩実験場	372,714				
	指宿植物試験場	30,725	279	2,031	2,310	
	東町ステーション	16,902		1,183	1,183	
	錦江湾ステーション	4,990 (94)		2,150	2,150	
	外国人宿泊施設	344		294	294	
	磯艇庫	408 (202)		243	243	
	海音寺瀬五郎記念東京学生宿泊施設	456		389	389	
	谷山ふ頭	(776)				
	平川艇庫	(340)		208	208	
	甌島観測点	(49)		24	24	
	伊集院観測点	(7)				
	屋久島観測点	(114)		40	40	
	串間観測点	(58)		58	58	
	紫尾観測点	(58)		58	58	
黒島観測点	(58)		58	58		
佐多観測点	(58)		11	11		
高岡観測点	(58)		40	40		
吉松観測点	(47)					
田代観測点	(6)					
その他	(323)		615	615		
小計	35,937,762 (2,396)	942	28,098	29,040		
合計	36,556,994 (2,420)	1,894	399,946	401,840	宿舎(土地 35,762 建物 22,313)	

(注) 1. 土地欄()内数量は借用地。

2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船名	トン数(トン)	機関	馬力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	935.00	電気推進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年3月30日
南星丸	175.00	ディーゼル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

男女共同参画推進センター

男女共同参画推進センター（愛称：“muse篤姫”）は、鹿児島大学男女共同参画基本理念に基づき、「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」をスローガンに掲げ、男女共同参画に係る広報・意識啓発、教職員のワーク・ライフ・バランス支援、女性研究者支援ならびに次世代女性研究者育成など、各種イベントや学内外関係機関との連携を通じて、鹿児島大学の男女共同参画を推進しています。



就職支援センター

全学的な就職支援に関する企画立案及び実施の充実を図ることを目的として設置された就職支援センターは、学部や研究科、学年を問わず、学生のキャリア観を育成し、主体的かつ適切な進路選択を支援するため、主に次のような業務に取り組んでいる。

- (1) 就職支援戦略に関すること
- (2) 就職支援に関すること
- (3) キャリア教育支援に関すること
- (4) 就職支援に係る広報に関すること
- (5) その他本学における就職に関すること



ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、平成20年7月に設置され、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整、災害支援ボランティア活動を行う学生に対する活動費の一部助成などの業務を行って、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援している。



障害学生支援センター

障害学生支援センターでは、つまずきを感じている学生や障害を有する学生および保護者、担当教員からの修学に関わる相談に応じている。専任教員および事務職員が常駐し、障害を有する学生への支援を円滑に実施するため、各部署や保健管理センターと連携を取りながら、必要であれば、支援申請書の提出や修学支援会議を実施し、障害を有する学生が自分らしく豊かな学生生活を送ることができるように、支援を行っている。



インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々と
の交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の
教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研
究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる
施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、入試問題
の閲覧、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、農学部附属農場生産
物等の販売を行うほか、大学紹介DVD等の視聴が可能。



開館時間

月～金曜日
(祝祭日等除く)

9:30～16:30

販売物

鹿大ブランド焼酎(「進取の気風」、「春秋謳歌」、「きばいやんせ」、「天翔宙」、「天翔宙希望の空」)、オリジナルグッズ(ブックカバー、クリアファイル他)、ねじめびわ茶(ティーバッグ、ペットボトル他)、寮歌・学部歌集(CD)、全国藩校サミット鹿児島大会冊子、竹炭製吸臭・調湿材、農学部附属農場生産物(野菜、果物等)

主な展示物

水産学部ツナ缶詰、ポストカード、鹿大口ゴ入り焼酎栓「とめもんそ」(教育学部技術科制作)

歴史展示室

鹿児島大学歴史展示室は、開学60周年を記念して平成21年
11月に中央図書館1階に設置された。同室は、本学の源流である
藩学「造士館」(1773年創立)及び医学院(1774年創立)から、現
在の鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等
農林学校などを含めた237年の歴史を紹介している。第七高等学
校造士館時代の寮報やのぼり、鹿児島高等農林学校時代の学生が
残した卒業論文、昭和40年代に使われた計算尺など、約20点を
展示している。また、情報閲覧用モニター2機を設置し、広報誌等
が閲覧できる。



開館時間

月～金曜日

8:30～21:30

土・日曜日

10:00～18:00

休館日

国民の祝日

年末年始等(12月27日～1月3日)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、
初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、
約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって
壊滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。
この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実
習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹
木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北
アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後
も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園
の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れてい
る。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでいただきたい。



総合研究博物館常設展示室（国登録有形文化財）

鹿児島大学には数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、常設展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示しており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。

開館時間	午前10時～午後5時
観覧料	無料
休館日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始 (その他、臨時休館・閉館あり)



▲常設展示室外観



▲展示室内

稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長から寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。



キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積310.40㎡、延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置された。

グループ学習室、学習ラウンジ及び学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応している。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されている。

〈施設名及び用途〉

階別	施設名	用途等
1階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等



大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施設名	用途等
1	軽食堂	喫茶、食事 (52席)
	理髪室	理髪 (3台)
2	共用談話室	休憩、談話 (48人)
	音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (51人)
3	会議室(1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
	和室(1~5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホール	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがある。

学生サークル会館Ⅰ及びⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホール及びサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて119サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施設名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347㎡	638席	郡元地区
軽食堂(ガロア)	121㎡	59席	郡元地区
郡元南食堂	882㎡	222席	郡元地区
フードコーナー(学際交流プラザ)	530㎡	188席	郡元地区
桜ヶ丘食堂	518㎡	252席	桜ヶ丘地区
水産学部食堂	350㎡	130席	下荒田地区

学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	C棟	鉄筋2階建	629	64
	女子寮	鉄筋4階建	1,600	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,696	99
合計			8,222	412

国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。



(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡
建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡
建物構造/R4

(3号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	15.6	57室
洗濯室	31.2	5室
応接コーナー	15.6	1室

備考:延面積/1,507㎡
建物構造/RC5

外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。



大崎活性化センター

大崎活性化センターは、大崎町との「大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定」の締結により平成23年6月、大崎ものづくり会館内に設置された。

地域社会の教育・文化活動、健康・医療の推進、企業や自治体等との産学官連携活動等を通じて地域の課題解決に取り組み、活力ある地域の活性化を図ることを目的とし、地域教育・研究・交流の拠点として活用されている。

〒899 - 8313

鹿児島県曾於郡大崎町野方6222 - 1

TEL099 - 478 - 2611 FAX 099 - 478 - 2900



首都圏交流拠点

東京リエゾンオフィス

東京リエゾンオフィスは、首都圏における活動、情報の収集および発信等を活発に行うため、平成16年12月に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター(CIC)内に設置された。

主に、鹿児島大学の各種情報(大学概要・広報誌等)の提供、入試情報(各学部・研究科案内および募集要項等)の提供、首都圏における学生の就職支援および企業との技術相談・共同研究等に関する連絡調整、各同窓会との連絡調整を行っている。

〒108 - 0023

東京都港区芝浦3丁目3番6号 キャンパス・イノベーションセンター(CIC)607号室

TEL・FAX:03 - 5440 - 9099 (CIC受付TEL03 - 5440 - 9020)

※現在スタッフは配置していない。



海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設は、鹿児島県伊佐郡(現伊佐市)出身の歴史小説家海音寺潮五郎氏のご遺族様より本学が寄贈を受けた世田谷区経堂の海音寺潮五郎記念館を、本学学生の首都圏における就職活動や学生及び教職員が教育・研究等を行う際の東京拠点(宿泊施設)として改修・整備し、平成27年8月から運用を開始した。

〒156 - 0052

東京都世田谷区経堂2 - 12 - 9



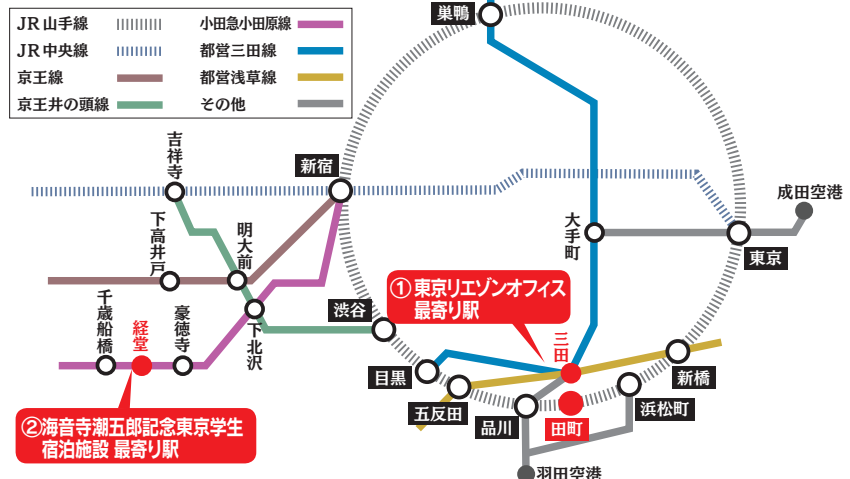
交通アクセス

①東京リエゾンオフィス

JR山手線・京浜東北線 田町駅下車 徒歩1分
都営三田線・浅草線 三田駅下車 徒歩5分

②海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

小田急線 経堂駅から約400m、徒歩約5分



郡元キャンパス

- 法文学部 理工学研究科
- 教育学部 司法政策研究科
- 理学部 臨床心理学研究科
- 工学部 連合農学研究科
- 農学部
- 共同獣医学部

- 1 北辰通り(大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稻盛通り(稻盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り(附属農場越しに校島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り(初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り(鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局・アドミッションセンター
- 3 保健管理センター
- 4 事務局車庫、埋蔵文化財調査センター
- 5 農・獣医共通棟(管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A(獣医学科実験研究室)
- 7 〃 研究棟 B(獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C(生物資源化学科実験研究室)
- 9 〃 研究棟 D
(生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E(生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 附属動物病院 大動物診療センター
- 12 軽種馬診療センター
- 13 焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)
- 14 農学部温室
- 15 農学部植物研究実験施設(温室)
- 16 〃 (硝子室)
- 17 農学部附属農場動物飼育棟
- 18 〃 附属農場実習棟
- 19 〃 低温貯蔵実験棟
- 20 〃 水理実験棟
- 21 〃 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟(獣医学科実験研究室・総合研究博物館等)
- 23 遺伝子実験施設
(研究支援センター)
- 24 アイソトープ実験施設(研究支援センター)
- 25 馬術部馬房
- 26 総合動物実験施設
- 27 連合農学研究科棟
- 28 総合研究博物館展示棟(常設展示室)
- 29 大学会館
- 30 中央食堂
- 31 産学官連携推進センター棟 1
(かごしま COC センター・地域防災教育研究センター)
- 32 産学官連携推進センター棟 2
- 33 学術情報基盤センター
- 34 変電所・総合研究博物館標本収蔵庫
- 35 工学部情報生体システム工学科棟
- 36 地域コトづくりセンター
- 37 工学部電気電子工学科棟
- 38 〃 建築学科棟 1号館・2号館



- 39 工学部環境化学プロセス工学科棟
- 40 〃 機械工学科第一実験棟
- 41 〃 機械工学科第二実験棟
- 42 〃 機械工学科第三実験棟
- 43 〃 機械工学科 2号棟
- 44 〃 機械工学科 1号棟
- 45 〃 化学生命工学科棟
- 46 〃 薬品庫
- 47 〃 海洋波動実験棟
- 48 稲盛会館
- 49 工学系講義棟
- 50 環境保全施設排水分析室(研究支援センター)
- 51 工学部海洋土木工学科棟
- 52 〃 共通棟
- 53 理工系総合研究棟
(研究支援センター・機器分析施設)
- 54 理学部 1号館(管理室・物理科学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 55 理学部 2号館(数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 56 理学部 3号館
(生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 57 総合研究博物館
- 58 共通教育棟 1号館(管理室・講義室・共通教育センター・就職支援センター・グローバルセンター・ボランティア支援センター・高等教育研究開発センター)
- 59 〃 2号館(文科研究室・講義室)
- 60 稲盛アカデミー棟
- 61 共通教育棟 3号館(理科研究室・講義室・実験室・放送大学視聴室)
- 62 〃 4号館(理科研究室・講義室・実験室)
- 63 附属図書館中央図書館
- 64 総合教育研究棟(国際島嶼教育研究センター・司法政策教育研究センター・臨床心理学研究科)
- 65 法文学部 1号館(管理・研究・講義棟)



- 66 法文学部 2 号館 (講義棟)
- 67 // 3 号館 (講義棟)
- 68 学生サークル会館 II - 1
- 69 屋内プール 50m
- 70 弓道場
- 71 学生サークル会館 II - 2
- 72 第一体育館
- 73 第二体育館
- 74 あおぞら保育園
- 75 教育学部体育科実験研究棟
- 76 // 武道館
- 77 郡元南食堂 (エデュカ)
- 78 教育学部管理棟・理系研究棟
- 79 // 実習棟
- 80 // 第一講義棟
- 81 // 第二講義棟 (アクティブラーニングプラザ)
- 82 // 生涯教育総合研究棟
- 83 // 文系研究棟
- 84 // 附属教育実践総合センター
- 85 // 音楽美術科棟
- 86 // 附属幼稚園
- 87 // 附属小学校
- 88 // 附属小学校家畜舎
- 89 // 附属小学校昆虫飼育棟
- 90 // 附属小学校体育館
- 91 // 附属中学校
- 92 // 附属中学校体育館
- 93 学習交流プラザ
- 94 学生サークル会館 I
- 95 附属動物病院 小動物診療センター



キャンパス

下荒田キャンパス

水産学部



- ① 水産学部1号館
- ② // 2号館
- ③ // 3号館
- ④ // 5号館
- ⑤ // 6号館
- (1F:食堂、2F:附属海洋資源環境教育研究センター)
- ⑥ 実験・実習支援棟
- ⑦ 水産学部4号館
- ⑧ 大型回流水槽実験棟
- ⑨ 変電室
- ⑩ 車庫・倉庫
- ⑪ 倉庫
- ⑫ サークル棟
- ⑬ 附属図書館水産学部分館
- ⑭ 国際交流会館(1号館)
- ⑮ // (2号館)
- ⑯ // (3号館)
- ⑰ 職員宿舎
- ⑱ 外国人研究者宿泊施設A
- ⑲ 外国人研究者宿泊施設B
- ⑳ 外国人研究者宿泊施設C

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

学生寮

唐湊3丁目



- ① 男子寄宿舎A棟
- ② // B棟
- ③ // C棟
- ④ 女子寄宿舎
- ⑤ 共用棟

●所在地一覽●

1 [事務 局]	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1 [法 文 学 部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1 [教 育 学 部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
1 附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
1 附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
1 附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属特別支援学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
1 附属教育実践総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
寺山自然教育研究施設	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
1 [理 工 学 研 究 科]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
附属南西島孤地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
1 附属地域コトづくりセンター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8487
1 [理 学 部・理 工 学 研 究 科 (理 学 系)]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
1 [工 学 部・理 工 学 研 究 科 (工 学 系)]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
1 [農 学 部]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1 附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
1 附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海瀨3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
1 附属焼酎・発酵学教育研究センター	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
3 [水 産 学 部]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
3 附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤瀧1620-3	☎0996(64)5013
附属海洋資源環境教育研究センター錦江湾ステーション	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目9	
1 [共 同 獣 医 学 部]	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1 附属動物病院	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
1 附属越境性動物疾病制御研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
2 [医 歯 学 総 合 研 究 科]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2 [医 学 部]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2 [歯 学 部]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2 [鹿 児 島 大 学 病 院]	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
霧島リハビリテーションセンター	〒899-6603	霧島市牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2538
1 [臨 床 心 理 学 研 究 科]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1 [連 合 農 学 研 究 科]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1 [附 属 図 書 館]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
2 桜ヶ丘分館	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
3 水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
1 [保 健 管 理 セ ン タ ー]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
1 [共 通 教 育 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
1 [稲 盛 ア カ デ ミ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
1 [高 等 教 育 研 究 開 発 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8826
1 [ア ド ミ ッ シ ョ ン セ ン タ ー]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7355
1 [グ ロー バ ル セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
1 [総 合 研 究 博 物 館]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
1 [国 際 島 嶼 教 育 研 究 セ ン タ ー]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
奄美分室	〒894-0032	奄美市名瀬柳町2番1号	☎0997(69)4852
1 [研 究 支 援 セ ン タ ー]	〒890-8520	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
2 動物実験施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
1 遺伝子実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
1 機器分析施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
1 アイソトープ実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3594
1 環境保全施設	〒890-8520	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8126
2 [難 治 ウ イ ル ス 病 態 制 御 研 究 セ ン タ ー]	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
1 [医 用 ミ ニ プ タ・先 端 医 療 開 発 研 究 セ ン タ ー]	〒890-8520	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
2 先端医療開発分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6357
2 臓器置換・異種移植外科分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
2 遺伝子発現制御分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5493
1 [か ご し ま C O C セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8502
1 [産 学 官 連 携 推 進 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
1 産学官連携部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
1 知的財産部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
1 事業化支援部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3630
1 COC+推進部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)6487
1 管理部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7106
1 [地 域 防 災 教 育 研 究 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7234
1 [学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
1 [埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
1 [司 法 政 策 教 育 研 究 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3905
1 [就 職 支 援 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
1 [ボ ラ ン テ ィ ア 支 援 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3146・3147
1 [障 害 学 生 支 援 セ ン タ ー]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3287
1 [稲 盛 会 館]	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
1 [大 学 会 館]	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
[学 生 寮]	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
3 [国 際 交 流 会 館 (1号館・2号館・3号館)]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
[外 国 人 研 究 員 等 宿 泊 施 設]	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
3 [外 国 人 研 究 者 宿 泊 施 設]	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
[北 米 教 育 研 究 セ ン タ ー]		San Francisco 28 2nd Street, Floor 3, San Francisco, 94105	アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ

※ 1: 郡元キャンパス、2: 桜ヶ丘キャンパス、3: 下荒田キャンパス

鹿児島大学学章



創立 50 周年を記念して制定された。
KAGOSHIMA の頭文字『K』をデザインしたものである。
今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

鹿児島大学 マスコットキャラクター

学内公募・投票により選ばれたマスコットキャラクター。桜島の噴火のように活発な学生生活を送り、薩摩の偉人たちのような素晴らしい才能を開花させることを願ってデザインされた。
名前は薩摩の「さつ」に西郷隆盛の愛犬「つん」をあわせて「さつっん」。



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さつっん



【編集・発行】 鹿児島大学 広報センター
〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854
URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

【発行日】 平成 29 年 6 月